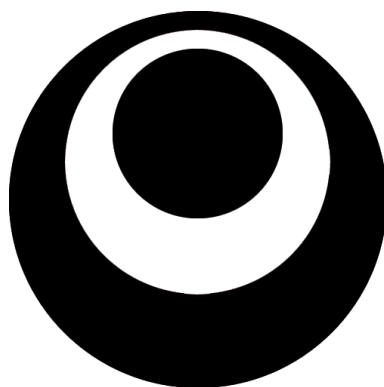


令和5年度

事業概要



沖縄県中央食肉衛生検査所
沖縄県北部食肉衛生検査所

はじめに

沖縄県食肉衛生検査所は 1974 年（昭和 49 年）4 月に設立され、このたび創立 50 周年という節目の年を迎えました。これまで、ご理解、ご協力を賜りました関係機関・団体、関係者各位に、深甚なる感謝を申し上げます。

さて、近年の国内の社会情勢は、新型コロナウイルス感染症による社会環境や経済活動への影響、気候変動に伴う自然災害の頻発化、人口減少・少子高齢化の課題、地政学的な緊張の高まり、物価上昇による社会的影響、デジタルトランスフォーメーション（DX）や人口知能（AI）の発展によるデジタル化社会の進展など、めまぐるしく変化し、将来の変化を予測することが困難な時代であると言われてい

ます。また、近年の食肉衛生行政を取り巻く動向については、牛海綿状脳症（BSE）の国内対策の見直し、アニマルウェルフェアに配慮した家畜の取扱い、食鳥肉におけるカンピロバクター汚染の低減策への課題、HACCP に沿った衛生管理の制度化など、関係法令の改正や国からの通知により業務のあり方や進め方の変遷がありました。

特に、HACCP に沿った衛生管理の制度化については、本格施行から 3 年が経過し、と畜場や食鳥処理場において、着実に衛生意識の向上や安全性管理の強化が図られています。

次に、国内の家畜衛生に関しては、豚熱の散発的な発生や高病原性鳥インフルエンザの頻発的な発生が確認されています。当県においても 2020 年（令和 2 年）、33 年ぶりとなる豚熱の発生や 2022 年（令和 4 年）、県内初となる養鶏場での高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。

改めて、家畜保健衛生所をはじめ関係機関と緊密に連携を図り、各種家畜伝染病の発生時に備え、より一層、体制の整備を構築していく所存であります。

このような社会情勢の変遷や関連法令等による制度の変革においても、安全で衛生的な食肉・食鳥肉を確保し、安心して消費者に提供できるよう努めていくことが食肉衛生検査所の使命であります。

今後とも、最新の科学的知見や社会情勢の動向を注視し、検査員の知識の習得、検査技術・精度の向上を図り、科学的データに基づいたと畜検査、食鳥検査を実施し、関係機関と連携を図りながら、食肉衛生行政の推進に努めて参ります。

ここに、創立 50 周年の節目を迎えるにあたり、令和 5 年度事業概要刊行とともに過去 50 年間の統計をとりまとめましたので、ご高覧いただければ幸いです。

令和 6 年 8 月

沖縄県中央食肉衛生検査所
所長 大城 哲也

沖縄県北部食肉衛生検査所
所長 新垣 衡

凡 例

- ・「とく」は生後1年未満の牛、「こま」は生後1年未満の馬を表す
- ・表の空白部分は「0(ゼロ)」を表す

目 次

第1章	食肉衛生検査所	
1	沿革	3
2	食肉衛生検査所・と畜場・食鳥処理場の所在地	5
3	組織及び機構	6
4	職員構成	6
5	沖縄県行政組織規則(抜粋)	7
6	沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則(抜粋)	8
7	事務分掌	10
8	歳入・歳出	12
9	食肉衛生検査所庁舎の平面図	13
10	主な検査機械器具(備品)	15
第2章	検査業務	
I	と畜検査業務	
1	概要	19
2	検査統計	
(1)	と畜検査頭数及び獣畜のとさつ解体禁止又は廃棄したものの原因	20
(2)	月別と畜検査頭数	22
(3)	月別とさつ禁止頭数	22
(4)	月別全部廃棄頭数	23
(5)	畜種別の一部廃棄数	24
(6)	病畜の疾病内訳頭数	26
(7)	と畜検査頭数の推移	27
(8)	とさつ禁止頭数の推移	27
(9)	全部廃棄頭数の推移	28
(10)	開場日数及び検査延べ人数	29
(11)	衛生講習会	29
(12)	衛生監視	29
(13)	と畜検査データの還元	30
II	食鳥検査業務	
1	概要	31
2	検査統計	
(1)	食鳥検査羽数及び食鳥のとさつ内臓摘出禁止又は廃棄したものの原因	32
(2)	月別食鳥検査羽数及び廃棄羽数	32
(3)	食鳥検査羽数の推移	33
(4)	開場日数及び検査延べ人数	33
(5)	衛生講習会	33
(6)	衛生監視	33

(7) 認定小規模食鳥処理場	34
----------------	----

III 精密検査業務

1 概要

(1) 保留獣畜の精密検査件数及び検査結果	35
-----------------------	----

(2) 伝達性海綿状脳症(TSE)の検査件数	36
------------------------	----

2 微生物検査

(1) 保留獣畜の精密検査件数	37
-----------------	----

(2) 検査施設における信頼性確保	37
-------------------	----

3 病理・寄生虫検査

(1) 保留獣畜の精密検査件数	38
-----------------	----

(2) 病理組織学的検査件数	38
----------------	----

4 理化学検査

(1) 残留有害物質モニタリング検査(厚生労働省通知モニタリング検査)	41
-------------------------------------	----

(2) 残留抗菌性物質モニタリング検査	42
---------------------	----

(3) 保留獣畜の精密検査件数	42
-----------------	----

(4) 検査施設における信頼性確保	42
-------------------	----

(5) GLP	43
---------	----

第3章 研修・調査研究

1 研修及び講習会	47
-----------	----

2 調査研究	49
--------	----

第4章 その他

1 と畜場及び食鳥処理場一覧

(1) と畜場	57
---------	----

(2) 食鳥処理場	57
-----------	----

(3) 認定小規模食鳥処理場	58
----------------	----

2 使用料、解体料及び手数料一覧

(1) と畜場の使用料及びとさつ解体料	58
---------------------	----

(2) と畜関係手数料	59
-------------	----

(3) 食鳥関係手数料	59
-------------	----

(4) 検査手数料の推移	59
--------------	----

3 沖縄県全体のと畜検査統計

(1) と畜場別のと畜検査頭数	60
-----------------	----

(2) と畜検査頭数の推移	60
---------------	----

(3) と畜検査頭数 及び 獣畜のとさつ禁止又は廃棄したものの原因	61
-----------------------------------	----

統計資料（食肉衛生検査所創立50周年）

1. と畜検査等50年間の推移（統計）	
(1) と畜検査頭数の推移	65
(2) 50年間のとさつ禁止頭数	70
(3) 50年間の全部廃棄頭数	74
(4) 32年間の食鳥検査羽数	80
2. 調査研究50年間の発表状況	82
3. 歴代所長名	95

第 1 章 食肉衛生検査所

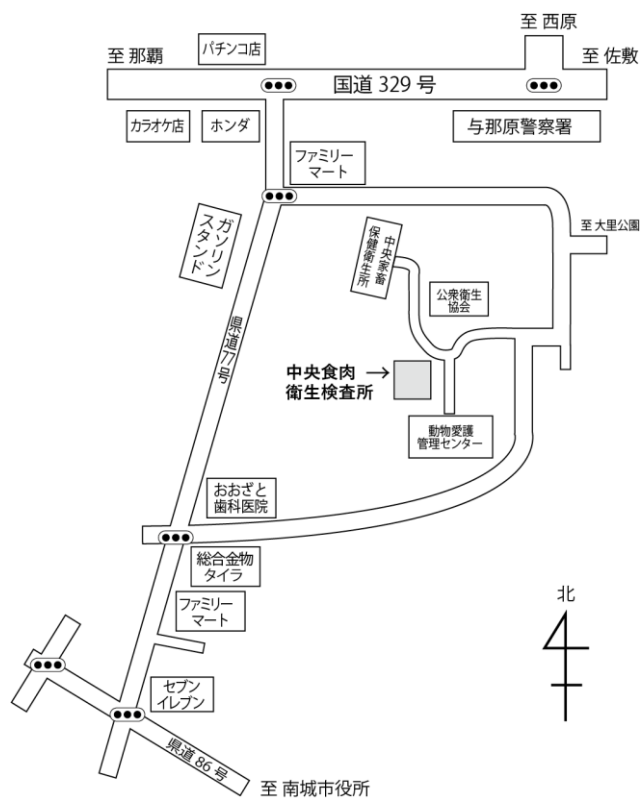
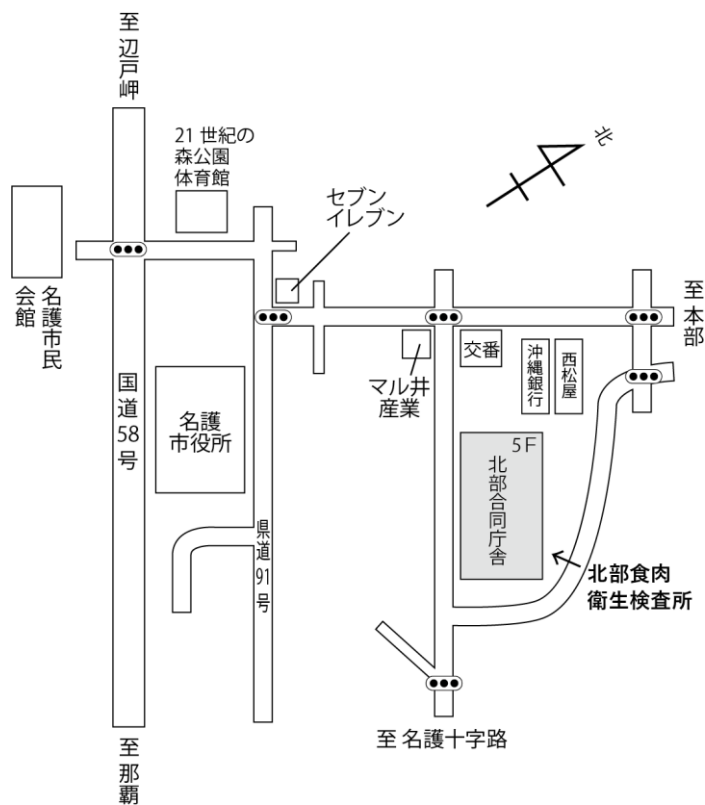
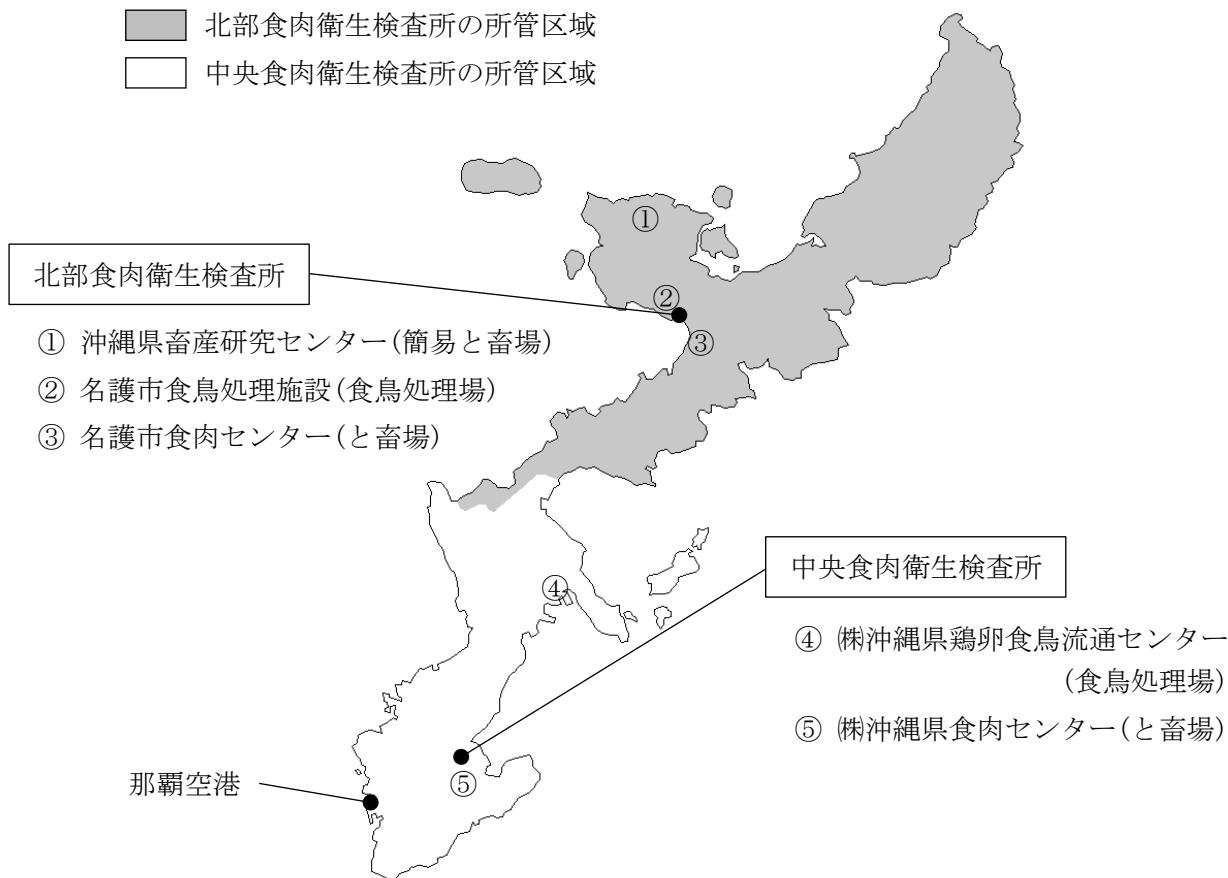
1 沿革

昭和 44 年 07 月	と畜場法に基づく食肉衛生行政を琉球政府農林局畜産課から厚生局公衆衛生課に移管
昭和 47 年 07 月	32 ヲ所のと畜場設置者に対しと畜場の構造・設備の改善を勧告
昭和 48 年 05 月	32 ヲ所のと畜場を 12 ヲ所に整理統合
昭和 49 年 04 月	沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所を那覇市曙に設置し、各保健所(名護・宮古・八重山を除く)で所管していたと畜検査業務を集中統合
昭和 49 年 06 月	沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所北部支所を設置
昭和 54 年 03 月	沖縄県食肉衛生検査所を大里村大里 2015 番地に移転
昭和 55 年 04 月	(株)沖縄県南部食肉センターが(株)沖縄県食肉センターへ統合
昭和 57 年 03 月	沖縄県食肉衛生検査所北部支所を名護市宇世富慶 923 番地に移転
昭和 60 年 04 月	(株)那覇ミートが(株)沖縄県食肉センターへ統合 沖縄県食肉衛生検査所が 2 課制から 4 課制(検査 1~4 課)となる
昭和 63 年 09 月 30 日	北部食肉センター(株)が廃業し、沖縄県協同食肉(株)として発足
平成 02 年 12 月 04 日	国道 329 号線道路改修のため沖縄県食肉衛生検査所北部支所を名護市名護 1453 番地に移転
平成 04 年 04 月 01 日	食鳥検査が開始され、沖縄食鶏加工(株)、(株)沖縄県鶏卵食鳥流通センター、中央食品加工(株)、沖縄畜産(株)の 4 食鳥処理場が検査対象施設となる
平成 05 年 07 月 01 日	(株)沖縄県鶏卵食鳥流通センターが処理羽数の減少のため認定小規模食鳥処理場となる
平成 05 年 10 月 27 日	沖縄県食肉衛生検査所北部支所を沖縄県北部合同庁舎へ移転
平成 06 年 04 月 01 日	沖縄県行政組織規則により沖縄県食肉衛生検査所を沖縄県中央食肉衛生検査所として、沖縄県食肉衛生検査所北部支所を沖縄県北部食肉衛生検査所として設置、沖縄県北部食肉衛生検査所が 2 課制(検査第 1~2 課)となる
平成 07 年 09 月 29 日	沖縄県協同食肉(株)が廃業し、(株)沖縄県食肉センター名護分工場として発足
平成 09 年 04 月 14 日	沖縄畜産工業(株)がと畜場を廃止し、同月 15 日に中部食肉センター(株)へ統合
平成 09 年 05 月 17 日	沖縄畜産(株)が食鳥処理場を廃止
平成 10 年 04 月 01 日	(株)沖縄県鶏卵食鳥流通センターが食鳥検査対象の食鳥処理場となる
平成 12 年 03 月 31 日	(株)沖縄県食肉センター名護分工場が大動物処理施設を廃止
平成 13 年 02 月 28 日	(株)沖縄県食肉センター名護分工場が小動物処理施設を廃止
平成 13 年 03 月 27 日	(株)真玉橋食肉センターが廃業 沖縄県中央食肉衛生検査所が 4 課制から 3 課制となる
平成 13 年 10 月 18 日	牛海綿状脳症(BSE)全頭検査開始
平成 14 年 04 月 30 日	(株)沖縄県食肉センターが山羊処理施設を廃止
平成 15 年 02 月 12 日	(株)沖縄県食肉センターに新しい牛のとさつ解体処理施設が完成
平成 15 年 04 月 01 日	名護市食肉センターが操業開始 沖縄県中央食肉衛生検査所の検査第 3 課が精密検査課となる
平成 15 年 04 月 30 日	中部食肉センター(株)がと畜場を廃止

- 平成 17 年 10 月 01 日 山羊の伝達性海綿状脳症(TSE)全頭検査開始
- 平成 18 年 04 月 01 日 沖縄県行政組織規則により課制を班制とし、沖縄県中央食肉衛生検査所は 3 班、沖縄県北部食肉衛生検査所は班なしとする
- 平成 23 年 05 月 26 日 (株)沖縄県食肉センターに新しい豚・山羊・めん羊のとさつ解体処理施設が完成
- 平成 25 年 07 月 01 日 牛海綿状脳症(BSE)検査対象牛が 48 ヶ月齢超になる
- 平成 26 年 09 月 12 日 沖縄県中央食肉衛生検査所を改築
- 平成 28 年 06 月 01 日 健康山羊の伝達性海綿状脳症(TSE)検査の廃止
- 平成 29 年 04 月 01 日 健康牛の牛海綿状脳症(BSE)検査の廃止
- 令和 元年 07 月 12 日 沖縄食鶏加工(株)と(有)中央食品加工が食鳥処理部門の協業体として沖縄県食鳥処理協業組合を発足させて名護市食鳥処理施設を新築し、同月 16 日から操業開始
- 令和 元年 07 月 20 日 (有)中央食品加工が食鳥処理場(名護市許田)を廃止
- 令和 元年 08 月 01 日 沖縄食鶏加工(株)が食鳥処理場(豊見城市長堂)を廃止
- 令和 02 年 04 月 01 日 食肉及び食鳥肉の輸出に係る衛生証明書の発行業務を開始
- 令和 03 年 06 月 01 日 と畜場及び食鳥処理場の HACCP に基づく衛生管理が開始される

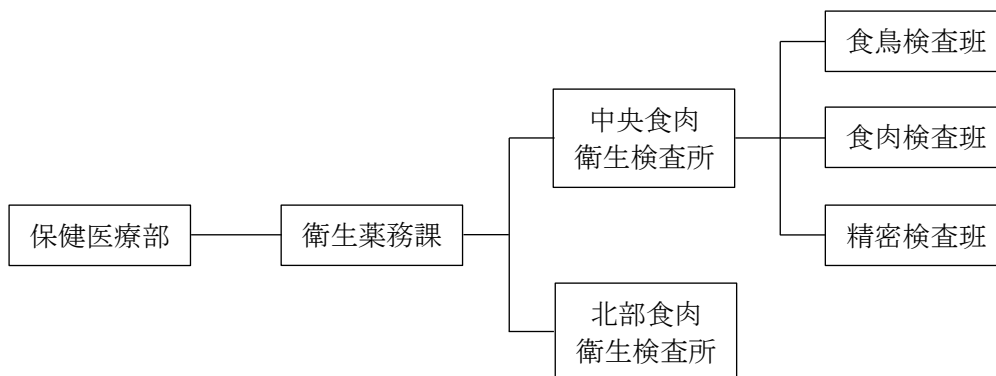
2 食肉衛生検査所・と畜場・食鳥処理場の所在地

- 北部食肉衛生検査所の所管区域
- 中央食肉衛生検査所の所管区域



3 組織及び機構

令和5年度



4 職員構成 (令和5年4月1日時点)

	中央食肉衛生検査所					北部食肉衛生検査所
	所長	食鳥検査班	食肉検査班	精密検査班	合計	(班なし)
所長(技術)	1				1	1
副所長(技術)						1
班長(技術)		1	1	1	3	
主幹(技術)			1		1	1
主査(事務)		2			2	1
主任技師(技術)		2	8	3	14	7
主任(技術)			5(2)	1	5	2(1)
技師(技術)			2	2	4	2
合計	1	5	17(2)	7	30	15(1)
嘱託職員		2	6		8	8

()内は育休中職員数(内数)

5 沖縄県行政組織規則(抜粋) (令和5年4月1日時点)

第3章 出先機関

第5節の2 保健医療部関係出先機関

第5款 食肉衛生検査所

(設置、名称、位置及び所管区域)

第162条 食肉衛生の向上を図るため、食肉衛生検査所を設置する。

2 食肉衛生検査所の名称、位置及び所管区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	所 管 区 域
沖縄県 中央食肉衛生検査所	南城市	宜野湾市 浦添市 糸満市 沖縄市 豊見城市 うるま市 南城市 中頭郡 島尻郡 (伊平屋村、 伊是名村及び久米島町を除く。)
沖縄県 北部食肉衛生検査所	名護市	名護市 国頭郡 島尻郡伊平屋村及び伊是名村

(内部組織)

第163条 中央食肉衛生検査所の内部組織は、次のとおりとする。

名 称	内 部 組 織
沖縄県中央食肉衛生検査所	食鳥検査班 食肉検査班 精密検査班

(所掌事務)

第164条 食肉衛生検査所の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 獣畜のとさつ及び解体に関する検査並びに食鳥の検査に関すること。
- (2) 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の検査及び試験研究に関すること。
- (3) と畜場及び食鳥処理場並びにこれらの附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- (4) 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- (5) 庶務に関すること。

6 沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び 決裁に関する規則(抜粋) (令和5年4月1日時点)

(委任)

第3条 知事は、別表第1及び別表第2の所長等の欄に掲げる所長等に委任事項の欄に掲げる事務を委任する。

別表第2

食肉衛生検査所長 委任事項

- 1 と畜場法(昭和28年法律第114号)第13条第1項第1号の規定に基づき、とさつの届出を受理すること。
- 2 と畜場法第13条第3項の規定に基づき、とさつ又は解体場所、肉、内臓等の取扱方法及び汚物の処理方法を指示すること。
- 3 と畜場法第14条第1項から第3項(同条第4項において準用する場合を含む。)までの規定に基づき、獣畜のとさつ又は解体の検査をすること。
- 4 と畜場法第14条第3項第2号(同条第4項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、獣畜の皮等の持ち出しを許可すること。
- 5 と畜場法第16条の規定に基づき、公衆衛生上必要な措置をとること。
- 6 と畜場法第17条第1項の規定に基づき、必要な報告をさせ、又は措置の実施状況について立入検査をさせること。
- 7 と畜場法第18条第2項の規定に基づき、とさつ若しくは解体の業務の停止を命じ、又はとさつ若しくは解体を禁止すること。
- 8 と畜場法施行令(昭和28年政令第216号)第4条第2号の規定に基づき、とさつを許可すること。
- 9 食鳥処理法第9条の規定に基づき、食鳥処理場の整備改善、当該食鳥処理場の全部若しくは一部の使用の禁止又は当該食鳥処理の事業の全部若しくは一部の停止を命ずること。
- 10 食鳥処理法第12条第6項の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者届又は食鳥処理衛生管理者変更届を受理すること。
- 11 食鳥処理法第13条の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者の解任を命ずること。
- 12 食鳥処理法第15条第1項の規定に基づき、食鳥の生体検査を行うこと。
- 13 食鳥処理法第15条第2項の規定に基づき、食鳥の脱羽後検査を行うこと。
- 14 食鳥処理法第15条第3項の規定に基づき、食鳥の内臓摘出後検査を行うこと。
- 15 食鳥処理法第16条第6項の規定に基づき、食鳥処理衛生管理者の解任を命ずること。
- 16 食鳥処理法第16条第7項の規定に基づき、確認状況報告を受理すること。
- 17 食鳥処理法第16条第9項の規定に基づき、認定小規模食鳥処理業者に対し、技術的な指導及び助言を行うこと。
- 18 食鳥処理法第17条第4号の規定に基づき、届出食肉販売業届を受理すること。
- 19 食鳥処理法第20条の規定に基づき、公衆衛生上必要な措置をとること。
- 20 食鳥処理法第37条第1項の規定に基づき、食鳥処理業者等から業務の状況に関し報告を

徴収すること。

- 21 食鳥処理法第 38 条第 1 項の規定に基づき、食鳥処理場等の施設に立ち入り、設備等を検査し、関係者に質問し、食鳥とたい等の一部を収去すること。
- 22 食品衛生法第 28 条第 1 項の規定に基づき、営業を行う者その他の関係者から必要な報告を求め、又は営業の場所等について臨検検査させ、又は食品等を収去させること（と畜場及び食鳥処理場並びにこれらの附属施設内における食肉及び食鳥肉に係るものに限る。）。
- 23 食品衛生法第 30 条第 2 項の規定に基づき、営業の施設等について監視指導を行わせること（と畜場及び食鳥処理場並びにこれらの附属施設内における食肉及び食鳥肉に係るものに限る。）。
- 24 食品衛生法第 59 条第 1 項の規定に基づき、食品、添加物、器具又は容器包装の廃棄を命ずること（と畜場内における食肉及び食鳥処理場内における食鳥肉に係るものに限る。）。
- 25 食品衛生法第 59 条第 1 項の規定に基づき、食品、添加物、器具又は容器包装の食品衛生上の危害を防止するための必要な処置（廃棄を除く。）をとることを命ずること（と畜場及び食鳥処理場並びにこれらの附属施設内における食肉及び食鳥肉に係るものに限る。）。
- 26 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律第 15 条第 2 項の規定に基づき、食品に係る輸出証明書（と畜場及びその附属施設において製造され、又は加工された食肉並びに食鳥処理場及びその附属施設において製造され、又は加工された食鳥肉に係る衛生証明書に限る。）を発行すること。
- 27 農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律第 38 条第 2 項の規定に基づき、と畜場及びその附属施設において製造され、又は加工された食肉並びに食鳥処理場及びその附属施設において製造され、又は加工された食鳥肉に係る衛生証明書の発行を受けた者等に対し、必要な報告若しくは物件の提出を求め、又は職員に事業所等に立ち入り、物件を調査させ、若しくは関係者に質問させること。

7 事務分掌(令和5年4月1日時点)

(1) 中央食肉衛生検査所

食鳥検査班

- 1 庶務、会計及び職員の福利に関すること。
- 2 庁舎管理及び財産(物品)に関すること。
- 3 と畜検査及び食鳥検査業務の企画調整に関すること。
- 4 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- 5 と畜検査及び食鳥検査の衛生統計、情報処理、事業文書処理に関すること。
- 6 食鳥処理場並びにその附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- 7 食鳥処理場の変更届等の事務に関すること。
- 8 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 9 と畜検査及び食鳥検査の技術研修に関すること。
- 10 その他、他班に属さない事務に関すること。

食肉検査班

- 1 獣畜のとさつ又は解体に関する検査に関すること。
- 2 と畜場並びにその附属施設の衛生保持の指導監督に関すること。
- 3 人獣共通伝染病の調査に関すること。
- 4 食肉衛生に関すること。
- 5 衛生指導教育に関すること。
- 6 伝達性海綿状脳症(TSE(牛海綿状脳症 BSE))の検査に関すること。
- 7 と畜場の変更届等事務に関すること。
- 8 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 9 その他、班の業務に関すること。

精密検査班

- 1 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の精密検査に関すること。
- 2 獣畜及び食鳥の肉、内臓等の試験研究に関すること。
- 3 と畜検査の衛生統計、情報処理、事業文書処理に関すること。
- 4 試験検査の精度管理に関すること。
- 5 衛生指導教育に関すること。
- 6 食肉衛生に関すること。
- 7 獣畜のとさつ又は解体に関する検査及び食鳥の検査に関すること。
- 8 伝達性海綿状脳症(TSE(牛海綿状脳症 BSE))の検査に関すること。
- 9 関係機関及び関係団体との連絡調整に関すること。
- 10 その他、班の業務に関すること。

(2) 北部食肉衛生検査所

食鳥検査

- 1 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律第 15 条に基づく食鳥の検査。
- 2 疾病名確定のための微生物検査。
- 3 疾病名確定のための理化学検査。
- 4 疾病名確定のための病理学検査。
- 5 認定小規模食鳥処理場の立入検査及び衛生指導。
- 6 食鳥処理場の衛生管理指導及び従業員への衛生教育。
- 7 食品衛生法第 28 条に基づく食鳥肉の収去検査。
- 8 食鳥処理場の変更届等の審査等に関すること。
- 9 食鳥検査にかかる事務処理(処分命令書の交付、病歴等のデータベース策定等)。

と畜検査

- 1 と畜場法第 14 条に基づき、と畜場で実施する獣畜のとさつ及び解体時の検査。
- 2 疾病名確定のための微生物検査。
- 3 疾病名確定のための理化学検査。
- 4 疾病名確定のための病理学検査。
- 5 伝達性海綿状脳症(TSE)検査に関すること。
- 6 食品衛生法第 28 条に基づく食肉の収去検査。
- 7 と畜場の施設管理指導及び従業員への衛生教育。
- 8 と畜場の変更届等の審査に関すること。
- 9 関係機関及び関係団体等との連絡調整に関すること。
- 10 と畜検査にかかる事務処理(措置命令書の交付、病歴等のデータベース策定等)。

精密検査

- 1 上記食鳥検査及びと畜検査の 2、3、4 の検査に係る補助業務(培地作成、測定機器の整備等)。
- 2 と畜検査及び食鳥検査の技術研修に関すること。
- 3 検査に関連する疾病の調査研究に関すること。
- 4 危機管理(高病原性鳥インフルエンザ、口蹄疫等)対応に関すること。
- 5 関係機関(農林水産部局、国等)との連絡調整に関すること。

8 歳入・歳出

(1) 歳入

(円)

費目	機関	前年度決算額	決算額	内訳 (頭又は羽)				
と畜検査手数料	中央	62,218,800	59,906,000	牛	とく・こま	馬	豚	山羊・めん羊
	北部	32,604,300	30,418,600	2,101	1	10	194,541	1,381
	計	94,823,100	90,324,600	44			100,718	884
食鳥検査手数料	中央	1,648,707	1,591,124	平日(3円/羽)		時間外・休日(4円/羽)		
	北部	12,375,064	12,729,966	389,948		105,320		
	計	14,023,771	14,321,090	2,802,674		1,080,486		
証明書発行手数料	中央	4,800	4,800	400円×12件				
合計		108,851,671	104,650,490					

(2) 歳出

(円)

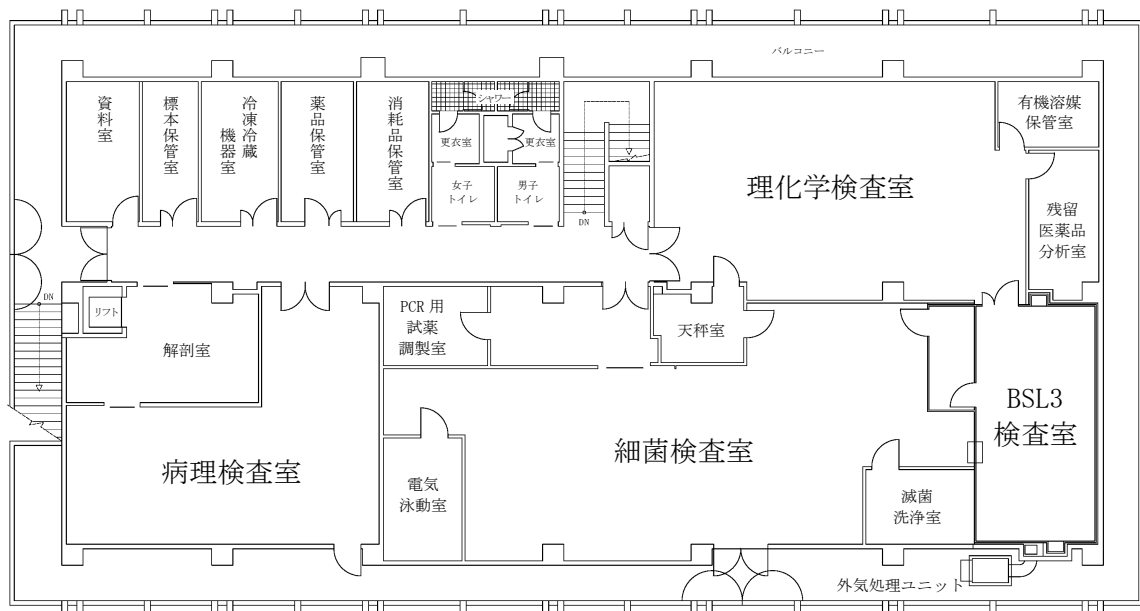
費目 (食品衛生指導費※)	中央食肉衛生検査所		北部食肉衛生検査所	
	令達予算額	決算額	令達予算額	決算額
報酬	14,973,000	14,952,775	14,325,000	14,293,852
共済費	3,748,000	1,826,305	24,074,000	1,162,283
旅費	3,870,000	3,571,337	3,334,530	2,751,950
需用費	14,384,000	13,906,964	4,861,000	4,132,598
役務費	7,286,000	6,834,476	4,612,000	4,068,917
委託料	6,401,000	5,123,360	343,000	35,288
使用料及び賃借料	4,714,000	4,707,511	2,540,000	2,483,098
備品購入費	1,504,000	2,778,600	84,000	83,600
負担金、補助及び交付金	138,000	110,020	42,380	42,380
公課費	25,000	24,600	38,000	37,800
合計	57,043,000	53,835,948	54,253,910	29,091,766

※給料、職員手当等及び正職員の共済費は除く

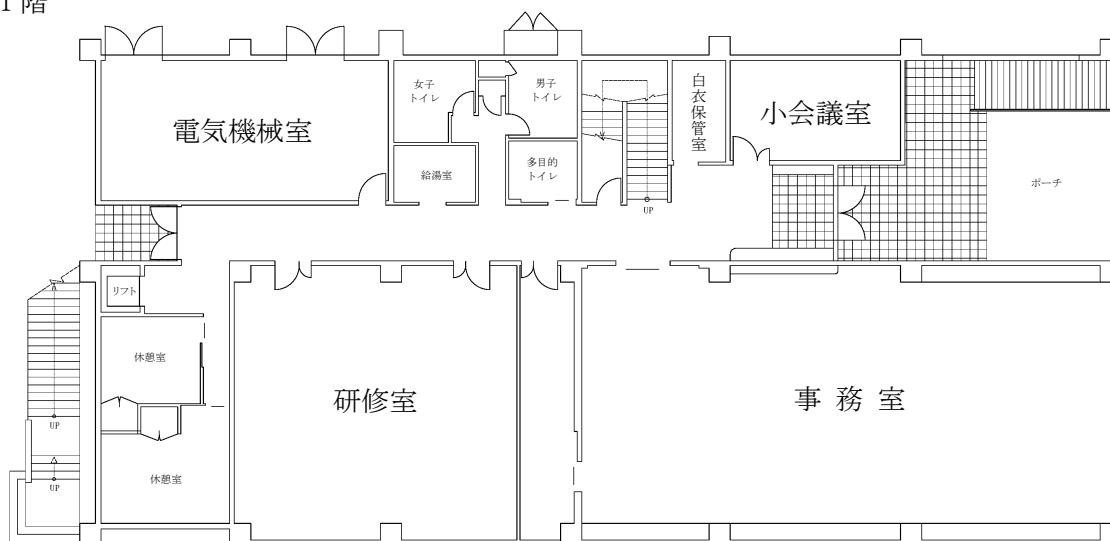
9 食肉衛生検査所庁舎の平面図

(1) 中央食肉衛生検査所

2階

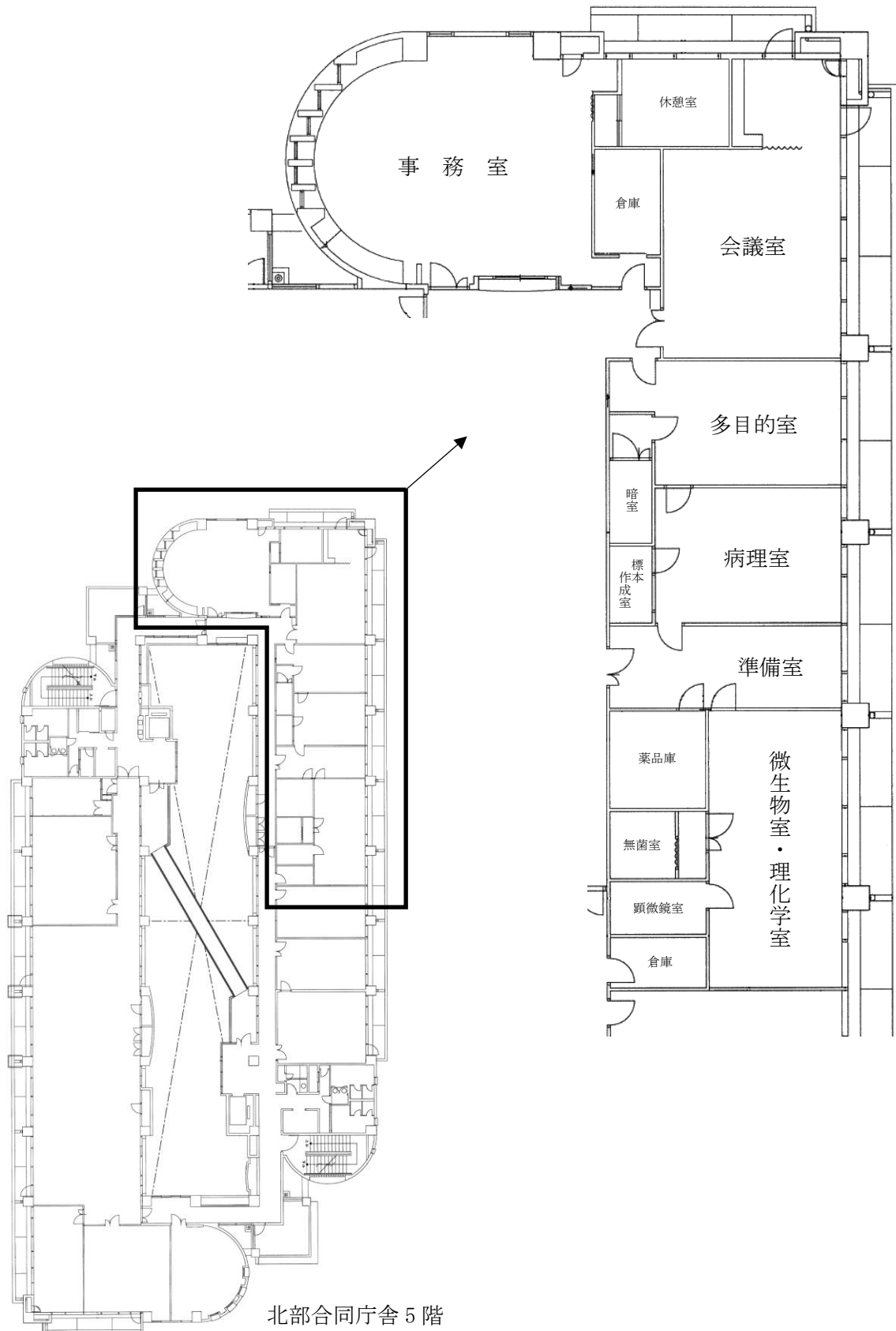


1階



構造	鉄筋コンクリート造・2階建
総工費	449,526,660円
敷地面積	2,463 m ²
延床面積	1,018 m ²
1階	479 m ²
2階	539 m ²

(2) 北部食肉衛生検査所



10 主な検査機械器具(備品)

(1) 中央食肉衛生検査所

微生物関係・TSE 関係

No.	品名	数量
1	遠心分離機	13
2	光学顕微鏡	1
3	ディスカッション顕微鏡	1
4	生体顕微鏡デジタルカメラシステム	1
5	電気冷蔵庫	6
6	フリーザー	6
7	ディープフリーザー	3
8	製氷機	1
9	純水製造装置	1
10	サーマルサイクラ	2
11	リアルタイムPCR装置	1
12	電気泳動装置	4
13	ゲル撮影装置	1
14	インキュベーター	10
15	電気低温乾燥機	1

No.	品名	数量
16	高圧蒸気滅菌器	5
17	電子天秤	6
18	ストマッカー	4
19	クリーンベンチ	1
20	バイオハザード対策用セーフティキャビネット	2
21	菌液調整用濁度計	1
22	振とう恒温槽	1
23	ウォーターバス	1
24	超音波洗浄機	1
25	ヒートブロック	4
26	マイクロプレートリーダー	1
27	マイクロプレートウォッシャー	1
28	多検体細胞破碎機マルチビーズショッカー	1
29	ビーズ式破碎装置	1
30	低湿保管庫	1

病理関係

No.	品名	数量
1	蛍光装置	2
2	光学顕微鏡	2
3	ディスカッション顕微鏡	1
4	実体顕微鏡	1
5	透過性ノマルスキー型微分干渉顕微鏡	1
6	顕微鏡用デジタルカメラ	1
7	SL写真撮影装置	1
8	完全密閉式包埋装置	1
9	パラフィン包埋ブロック作成装置	1
10	臓器用写真撮影装置(一眼レフ)	1

No.	品名	数量
11	パラフィン溶融器	1
12	パラフィン伸展器	2
13	ロータリーマイクロトーム	2
14	組織固定用振とう器	1
15	ドラフトチャンバー	1
16	ラミナーテーブル	1
17	薬用保冷庫	1
18	ドライキャビネット	2
19	電子天秤	1

理化学関係

No.	品名	数量
1	乾熱滅菌器	1
2	赤外線水分計	1
3	ホモジナイザー	3
4	アスピレーター	2
5	ウォーターバス	3
6	電子天秤	2
7	生化学検査機器 スポットケム	1
8	高速液体クロマトグラフ	1
9	恒温振とう培養器	1
10	血球分類計算機	1
11	インキュベーター	4
12	フリーザー	2
13	超音波洗浄機	2
14	超音波ピペット洗浄機	1

No.	品名	数量
15	バーチカルシェーカー	1
16	ロータリーエバポレーター	3
17	マイクロチューブポンプ	1
18	冷却水循環装置	3
19	ヴァックエルートVシステム	1
20	ドラフトチャンバー	1
21	遠心分離機	1
22	ヘマトクリット遠心機	1
23	pHメーター	1
24	デシケーター	1
25	電気冷蔵庫	2
26	ディープフリーザー	2
27	ダイヤフラム真空ポンプ	3

(2) 北部食肉衛生検査所

微生物関係

No.	品名	数量
1	顕微鏡	3
2	実体顕微鏡	2
3	恒温培養器	8
4	恒温槽	3
5	コロニーカウンター	2
6	遠心分離機	4
7	クリーンベンチ	1
8	ゲル撮影装置	2
9	菌液調整用濁度計	1
10	サーマルサイクラー	2
11	電気泳動槽	3
12	自動細菌同定装置	1
13	高圧蒸気滅菌器	2

No.	品名	数量
14	電子天秤	2
15	混合器	6
16	真空ポンプ	1
17	試料採取・計量器	4
18	冷凍・冷蔵庫	3
19	オートウォッシャー	1
20	振とう器	1
21	食品検査器	2
22	デシケーター	1
23	かくはん機	2
24	蛍光顕微鏡	1
25	冷光照明システム	1

病理関係

No.	品名	数量
1	顕微鏡	1
2	蛍光顕微鏡	2
3	顕微鏡写真撮影装置	2
4	マルチディスクカッション顕微鏡	1
5	完全密閉式包埋装置	1
6	パラフィン溶融器	1
7	パラフィン包埋ブロック作成装置	1
8	パラフィン伸展器	1
9	マイクロトーム	1

No.	品名	数量
10	かくはん機	2
11	卓上型ヒュームフード	1
12	ラミナーテーブル	1
13	臓器写真撮影装置	2
14	冷凍・冷蔵庫	1
15	一眼レフカメラ及びDXフォーマット用レンズ	2
16	振とう器	1

理化学関係

No.	品名	数量
1	血液化学自動分析機	1
2	遠心分離機	1
3	全自動血球計数器	1
4	恒温培養器	1
5	pH計	2
6	かくはん機	1
7	標準比重計	1

No.	品名	数量
8	ホモジナイザー	1
9	冷蔵・冷凍庫	3
10	フリーザー	1
11	ピペット洗浄機	1
12	超音波洗浄器	1
13	測定用記録装置	1
14	水銀ゼロ棒状標準温度計	4

共用

No.	品名	数量
1	コンパクトデジタルカメラ	5
2	製氷機	1
3	純水製造装置	1

No.	品名	数量
4	破氷器	1
5	フリーザー	1
6	デシケーター	2

第2章 検査業務

I と畜検査業務

1 概要

(1) と畜検査頭数

令和5年度の中央食肉衛生検査所及び北部食肉衛生検査所における全検査等数は299,705頭(前年度比4.8%減)であり、内訳は牛2,171頭(3.7%増)、馬10頭(47.4%減)、豚295,259頭(4.8%減)、めん羊0頭(前年度0頭)、山羊2,265頭(18.4%減)であった。

病畜は658頭(全検査頭数の0.2%)であり、内訳は牛128頭、馬0頭、豚509頭、めん羊0頭、山羊21頭であった。

(2) と畜検査結果に基づく措置

① とさつ禁止

とさつ禁止頭数は5頭(前年度6頭)であり、内訳は牛0頭、馬0頭、豚5頭、めん羊0頭、山羊0頭であった。

② 全部廃棄

全部廃棄頭数は225頭(前年度225頭)であり、内訳は牛16頭、馬0頭、豚206頭、めん羊0頭、山羊3頭であった。

③ 一部廃棄

一部廃棄実頭数は224,674頭であり、内訳は牛1,465頭、馬7頭、豚222,013頭、めん羊0頭、山羊1,189頭であった。

(3) と畜場の衛生指導・衛生教育

と畜場のHACCPによる衛生管理について外部検証機関として記録検査(月1回)、現場検査(毎日)及び微生物検査(月1回)を行い、加えて沖縄県食品衛生監視指導計画に基づき施設の構造設備基準の監視(月1回)を行った。

また、沖縄県食品(食肉)衛生月間実施要領に基づき8月を食肉衛生月間と位置づけ、食肉運搬車両の衛生指導、と畜業者等への衛生講習会及びと畜場附属の食肉処理業施設の監視指導を行った。

(4) と畜検査データの還元

疾病発生予防のため、申請があった生産者等にと畜検査結果を提供した。

2 検査統計

(1) と畜検査頭数 及び 獣畜のとさつ解体禁止又は廃棄したもの の原因

中央食肉衛生検査所

と畜検査頭数 〔生体検査後死亡〕 (とさつ頭数)	処分内容	処分実頭数	細菌病					原虫病		寄生虫病		その他の疾病							合計		
			豚丹毒	サルモネラ症	放線菌病	ヨーネ病	豚赤痢	トキソプラズマ症	その他	ジストマ病	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	炎症又は炎症産物による汚染		変性又は萎縮	その他
合計 198,059 〔14〕 (198,040)	禁止	5	5																	5	
	全部廃棄	146	9	21				13	1			51	26	3	1	2	7		1	11	146
	一部廃棄	133,385			2					40	289				252	22	129,667	3,442	7,902	141,623	
牛 2,125 〔2〕 (2,123)	禁止																				
	全部廃棄	14									2	1				1				10	14
	一部廃棄	1,433			2					40	120				38	5	1,096	186	521	2,008	
とく 2 〔0〕 (2)	禁止																				
	全部廃棄																				
	一部廃棄																				
馬 10 〔0〕 (10)	禁止																				
	全部廃棄																				
	一部廃棄	7																7		7	
豚 194,541 〔11〕 (194,525)	禁止	5	5																		5
	全部廃棄	131	9	21				13	1			48	25	3	1	2	6		1	1	131
	一部廃棄	131,264													200	16	128,081	3,245	7,229	138,771	
めん羊 0 〔0〕 (0)	禁止																				
	全部廃棄																				
	一部廃棄																				
山羊 1,381 〔1〕 (1,380)	禁止																				
	全部廃棄	1									1										1
	一部廃棄	681									169				14	1	490	11	152	837	

北部食肉衛生検査所

馬の取り扱いなし

と畜検査頭数 〔生体検査後死亡〕 (とさつ頭数)	処分内容	処分実頭数	細菌病					原虫病		寄生虫病		その他の疾病							合計		
			豚丹毒	サルモネラ症	放線菌病	ヨーネ病	豚赤痢	トキソプラズマ症	その他	その他	その他	膿毒症	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫	腫瘍	炎症又は炎症産物による汚染		変性又は萎縮	その他
合計 101,646 〔3〕 (101,643)	禁止																				
	全部廃棄	79	1	9			27				10	20		1	3	2			1	5	79
	一部廃棄	91,289								1	170				30	23	89,251	6,650	6,610	102,735	
牛	禁止																				
	全部廃棄	2																	1	1	2
	一部廃棄	32									11						21	1	13	46	
とく	禁止																				
	全部廃棄																				
	一部廃棄																				
豚	禁止																				
	全部廃棄	75	1	9			27				10	20		1	1	2				4	75
	一部廃棄	90,749									1	9			27	23	88,932	6,636	6,343	101,971	
めん羊	禁止																				
	全部廃棄																				
	一部廃棄																				
山羊	禁止																				
	全部廃棄	2													2						2
	一部廃棄	508										150			3		298	13	254	718	

(2) 月別と畜検査頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合計	計	25,276	25,033	23,870	24,127	24,160	24,027	25,563	25,722	27,796	25,116	24,667	24,348	299,705
	牛	174	159	160	174	177	173	213	220	187	180	187	165	2,169
	とく						1				1			2
	馬	1	1	1		1		1		2		2	1	10
	豚	24,862	24,677	23,525	23,739	23,822	23,668	25,141	25,310	27,417	24,781	24,323	23,994	295,259
	めん羊													
	山羊	239	196	184	214	160	185	208	192	190	154	155	188	2,265
中央食肉衛生検査所	計	16,568	16,614	15,825	16,225	16,156	15,704	16,696	16,493	18,531	16,904	16,419	15,924	198,059
	牛 ²⁾	169	157	154	171	174	169	208	215	186	178	182	162	2,125
	とく						1				1			2
	馬	1	1	1		1		1		2		2	1	10
	豚 ²⁾	16,259	16,324	15,552	15,923	15,876	15,429	16,368	16,162	18,226	16,626	16,141	15,655	194,541
	めん羊													
	山羊 ²⁾	139	132	118	131	105	105	119	116	117	99	94	106	1,381
北部 ¹⁾ 食肉衛生検査所	計	8,708	8,419	8,045	7,902	8,004	8,323	8,867	9,229	9,265	8,212	8,248	8,424	101,646
	牛	5	2	6	3	3	4	5	5	1	2	5	3	44
	とく													
	豚 ³⁾	8,603	8,353	7,973	7,816	7,946	8,239	8,773	9,148	9,191	8,155	8,182	8,339	100,718
	めん羊													
	山羊	100	64	66	83	55	80	89	76	73	55	61	82	884

1) 北部は馬の取り扱いなし

2) 生体検査後に死亡した牛2頭、豚11頭、山羊1頭を含む

3) 生体検査後に死亡した豚3頭を含む

(3) 月別とさつ禁止頭数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
衛生検査所	中央食肉 豚丹毒 (蕁麻疹型) 豚												5	5

※北部はとさつ禁止なし

(4) 月別全部廃棄頭数

中央食肉衛生検査所

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合	計	9	10	17	16	13	11	18	12	10	11	10	9	146
豚	丹毒	3	1		1							3	1	9
	(蕁麻疹型)											2	1	3
	(関節炎型)	3	1		1							1		6
サルモネラ症	豚	1	2	3	3	3	1	1	3	1	2		1	21
トキソプラズマ症	豚			1	2			9			1			13
住肉胞子虫症(全身)	豚						1							1
膿毒症	牛							1					1	2
	豚	3	2	7	4	4	2	7	6	5	5	2	1	48
	山羊										1			1
敗血症	牛	1												1
	豚		3	3	3	5	4		1	3		1	2	25
尿毒症	豚					1	2							3
黄疸(高度)	豚											1		1
水腫(高度)	豚									1	1			2
悪性黒色腫	豚	1		2	2								1	6
筋肉変性	豚								1					1
白血病	豚											1		1
悪性腫瘍	牛										1			1
牛伝染性リンパ腫	牛		2	1	1		1		1			2	2	10

北部食肉衛生検査所

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合	計	7	10	8	4	9	3	4	2	4	1	18	9	79
豚	丹毒			1										1
	(関節炎型)			1										1
サルモネラ症	豚	1	4		1							3		9
トキソプラズマ症	豚		2	3		7	1	1				9	4	27
膿毒症	豚		1	1			1			1		2	4	10
敗血症	豚	2	2	2	1	1	1	3	1	2		2		17
敗血症(抗酸菌)	豚									1	1		1	3
黄疸(高度)	豚	1												1
水腫(高度)	豚											1		1
	山羊				1			1						2
悪性腫瘍	豚				1									1
変性	牛	1												1
白血病	豚	1			1	1						1		4
牛伝染性リンパ腫	牛			1										1

(5) 畜種別の一部廃棄数

中央食肉衛生検査所

		牛	馬	豚	山羊
呼吸器系		514		86,480	207
肺	MEP 型肺炎			27,348	
	APP 型肺炎			3,163	
	胸膜炎型肺炎	259		28,244	56
	膿瘍型肺炎	30		3,240	8
	その他型肺炎	189		24,473	137
	その他	36		12	6
循環器系		60		15,353	37
心	心外膜炎	43		14,764	25
	心内膜炎			23	
	心膿瘍			7	
	心筋炎	5		2	
脾	脾炎	7		205	1
	脾膿瘍			14	3
	脾腫			64	
	脾うっ血			158	1
リンパ	躯幹リンパ節膿瘍	1		51	3
	内臓リンパ節膿瘍	2		61	1
	その他	2		4	3
消化器系		849	7	90,619	283
胃	胃炎	17		32	21
腸	小腸炎	18	1	689	25
	大腸炎	50		11,773	21
	豚赤痢様腸炎			1,875	
	腹膜炎	5		8,321	2
	腹腔膿瘍	11		97	1
	腸気泡症			19	
	PIA 症候群				
	腸の点状出血				105
	膵	膵水腫			73
肝	間質性肝炎	2		21,499	4
	包膜炎型肝炎	112	5	13,393	28
	膿瘍型肝炎	60		83	7
	肝硬変型肝炎			46	1
	胆管炎型肝炎	48			2
	寄生虫性肝炎	1		9,295	3
	その他の肝炎	257	1	18,445	56
	鋸屑肝	28			
	胆石症				
	肝富脈斑	144			
	脂肪肝	3		793	
	肝の変性	9		2,144	3
	混濁肝			1,710	
	肝出血	77		332	3
	その他	7			
	その他		158		145
抗酸菌症(リンパ節限局型)				145	
脂肪壊死		158			3

		牛	馬	豚	山羊
泌尿生殖器系		531	2	5,197	200
腎	出血型腎炎	30		170	1
	膿瘍型腎炎	2		17	
	硬化型腎炎	2		89	
	ターキーエッグ型腎炎			15	
	腎盂腎炎型腎炎			25	1
	その他型腎炎	321	2	1,300	162
	腎盂拡張				571
	嚢胞腎	145		2,701	4
	腎結石				4
	腎梗塞	20		103	24
子宮	子宮蓄膿症	1		9	
	卵巣嚢腫				
乳房	乳房炎				2
	その他	10		197	2
運動器		247		8,275	82
耳	耳介異常			2,686	1
	筋肉膿瘍	17		366	7
	筋出血	38		79	4
	筋肉変性	2	8		27
	筋肉水腫	14		10	3
	メラノーシス			70	
	横隔膜炎	49			9
	横隔膜膿瘍	35			2
	横隔膜水腫	2			1
	骨	骨膿瘍	6		85
関節炎		5		204	4
骨折				31	2
脱臼				2	1
皮下出血		34		1,450	1
皮膚	皮下膿瘍	8		2,299	34
	皮膚炎			88	
	その他	31		878	7
寄生虫病・原虫病		160			169
	肝蛭症	40			
	膵蛭症	119			162
	毛包虫症				6
	その他	1			1
腫瘍		5		16	1
	黒色腫			2	
	その他	5		14	1
汚染		6		11	4
	内臓汚染	6		11	4

		牛	馬	豚	山羊
合計		2,530	9	206,096	986
(実頭数)		1,433	7	131,264	681

北部食肉衛生検査所

	牛	豚	山羊		
呼吸器系	8	66,445	83		
肺	MPS型肺炎	20,316			
	APP型肺炎	596			
	胸膜炎型肺炎	4	14,633	14	
	膿瘍型肺炎	1	1,170	3	
	その他型肺炎	3	29,724	63	
	肺気腫		3	3	
	肺水腫		3		
循環器系	2	12,074	41		
心	心外膜炎	11,877	31		
	心内膜炎	6			
	心膿瘍	6			
	心筋炎	7			
	心筋の変性	17	5		
脾	脾炎	2	82		
	脾膿瘍	3			
	脾腫	22	2		
	脾うっ血	31			
リンパ	躯幹リンパ節膿瘍	8	2		
	内臓リンパ節膿瘍	15	1		
消化器系	32	99,274	367		
胃腸	胃炎	8	123	17	
	小腸炎	4	1,685	19	
	大腸炎	2	21,769	15	
	豚赤痢様腸炎		726		
	腹膜炎		6,834	3	
	腹腔膿瘍		31		
	腸気泡症		5		
	PIA症候群		2		
	腸の点状出血			229	
	膵	膵水腫		19	
	肝	間質性肝炎		22,046	3
		包膜炎型肝炎	4	10,563	32
膿瘍型肝炎		1	22	4	
肝硬変型肝炎			127		
胆管炎型肝炎				2	
寄生虫性肝炎			5,226		
その他の肝炎		3	22,980	38	
鋸屑肝		1			
肝富脈斑		6			
脂肪肝		1	983		
肝の変性			5,544	2	
混濁肝			560		
肝出血		2	29	1	
その他				2	
その他			222	4	
抗酸菌症(リンパ節限局型)			222		
脂肪壊死				4	

	牛	豚	山羊		
泌尿生殖器系	9	15,664	137		
腎	出血型腎炎	1	65		
	膿瘍型腎炎		16	1	
	硬化型腎炎		72	1	
	ターキーエッグ型腎炎		2		
	腎盂腎炎型腎炎		10		
	その他型腎炎	4	9,990	113	
	腎盂拡張		294		
	嚢胞腎	3	4,829	1	
	腎結石			6	
	腎梗塞		322	8	
生殖器	萎縮腎	64			
	精巣の炎症・膿瘍			4	
	子宮蓄膿症			1	
	子宮の炎症	1			
乳房	卵巣囊腫				
乳房炎			2		
運動器	5	4,508	42		
耳	耳介異常		2,032		
	筋	筋肉膿瘍	2	541	8
		筋出血		50	2
		筋肉変性		24	
		筋肉水腫		3	
		メラノージス		12	
		横隔膜炎	2		2
横隔膜膿瘍					
骨	骨膿瘍		76	1	
	関節炎		72	4	
	骨折		8	1	
皮膚	皮下出血	1	189	1	
	皮下膿瘍		1,229	15	
	皮膚炎		3	2	
	その他		269	5	
寄生虫病・原虫病	11	10	150		
膵軽症	11		103		
毛包虫症			47		
その他		10			
腫瘍		23			
黒色腫		16			
その他		7			

	牛	豚	山羊
合計	67	198,256	827
(実頭数)	32	90,750	508

(6) 病畜の疾病内訳頭数

中央食肉衛生検査所

		牛			豚	山羊	計
		和牛	乳牛	その他			
合計		42	79	5	226	4	356
呼吸器系	肺炎	1					1
循環器系	心不全					1	1
消化器系	第4胃変位	1					1
	胃炎・腸炎	2					2
	鼓張症	1	1				2
生殖器系	子宮脱	1					1
神経系	腰痠	1	1				2
	神経麻痺	2	19	1			22
運動器系	関節周囲炎		3				3
	関節炎	1	2				3
	脱臼	1	10				11
	亜脱臼		1				1
	蹄病	1					1
	起立不能				2		2
	起立困難	1					1
	筋炎	7	8	1		1	17
	筋損傷		2				2
	筋断裂	13	31	1			45
	刺創			1			1
	骨折	1					1
その他	乳房炎					1	1
	尿石症	2		1			3
	ケトン症		1				1
	脂肪壊死	3					3
	その他	3			224	1	228

北部食肉衛生検査所

		牛	豚	山羊	計
		和牛			
合計		2	283	17	302
泌尿器系	子宮脱		1		1
	乳房炎			1	1
運動器系	皮膚炎		1		1
	関節炎		14		14
	起立困難		11	1	12
	起立不能	1	74	14	89
	跛行		9		9
	切創		1		1
	創傷		2		2
	骨折		1	1	2
その他	膿瘍		141		141
	発育不良		1		1
	腫瘍		2		2
	尾咬傷		11		11
	その他	1	14		15

(7) と畜検査頭数の推移

		H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5
合 計	計	311,858	312,963	317,637	331,751	339,873	322,039	316,166	315,388	314,929	299,705
	牛	2,324	1,936	1,958	2,103	2,184	2,210	2,004	2,009	2,092	2,169
	とく	1	2	1	1			2	1	1	2
	馬	34	20	25	21	21	23	22	26	19	10
	豚	308,057	309,684	314,243	328,008	335,674	317,399	312,016	311,154	310,042	295,259
	めん羊	1	1		2		1		2		
	山羊	1,441	1,320	1,410	1,616	1,994	2,406	2,122	2,196	2,775	2,265
中央食肉衛生検査所	計	208,283	198,976	201,480	210,242	220,352	209,430	205,071	207,278	205,905	198,059
	牛	2,248	1,888	1,921	2,059	2,138	2,153	1,967	1,979	2,052	2,125
	とく	1	2	1	1			1	1	1	2
	馬	34	20	25	21	21	23	22	26	19	10
	豚	205,277	196,287	198,710	207,281	216,990	205,798	201,782	203,901	202,207	194,541
	めん羊	1			2						
	山羊	722	779	823	878	1,203	1,456	1,299	1,371	1,626	1,381
北部食肉衛生検査所	計	103,575	113,987	116,157	121,509	119,521	112,609	111,095	108,110	109,024	101,646
	牛	76	48	37	44	46	57	37	30	40	44
	とく							1			
	豚	102,780	113,397	115,533	120,727	118,684	111,601	110,234	107,253	107,835	100,718
	めん羊		1				1		2		
	山羊	719	541	587	738	791	950	823	825	1,149	884

(8) とさつ禁止頭数の推移

中央食肉衛生検査所と北部食肉衛生検査所の合計値

		H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5
合 計	牛		2	2	2	2		1		1	
	馬			1							
	豚	13	25	11	33	26	12	3	4	5	5
	山羊	1	1		3	1		1			
豚 丹 毒	豚	9	24	6	27	23	9	1	2	2	5
膿 毒 症	豚				1		1	1			
尿 毒 症	牛		1			1		1			
	山羊				1	1					
黄 疸 (高 度)	牛			2	2	1				1	
	馬			1							
熱 性 諸 症	牛		1								
	豚	4	1	5	5	3	2	1	2	3	
	山羊	1	1		2			1			

(9) 全部廃棄頭数の推移

中央食肉衛生検査所と北部食肉衛生検査所の合計値

		H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5
合 計	牛	12	16	13	15	10	20	17	21	23	16
	豚	312	346	251	402	334	443	186	109	196	206
	山羊	1		2	2	1	3	1	3	6	3
豚 丹 毒	豚	72	76	25	192	169	224	17	6	20	10
サルモネラ症	豚	142	93	72	52	55	53	34	18	39	30
ヨ ー ネ 病	牛							1			
豚 赤 痢	豚							1	1		
トキソプラズマ症	豚	50	95	48	57	15	50	29	19	53	40
住肉胞子虫症	豚	6	7	7	7	3	4	4	2	2	1
膿 毒 症	牛					1	4		1	1	2
	豚	6	7	2	8	20	23	22	25	41	58
	山羊			1	2		1		1	4	1
敗 血 症 (抗酸菌症を含む)	牛		2	3	3	1	6	2	4	5	1
	豚	20	59	84	71	66	77	64	32	32	45
	山羊					1					
尿 毒 症	牛	1									
	豚		1		1		3	2			3
黄 疸 (高 度)	豚	3	2	1	6		2	4	1	2	2
	山羊	1									
水 腫 (高 度)	牛								1	1	
	豚	1								1	3
	山羊			1			1		1		2
悪 性 黒 色 腫	豚	6	2		5	6	5	5	3	3	8
そ の 他 の 腫 瘍	牛		1							1	1
	豚	1		4				3		1	
変 性	牛										1
	豚	3	4	5				1			
	山羊						1	1	1	2	
牛伝染性リンパ腫	牛	11	13	10	12	8	10	14	15	15	11
白 血 病	豚	2		3	3		2		2	2	5

(10) 開場日数及び検査延べ人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合 計	開 場 日 数	40	42	41	40	37	41	43	41	42	39	37	40	483
	検査延べ人数	589	587	537	531	489	528	550	534	530	525	480	531	6,411
中央食肉 衛生検査所 〔(株)沖縄県 食肉センター〕	開 場 日 数	20	21	21	20	19	21	22	20	22	20	18	20	244
	検査延べ人数	393	377	356	340	321	343	352	342	348	349	305	347	4,173
北部食肉 衛生検査所 〔名護市 食肉センター〕	開 場 日 数	20	21	20	20	18	20	21	21	20	19	19	20	239
	検査延べ人数	196	210	181	191	168	185	198	192	182	176	175	184	2238

(11) 衛生講習会

	開催月日	内 容	対象者
中央食肉 衛生検査所	8月17日	・ HACCP と外部検証	食肉センター他5事業者
北部食肉 衛生検査所	8月23日	・ 衛生管理、食中毒予防について	と畜・解体作業従事者

(12) 衛生監視

	内 容	実施回数	対 象 施 設
中央食肉 衛生検査所	記録検査	12	(株)沖縄県 食肉センター
	現場検査	242	
	微生物検査	36	
	構造設備基準	12	
北部食肉 衛生検査所	記録検査	12	名護市 食肉センター
	現場検査	239	
	微生物検査	20	
	構造設備基準	12	

(13) と畜検査データの還元

検査結果について疾病の発生状況などを整理・分析し、生産者等からの申請に基づきデータを還元している。生産現場での食肉データの活用により、生産性の向上及びより健康な家畜の生産を支援することを目的としている。

	内 容	申 請 者	件数
中央食肉 衛生検査所	届出伝染病発生報告	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
	内臓廃棄明細	株式会社沖縄県食肉センター	242
	疾病明細	株式会社那覇ミート	22
	と畜検査結果	生産者	20
北部食肉 衛生検査所	届出伝染病発生報告	中央家畜保健衛生所	12
		北部家畜保健衛生所	12
	内臓廃棄明細	北部食肉協業組合	239
	と畜検査結果	生産者	24

Ⅱ 食鳥検査業務

1 概要

(1) 食鳥検査羽数

令和 5 年度の中央食肉衛生検査所及び北部食肉衛生検査所における全検査羽数は 4,378,428 羽(前年度比 2.2%増)であり、内訳は成鶏 495,268 羽(2.9%減)、ブロイラー3,883,160 羽(2.8%増)であった。

(2) 食鳥検査結果に基づく措置

① とさつ内臓摘出禁止

とさつ内臓摘出禁止羽数は 128,651 羽(全検査羽数の 2.9%)であり、内訳は成鶏 95,169 羽(全成鶏検査羽数の 19.2%)、ブロイラー33,482 羽(全ブロイラー検査羽数の 0.9%)であった。

② 全部廃棄

全部廃棄羽数は 27,792 羽(全検査羽数の 0.6%)であり、内訳は成鶏 9,710 羽(全成鶏検査羽数の 2.0%)、ブロイラー18,082 羽(全ブロイラー検査羽数の 0.5%)であった。

③ 一部廃棄

一部廃棄羽数は 107,970 羽(全検査羽数の 2.5%)であり、内訳は成鶏 41,396 羽(全成鶏検査羽数の 8.4%)、ブロイラー66,574 羽(全ブロイラー検査羽数の 1.7%)であった。

(3) 食鳥処理場の衛生指導・衛生教育

食鳥処理場の HACCP による衛生管理について外部検証機関として記録検査(月 1 回)、現場検査(毎日)及び微生物検査(月 1 回)を行い、加えて沖縄県食品衛生監視指導計画に基づき施設の構造設備基準の監視(月 1 回)を行った。

また、沖縄県食品(食肉)衛生月間実施要領に基づき 8 月を食肉衛生月間と位置づけ、食肉運搬車両の衛生指導、食鳥処理業者等への衛生講習会及び食鳥処理場付属の食肉処理業施設の監視指導を行った。

(4) 防疫演習

食鳥処理場内で高病原性鳥インフルエンザ罹患個体を発見したときの対応について、食鳥処理場内の封鎖区域の設定や車両消毒などの机上訓練を実施した。

2 検査統計

(1) 食鳥検査羽数 及び 食鳥のとさつ内臓摘出禁止又は廃棄したものの原因

	食鳥検査羽数	処分内容	ウイルス病		細菌病		その他の疾病										合計		
			鶏白血病	マレック病	大腸菌症	ブドウ球菌症	敗血症	変性	水腫	腹水	出血	炎症	腫瘍	外傷	削瘦及び発育不良	放血不良		湯漬過度	
合計	4,378,428	禁止		13,015					603		12,949	487	21,722		16,352	58,743	4,495	285	128,651
		全部廃棄	2	4,129	8,005	33	3	277	9	1,379	486	11,002	1,161	63	1,124	111			27,792
		一部廃棄						17,702			10,266	79,846	156						107,970
中央食肉衛生検査所 (成鶏)	495,268	禁止								7,174		18,910		16,162	51,674	1,249			95,169
		全部廃棄	2	3	1						337	136	7,633	1,160		430			9,710
		一部廃棄						886			9,918	30,473	119						41,396
北部食肉衛生検査所 (ブロイラー)	3,883,160	禁止		13,015				603		5,775	487	2,812		190	7,069	3,246	285		33,482
		全部廃棄		4,126	8,004	33	3	277	9	1,042	350	3,369	1	63	694	111			18,082
		一部廃棄						16,816			348	49,373	37						66,574

(2) 月別食鳥検査羽数及び廃棄羽数

廃棄羽数は「とさつ内臓摘出禁止羽数」と「全部廃棄羽数」の合計値

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合計	食鳥検査羽数	356,586	390,489	371,211	344,631	264,991	364,577	362,429	386,013	416,587	333,012	385,405	402,497	4,378,428
	廃棄羽数 (%)	10,663 (3.0)	9,763 (2.5)	10,902 (2.9)	7,236 (2.1)	8,244 (3.1)	17,614 (4.8)	21,039 (5.8)	12,919 (3.3)	18,475 (4.4)	13,794 (4.1)	13,205 (3.4)	12,589 (3.1)	156,443 (3.6)
中央食肉衛生検査所 (成鶏)	食鳥検査羽数	48,320	42,194	35,770	25,372	28,711	49,634	50,297	41,747	42,660	44,063	43,568	42,932	495,268
	廃棄羽数 (%)	6,649 (13.8)	5,881 (13.9)	6,128 (17.1)	5,282 (20.8)	5,531 (19.3)	15,568 (31.4)	17,645 (35.1)	7,413 (17.8)	9,549 (22.4)	8,277 (18.8)	8,395 (19.3)	8,561 (19.9)	104,879 (21.2)
北部食肉衛生検査所 (ブロイラー)	食鳥検査羽数	308,266	348,295	335,441	319,259	236,280	314,943	312,132	344,266	373,927	288,949	341,837	359,565	3,883,160
	廃棄羽数 (%)	4,014 (1.3)	3,882 (1.1)	4,774 (1.4)	1,954 (0.6)	2,713 (1.1)	2,046 (0.6)	3,394 (1.1)	5,506 (1.6)	8,926 (2.4)	5,517 (1.9)	4,810 (1.4)	4,028 (1.1)	51,564 (1.3)

(3) 食鳥検査羽数の推移

		H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5
合 計		3,723,297	3,972,147	4,041,661	3,959,111	3,986,262	4,130,794	4,126,445	4,141,068	4,228,713	4,378,428
中央食肉 衛生検査所	沖縄食鶏加工(株) (プロイラー)	1,766,510	1,682,104	1,619,022	1,623,382	1,715,409	572,840 ^{※1}				
	(株)沖縄県鶏卵 食鳥流通センター (成鶏)	524,837	524,741	535,100	488,311	569,928	519,453	526,877	532,404	510,267	495,268
北部食肉 衛生検査所	(有)中央食品加工 (プロイラー)	1,680,800	1,834,816	1,804,989	1,874,569	1,845,457	548,559 ^{※2}				
	名 護 市 食鳥処理施設 (プロイラー)						2,485,593 ^{※3}	3,614,191	3,696,309	3,775,840	3,883,160

※1 令和元年8月廃止

※2 令和元年7月廃止

※3 令和元年7月操業開始

(4) 開場日数及び検査延べ人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合 計	開 場 日 数	44	44	44	39	35	47	46	47	44	43	43	42	518
	検査延べ人数	115	116	112	108	91	122	120	121	115	110	113	116	1,359
中央食肉 衛生検査所 (株)沖縄県 鶏卵食鳥流通 センター	開 場 日 数	23	22	23	17	16	25	24	26	22	23	22	20	263
	検査延べ人数	47	44	46	34	32	51	49	52	44	46	44	45	534
北部食肉 衛生検査所 (名 護 市) 食鳥処理施設	開 場 日 数	21	22	21	22	19	22	22	21	22	20	21	22	255
	検査延べ人数	68	72	66	74	59	71	71	69	71	64	69	71	825

(5) 衛生講習会

	開催月日	内 容	対象者
中央食肉 衛生検査所	9月8日	・食品衛生について	食鳥処理作業従事者
北部食肉 衛生検査所	8月9日	・5S活動、食中毒予防について	食鳥処理作業従事者

(6) 衛生監視

	内 容	実施回数	対 象 施 設
中央食肉 衛生検査所	記録検査	12	(株)沖縄県 鶏卵食鳥流通センター
	現場検査	263	
	微生物検査	12	
	構造設備基準	12	
北部食肉 衛生検査所	記録検査	12	名護市食鳥処理施設
	現場検査	252	
	微生物検査	12	
	構造設備基準	12	

(7) 認定小規模食鳥処理場

① 処理場別処理羽数

		成鶏	ブロイラー	あひる	七面鳥	計
合 計		26,151	390			26,541
衛生検査所管内 中央食肉	上原養鶏場	3,686				3,686
	沖縄県立南部農林高等学校		100			100
	沖縄県立中部農林高等学校		240			240
	中川牧場食鳥 ※2					
北部食肉衛生検査所管内	安室養鶏場ヤンバル農場	9,535				9,535
	瀬宮食鳥処理センター※1	2,430				2,430
	玉城食鳥販売	10,500				10,500
	沖縄県立北部農林高等学校		50			50
	アガリエ ※2					
	名嘉食品 ※2					
	農業生産法人(有)乙羽ファーム ※2					

※1 R5.5～R6.1 休止

※2 休止中

② 月別処理羽数

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
合 計	処理羽数	成鶏	1,796	2,166	1,740	2,044	1,961	2,106	2,038	2,013	2,150	1,936	4,238	1,963	26,151
		ブロイラー			20	130	240								
	禁止・全部 廃棄羽数 (廃棄率%)	成鶏	2 (0.1)	2 (0.1)	4 (0.2)	1 (0.0)	5 (0.3)	3 (0.1)	2 (0.1)	6 (0.3)	5 (0.2)	6 (0.3)	128 (3.0)	1 (0.1)	165 (0.6)
		ブロイラー													
衛生検査所管内 中央食肉	処理羽数	成鶏	246	266	300	174	316	286	278	453	280	376	358	353	3,686
		ブロイラー			20	80	240								
	禁止・全部 廃棄羽数 (廃棄率%)	成鶏	2 (0.8)	2 (0.8)	4 (1.3)	1 (0.6)	5 (1.6)	3 (1.0)	2 (0.7)	6 (1.3)	5 (1.8)	6 (1.6)	5 (1.4)	1 (0.3)	42 (1.1)
		ブロイラー													
衛生検査所管内 北部食肉	処理羽数	成鶏	1,550	1,900	1,440	1,870	1,645	1,820	1,760	1,560	1,870	1,560	3,880	1,610	22,465
		ブロイラー				50									
	禁止・全部 廃棄羽数 (廃棄率%)	成鶏											123 (3.2)		123 (0.5)
		ブロイラー													

③ 衛生監視

	内容	実施回数
中央食肉衛生検査所	監視指導	3
北部食肉衛生検査所	監視指導	4

Ⅲ 精密検査業務

1 概要

(1) 保留獣畜の精密検査件数及び検査結果

中央食肉衛生検査所

		※ 検査 件数	検 査 内 容				検 査 結 果			
			肉眼	微生物	病理・ 寄生虫	理化学	とさつ 禁止	全部 廃棄	合格	
合 計		313	67	188	52	6	5	146	162	
牛	計	15	3	1	11			14	1	
	膿毒症	2	2					2		
	敗血症	1		1				1		
	水腫(高度)	1	1						1	
	悪性腫瘍	1			1			1		
	牛伝染性リンパ腫	10			10			10		
豚	計	297	63	187	41	6	5	131	161	
	豚丹毒	蕁麻疹型	8	5	3			5	3	
		関節炎型	64		64				6	58
		心内膜炎型								
		敗血症型								
	サルモネラ症	82		82				21	61	
	トキソプラズマ症	25			25			13	12	
	住肉孢子虫症	1	1					1		
	膿毒症	53	53					48	5	
	敗血症	抗酸菌	7			7				7
		その他の細菌	38		38				25	13
	尿毒症	4				4		3	1	
	黄疸	2				2		1	1	
	水腫(高度)	3	3					2	1	
	悪性腫瘍	1			1				1	
	悪性黒色腫	7			7			6	1	
	白血病	1			1			1		
筋肉変性	1	1					1			
山羊	計	1	1					1		
	膿毒症	1	1					1		

※ 1頭の獣畜が複数の疾病で保留となることがあるため、検査件数=実頭数 ではない

北部食肉衛生検査所

		※ 検査 件数	検 査 内 容				検 査 結 果		
			肉眼	微生物	病理・ 寄生虫	理化学	全部 廃棄	合格	
合 計		188	69	69	48	2	79	109	
牛	計	3	1		2		2	1	
	ヨーネ病	1			1			1	
	筋肉変性(全身性)	1	1				1		
	牛伝染性リンパ腫	1			1		1		
豚	計	183	66	69	46	2	75	108	
	豚丹毒	蕁麻疹型	6	6					6
		関節炎型	34	10	24			1	33
	サルモネラ症		25	6	19			9	16
	トキソプラズマ症		39	9		30		27	12
	膿毒症		13	13				10	3
	敗血症	抗酸菌	23	13		10		3	20
		その他の細菌	31	5	26			17	14
	黄疸(高度)		2				2	1	1
	白血病		5	1		4		4	1
	悪性黒色腫		3	1		2		2	1
	水腫(高度)		1	1				1	
	住肉孢子虫症		1	1					1
山羊	計	2	2				2		
	水腫(高度)		2	2				2	

※ 1頭の獣畜が複数の疾病で保留となることがあるため、検査件数=実頭数 ではない

(2) 伝達性海綿状脳症(TSE)の検査件数

県内でと畜された牛、めん羊及び山羊の検査はすべて中央食肉衛生検査所で行っている。令和5年度に行った検査は以下のとおりであり、すべて陰性であった。

管轄	と畜場	畜種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
中央 食検	沖縄県 食肉センター	牛									1				1
八重山 保健所	(株)八重山 食肉センター	牛								1	1		1		3
		山羊					1	1							2

2 微生物検査

(1) 保留獣畜の精密検査件数

		中央食肉衛生検査所				北部食肉衛生検査所		
		※ 検査 件数	培養 検査	PCR 検査	ELISA 検査	※ 検査 件数	培養 検査	PCR 検査
合 計		188	188	52		95	70	11
牛	敗血症	1	1	1				
豚	豚丹毒	蕁麻疹型	3	3	2	6		
		関節炎型	64	64	6	34	24	
		心内膜炎型						
		敗血症型						
サルモネラ症		82	82	21		24	20	11
敗血症		38	38	22		31	26	

※ 1頭の獣畜が複数の疾病で保留となることがあるため、検査件数=実頭数 ではない

(2) 検査施設における信頼性確保

検査の信頼性を確保するため、既知の微生物を含む試験品から当該微生物を検出、分離及び同定する技術の検証(内部精度管理)を行った。

「令和5年度 第1回食品衛生検査施設における精度管理」(令和5年9月実施)

試験種別：定性試験

試験項目：大腸菌群、黄色ブドウ球菌、E. coli、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌

試 料：模擬食材

「令和5年度 第2回食品衛生検査施設における精度管理」(令和5年12月実施)

試験種別：定量試験、定性試験

試験項目：細菌数(定量)、大腸菌群(定性)

試 料：牛乳

3 病理・寄生虫検査

(1) 保留獣畜の精密検査件数

		中央食肉 衛生検査所	北部食肉 衛生検査所
合 計		53(1)	73(25)
牛	牛伝染性リンパ腫	10	1
	悪性腫瘍(中皮腫)	1	
	ヨーネ病		1
豚	トキソプラズマ症※1	25	39(8)
	住肉孢子虫症	1(1)	1(1)
	敗血症(抗酸菌)	7	23(14)
	悪性黒色腫	7	3(1)
	悪性腫瘍 (中皮腫・顆粒膜細胞腫)	1	
	白血病	1	5(1)

※1 リンパ節病変部位のスタンプ標本をアクリジンオレンジ蛍光染色し、鏡検によりタキゾイトの検出を行った

()内は肉眼検査件数(内数)

(2) 病理組織学的検査件数

① 概要

保留獣畜以外の精密検査を含む

	中央食肉衛生検査所					北部食肉衛生検査所				
	炎症	腫瘍	変性	その他	計	炎症	腫瘍	変性	その他	計
合計	62	33	7	8	110	17	9	2	1	29
牛	6	15	3		24	1	1			2
馬										
豚	48	9	3	6	66	14	7	1	1	23
山羊	2			2	4	2		1		3
ブライター							1			1
成鶏	6	9	1		16					
その他※				1	1					

※「その他」は熊肉

②詳細

中央食肉衛生検査所

		診断名	検体数	
牛 24	炎症 6	好酸球性肉芽腫性炎	1	
		好酸球性増殖性小葉間静脈炎	1	
		リポイド肺炎	1	
		間質性腎炎	1	
		肝蛭による胆管炎	1	
		胆管肝炎	1	
	腫瘍 15	牛伝染性リンパ腫	10	
		顆粒膜細胞腫	1	
		小腸のリンパ腫	1	
		腎のT細胞性リンパ腫	1	
		副腎髓質腫瘍	1	
	変性 3	平滑筋腫	1	
		黄褐色色素沈着を伴う脂肪壊死	1	
		腎のリポフスチン沈着	2	
豚 66	炎症 48	肝の巣状壊死	8	
		間質性肺炎	9	
		壊死性リンパ節炎	6	
		好酸球性間質性肝炎	4	
		間質性肝炎	3	
		間質性腎炎	2	
		好酸球性肝炎	2	
		好酸球性リンパ節炎	2	
		リンパ節炎	2	
		肉芽腫性肝炎	2	
		壊死性腸炎	1	
		間質性肺炎	1	
		肝の巣状壊死	1	
		肝リンパ節の濾胞様集簇	1	
		好酸球性心内膜炎	1	
		繊維素性化膿性陰嚢炎	1	
		肉芽腫性筋炎	1	
		肉芽腫性リンパ節炎	1	
		腫瘍 9	悪性黒色腫	6
			腎芽腫	1
	線維肉腫		1	
	リンパ腫		1	
	変性 3	巣状の肝細胞変性	1	
		腎の空胞変性	1	
		脾捻転	1	
	その他 6	腎梗塞	1	
		水腎症	1	
		精巣の異所形成	1	
		全身性軽度出血	1	
		嚢胞腎	1	
		表皮嚢胞	1	

		診断名	検体数
山羊 4	炎症 2	肉芽腫性腸炎	1
		肉芽腫性リンパ節炎	1
	その他 2	胸腺組織	1
		動脈内膜の色素沈着	1
成鶏 16	炎症 6	巣状性肝炎	2
		化膿性間質性肝炎	1
		化膿性肝炎	1
		肉芽腫性肝炎	1
		肉芽腫が見られた皮膚炎	1
	腫瘍 9	リンパ腫 (マレック病)	4
		リンパ腫 (鶏白血病)	2
		骨髓球腫症	1
		セルトリ細胞腫	1
		卵管腺癌	1
変性 1	肝の脂肪変性	1	
その他 ※	1	旋毛虫症	1

1 検査で複数の診断名を付けることがあるので、
検査数 = 検体数ではない。

※ その他は「熊肉」である。

北部食肉衛生検査所

		診断名	検体数
豚 23	炎症 14	非定型抗酸菌症（浸潤型）	3
		好酸球性間質性肝炎	4
		巣状性壊死性肝炎	1
		肝包膜炎	1
		胆管炎	4
		化膿性大腸炎	1
	腫瘍 7	悪性黒色腫(全身性)	2
		豚白血病	4
		腎芽腫(上皮型)	1
	変性 1	肝のリンパ濾胞	1
その他 1	うっ血肝	1	
牛 2	炎症 1	出血性小腸炎	1
	腫瘍 1	牛伝染性リンパ腫	1
山羊 3	炎症 2	化膿性リンパ節炎	1
		慢性胆管炎	1
	変性 1	第1胃糜爛、潰瘍	1
プロイラー 1	腫瘍 1	血管腫	1

1 検査で複数の診断名を付けることがあるので、
検査数＝検体数 ではない

4 理化学検査

(1) 残留有害物質モニタリング検査(厚生労働省通知モニタリング検査)

			牛		豚		山羊		鶏		乳	蜂蜜	鶏卵	クロマグロ	計	
			筋肉	腎臓	筋肉	腎臓	筋肉	腎臓	筋肉	腎臓						
抗生物質	簡易検査法	検査数	4	4	※ ¹ 44	※ ¹ 44	1	1	9	9		1	9	1	127	
		陽性数														
	分別推定法	検査数														
		陽性数														
	テトラサイクリン系 ¹⁾	検査数									1				1	
		陽性数														
	タイロシン	検査数	4		10									9	23	
		陽性数														
	ペーパーディスク法	検査数									1				1	
		陽性数														
合成抗菌剤		検査数	²⁾ 4	³⁾ 4	⁴⁾ 10	⁵⁾ 10			⁶⁾ 9	⁷⁾ 9			⁸⁾ 9	⁹⁾ 1	56	
		陽性数														
内部 寄生虫薬	フルベンダゾール	検査数	4		10				9				9	32		
		陽性数														
※ ² 有機塩素系 農薬	ヘキサクロロベンゼン、 DDT、クロルデン、 エンドリン、ジコホール	検査数	4		5				5					14		
		陽性数														

※¹ 44 検体中 10 検体は北部食肉衛生検査所で検査実施

※² 沖縄県衛生環境研究所で検査実施

これら以外は全て中央食肉衛生検査所で検査実施

1) クロルテトラサイクリン、オキシテトラサイクリン、テトラサイクリン

2) スルファジメトキシシ、スルファモノメトキシシ、スルファキノキサリン、オキシリニック酸、エンロフロキサシ、オルビフロキサシ

3) スルファジメトキシシ、オキシリニック酸

4) スルファジメトキシシ、スルファモノメトキシシ、オフロキサシ、

スルファジミジ、オキシリニック酸、エンロフロキサシ、オルビフロキサシ、フロルフェニコール

5) エンロフロキサシ、スルファジミジ

6) スルファジメトキシシ、スルファモノメトキシシ、スルファキノキサリン、オフロキサシ、

スルファジミジ、オキシリニック酸、エンロフロキサシ、オルビフロキサシ

7) スルファジミジ

8) トリメトプリム

9) スルファモノメトキシシ、オキシリニック酸、フロルフェニコール

(2) 残留抗菌性物質モニタリング検査

()内は頭数

			中央食肉衛生検査所			北部食肉衛生検査所		
			筋肉	腎臓	計	筋肉	腎臓	計
牛	簡易検査法 (直接法)	検体数	57	44	101(57)			
		陽性数						
	簡易検査法 (抽出法)	検体数						
		陽性数						
	分別推定法	検体数						
		陽性数						
豚	簡易検査法 (直接法)	検体数	79	71	150(79)		60	60(60)
		陽性数		1	1(1)		5	5(5)
	簡易検査法 (抽出法)	検体数		6 ^{*1}	6(6) ^{*1}	10	10	20(10)
		陽性数		5 ^{*2}	5(5) ^{*2}			
	分別推定法	検体数		5 ^{*2}	5(5) ^{*2}			
		陽性数		5 ^{*2}	5(5) ^{*2}			

※1 6 検体のうち 5 検体は北部食肉衛生検査所にて収去

※2 北部食肉衛生検査所にて収去した検体

(3) 保留獣畜の精密検査件数

		中央食肉衛生検査所	北部食肉衛生検査所
豚	黄 疸	2	2
	尿 毒 症	4	
	中 毒 諸 症	1	

(4) 検査施設における信頼性確保(中央食肉衛生検査所のみ)

一般財団法人食品薬品安全センター秦野研究所が実施する、食品衛生外部精度管理調査に参加した。添加量が伏せられた試験品について検査を実施し、添加量の定量を行った。

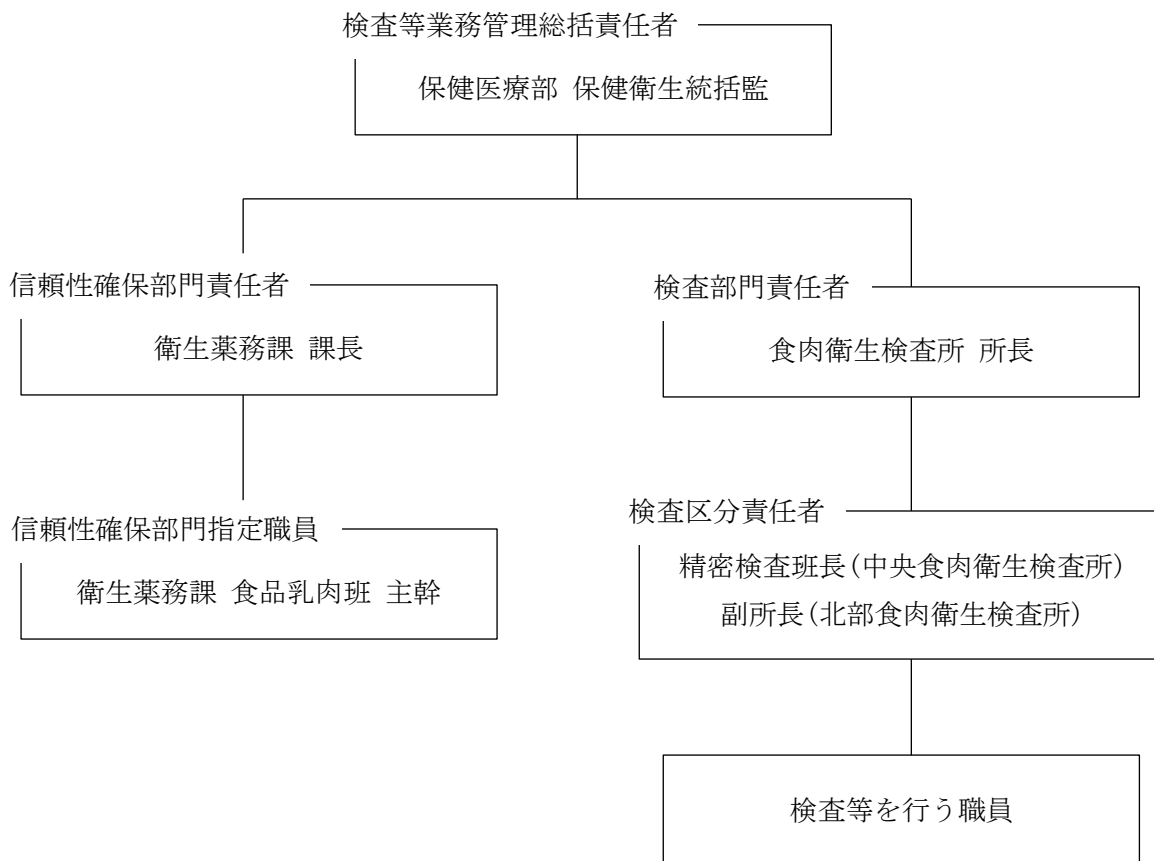
添加薬品：動物用医薬品(スルファジミジン)

試 験 品：豚肉(もも)ペースト

(5) GLP

中央食肉衛生検査所及び北部食肉衛生検査所では「沖縄県食品衛生検査施設等業務管理要綱」に基づき検査等を実施している。

<GLP 組織図>



第3章 研修・調査研究

1 研修及び講習会

(1) 県内

☆：講師 ★：発表者 ◎：最優秀賞 ○：優秀賞

研修・講習名	場所	日程	出席者
保健所等職員技術研修	衛生環境研究所	6月12日 ～16日	中央食肉衛生検査所 友知真帆、宇野耶衣 上江洲裕美 北部食肉衛生検査所 仲松耕平
有機溶剤作業主任者技能講習	うるマルシェ 沖縄市産業 交流センター	7月4日～5日 10月10日 ～11日	中央食肉衛生検査所 高木祐司 桑江旦子
第54回沖縄県監視員研究発表会	八汐荘	7月20日	中央食肉衛生検査所 砂川真紀
特定化学物質・四アルキル鉛等 作業主任者技能講習	沖縄市産業 交流センター 北部会館	8月16日 ～17日 2月13日 ～14日	中央食肉衛生検査所 富永正哉、上江洲裕美 北部食肉衛生検査所 仲松耕平
令和5年度病理室研修	中央食肉衛生 検査所	9月27日 ～28日 10月19日 ～20日	中央食肉衛生検査所 砂川真紀、小西樹新 太田佑子、田口史門
令和5年度と畜場衛生管理責任 者及び作業衛生責任者資格取得 講習会	沖縄県食肉セ ンター 中央食肉衛生 検査所	11月24日 ～26日	中央食肉衛生検査所 ☆砂川真紀、☆後藤剛、 ☆高木祐司、☆富永正哉、 ☆安富祖理香、☆今井隆 之、☆上原美智代、☆具志 堅萌子 北部食肉衛生検査所 ☆向井茂樹、☆小田英治、 ☆吉田崇、☆仁平真由美、 ☆松川国洋
沖縄食鳥協会研修会秋季講演会	ホテルムーン ビーチ	12月5日	中央食肉衛生検査所 大城哲也

第 47 回 沖縄県食肉衛生技術研修会 ○特別講演 「家畜及び家きんにおけるアニマル ウェルフェアについて」 東京農工大学農学部生物生産学科 教授 新村 毅 先生	沖縄県立博物 館・美術館	2月7日	全職員 中央食肉衛生検査所 ◎田口史門、○小西樹新、 ★仲村清崇 北部食肉衛生検査所 ★仲松耕平、★羽賀沢子
---	-----------------	------	---

(2) 県外

★：発表者

研修・講習名	場 所	日 程	出 席 者
食肉衛生検査研修	埼玉県	6月12日 ～7月7日	中央食肉衛生検査所 宮本雄二郎
第 59 回全国食肉衛生検査所協議会全 国大会	山形県	7月19日 ～20日	中央食肉衛生検査所 大城哲也 北部食肉衛生検査所 新垣衡
第 14 回 FDSC 食品衛生精度管理セミ ナー	東京都	7月28日	中央食肉衛生検査所 上江洲裕美
第 52 回九州地区食肉衛生検査所協議 会大会	熊本県	10月26日 ～27日	中央食肉衛生検査所 大城哲也、多田雪宏 北部食肉衛生検査所 新垣衡、新垣尚美
全国食肉衛生検査所協議会 微生物部会総会及び研修会	静岡県	9月13日	中央食肉衛生検査所 高木祐司 北部食肉衛生検査所 西田直哉
全国食肉衛生検査所協議会 理化学部会総会及び研修会	神奈川県	10月6日	中央食肉衛生検査所 上江洲裕美
全国食肉衛生検査所協議会 病理部会総会及び研修会	神奈川県	11月1日 ～2日	中央食肉衛生検査所 高木祐司 北部食肉衛生検査所 仁平真由美
食肉及び食鳥肉衛生技術研修 及び研究発表会	東京都	1月23日 ～24日	中央食肉衛生検査所 嘉数明日香、宇野耶衣 北部食肉衛生検査所 新垣衡、松川国洋

農林水産省補助事業 自治体職員向け HACCP 研修 ・ HACCP 導入・指導者養成研修	Web 開催		中央食肉衛生検査所 仁平美咲、宮本雄二郎
HACCP に係る助言等を行う 食品衛生監視員講習会 対米・対 EU 輸出水産食品に係る 指名監視員講習会	鹿児島県	2月28日 ～3月1日	中央食肉衛生検査所 上原美智代

2 調査研究

(1) 学会発表

令和5年度は無し

(2) 第47回沖縄県食肉衛生技術研修会

演題 番号	演 題	発 表 者
1	豚トキソプラズマ症検査における肺の実用化に向けた検討	中央食肉衛生検査所 田口史門
2	ブロイラーにおけるサルモネラ属菌の分離状況と薬剤耐性	北部食肉衛生検査所 羽賀沢子
3	ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の分離状況と 薬剤耐性	北部食肉衛生検査所 仲松耕平
4	豚の腎臓にみられた結節性多発性動脈炎	中央食肉衛生検査所 小西樹新
5	大規模食鳥処理場における外部検証の実施状況	中央食肉衛生検査所 仲村清崇

演題番号：1

演題名：豚トキソプラズマ症検査における肺の実用化に向けた検討

発表者名：○田口史門、宇野耶衣、太田佑子、安富祖理香、今井隆之、砂川真紀

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

令和3年度の調査研究において、豚トキソプラズマ（以下、Tp）症保留検査に、従来の採材部位であるリンパ節病変部（以下、Ly）に加え、肺の併用が検査の効率化につながる可能性が示唆されたことから、今回、Tp症保留検査における肺の実用化に向け、検討を行ったので報告する。

2. 材料及び方法

(1) 肺至適採材部位の検討：令和4～5年度にTp症と判定した豚29頭の肺各所（正常部7ヵ所及び病変部1～3ヶ所）のスタンプ標本について、鏡検成績（アクリジンオレンジ染色鏡検下における1スタンプ当たりの虫体検出率及び虫体数）を比較し、肺の至適採材部位を検討した。なお、正常部採材部位はTpが血行性に移行することを考慮し決定した。

(2) 肺の有用性の検討

ア Ly及び肺の鏡検成績比較：令和5年度にTp症と判定した豚10頭のLy病変部及び肺各所のスタンプ標本について、鏡検成績をLyの病態別（初期、中期、末期）に評価し、Ly及び肺の評価結果を比較検証した。

イ Ly及び肺の虫体遺伝子量比較：アの検体約85 mm³からDNAを抽出後、B1遺伝子を標的にリアルタイムPCRを行い、虫体遺伝子量をCt値（値が小さいほど遺伝子量が多い）で評価し、アと同様、Lyの病態別に比較検証した。

3. 結果

(1) 肺各所の虫体検出率は69～86%、平均虫体数は2.1～5.0体で、採材部位による有意差は認められなかったが、中葉先端及び病変部で比較的鏡検成績が良好な傾向を認めた。

(2) ア Lyの鏡検成績は虫体検出率（初期60%、末期32%）、虫体数（初期4.6体、末期1.5体）ともに病態が進むほど低下する傾向を認めた。一方、肺の鏡検成績は虫体検出率（59～78%）、虫体数（1.3～3.8体）で、Lyの病態による差は認められなかった。

イ Lyの平均Ct値は初期34.3、中期32.7、末期31.2と、病態が進むほど遺伝子量が多くなる傾向にあった。また、肺の平均Ct値は初期中期混在症例39.0と比べ、中期末期混在症例35.9、末期症例35.7とLyの病態が進むほど、遺伝子量は有意に多くなった。

4. 考察及びまとめ

Tpの侵入部位とされるLyでは、病態が進むほど遺伝子量が増加するものの鏡検成績は低下しており、病態の進行に伴い、死滅し構造崩壊した虫体が増えていることが推察された。一方、肺ではLyの病態によらず鏡検成績は一定しており、Lyの病態が進むほど肺の有用性が高まると考えられた。実際に、複数の末期Ly病変を認めたもののLyでは虫体が確認されず、肺で虫体を確認した症例も認められた。以上のことから、より精度の高いTp症検査には肺の併用が必須で、特にLyの病態が末期の症例においては、肺を優先的に検査することが妥当であると考えられた。

今後は、従来の採材部位であるLyに加え、中葉先端及び病変部を中心に肺も採材する方向でマニュアル改正に取り組む予定である。

演題番号：2

演題名：ブロイラーにおけるサルモネラ属菌の分離状況と薬剤耐性

発表者名：○羽賀沢子、仲松耕平、柿田徹也 1)、平良遥乃 1)、西田直哉、新垣尚美

発表者所属：北部食肉衛生検査所、1)衛生環境研究所

1. はじめに

サルモネラは主要な細菌性食中毒原因菌であり、鶏肉が原因食品の一つとして考えられている。過去、県内の一部農場におけるブロイラーを対象とした保菌状況調査が行われた。令和元年に県内全てのブロイラーを処理する大規模食鳥処理施設が新規稼働した。この新施設において、全ての農場由来のブロイラーを対象としたサルモネラ属菌の疫学情報を把握するため、盲腸便および鶏肉(鶏皮)における分離状況調査と分離株の性状を把握するため薬剤感受性試験を実施した。

2. 材料及び方法

分離状況調査は、令和5年10月～12月に6農場(A-F)から処理施設に搬入された、それぞれA～D10羽、E・F8羽分の盲腸便計56検体および1検体あたり5羽分をプールした各2検体のチラー洗浄後の鶏皮計12検体を用いた。各検体を前増菌(BPW)、選択増菌(RV・TT培地)し、選択分離(CHS・MLCB培地)培養後、invA遺伝子のPCRによりサルモネラ属菌と同定した。サルモネラ免疫血清(デンカ社)で血清型を同定し、農場別分離率を算出した。また、薬剤感受性試験はカナマイシン(KM)、テトラサイクリン(TC)、ストレプトマイシン(SM)、ナリジクス酸(NA)、クロラムフェニコール(CP)、アンピシリン(ABPC)、セフトキシム(CTX)、シプロフロキサシン(CPFX)の8種類を用いてKB法により行い、農場別薬剤耐性パターンを調査した。

3. 結果

盲腸便 16/56 検体(28.6%)、鶏皮 4/12 検体(33.3%)からサルモネラ属菌が分離された。分離株は全て *Salmonella*(S.) *Schwarzengrund* であり、分離率(株数)は農場ごとに、盲腸便由来でA:60.0%(6/10)、D:40.0%(4/10)、B・C:30.0%(3/10)、E・F:0%(0/10)、鶏皮由来でA・C・D・F:50.0%(1/2)であった。農場別耐性パターンは、盲腸便由来株(株数)のうちA:KM/TC/SM(3/6)・KM/TC/NA(2/6)・KM/TC/SM/NA(1/6)の3種類、B:KM/TC/SM/NA(3/3)の1種類、C:KM/TC/SM(2/3)・KM/TC(1/3)の2種類、D:KM/TC(2/4)・KM/TC/SM(1/4)・KM/TC/SM/CP(1/4)の3種類、また、鶏皮由来株(株数)のうちA:KM/TC/SM(1/1)、B:KM/TC/SM/NA(1/1)、C:KM/TC(1/1)、F:KM/TC/SM/NA(1/1)のそれぞれ1種類であった。上記5薬剤以外は全株感受性であった。

4. 考察

分離株の全てが *S. Schwarzengrund* であり、過去93%を占めていた *S. Infantis* を含めた他の血清型は分離されなかった。また、薬剤耐性パターンの異なる分離株が同一農場内で確認された。以上のことから、県内のブロイラーに様々な性状を持つ *S. Schwarzengrund* が浸潤していることが示唆された。今後は、分離株の分子疫学的解析を実施し、県内の *S. Schwarzengrund* の広がりや、薬剤耐性遺伝子の伝播状況についての調査を実施する必要があると考えられる。

演題番号：3

演題名：ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の分離状況と薬剤耐性

発表者名：○仲松耕平、羽賀沢子、西田直哉、小田英治、新垣尚美

発表者所属：北部食肉衛生検査所

1. はじめに

カンピロバクターは主要な細菌性食中毒原因菌であり、鶏肉が感染源の一つとして考えられている。令和元年に県内全てのブロイラーを処理する大規模食鳥処理施設が新規稼働したが、全農場由来のブロイラーを対象とした調査は未だ行われていない。新施設におけるカンピロバクター属菌の疫学情報を把握するため、盲腸便および鶏肉(鶏皮)における分離状況調査を行い、また分離株の性状を把握するため薬剤感受性試験を実施した。

2. 材料及び方法

分離状況調査は、令和5年10月～12月に6農場(A-F)から処理施設に搬入された、それぞれA～D10羽、E・F8羽分の盲腸便計56検体および1検体あたり5羽分をプールした各2検体のチラー洗浄後の鶏皮計12検体を用いた。各検体を生理食塩水で希釈後(鶏皮は希釈無し)、プレストン培地で増菌し、mCCDA培地で選択分離培養後、PCRで菌種(*Campylobacter jejuni*/*coli*:CJ/CC)を同定し、農場別分離率を算出した。また、薬剤感受性試験はアンピシリン(ABPC)、テトラサイクリン(TC)、ナリジクス酸(NA)、シプロフロキサシン(CPFX)、ストレプトマイシン、ゲンタマイシン、エリスロマイシン、クロラムフェニコールの8種類を用いてKB法により行い、農場別薬剤耐性パターンを調査した。

3. 結果

盲腸便からA・E:CJのみ、B・C・F:CCのみ、D:両菌が分離され、分離率(株数)はそれぞれA:80.0%(8/10)、B・C・E・F:100%(B・C:10/10、E・F:8/8)、D:60.0%(6/10)の計89.3%であった。また、鶏皮からA・C・E:CJのみ、D:CCのみ、B・F:両菌が分離され、分離率はそれぞれA・B・E・F:100%(2/2)、C・D:50.0%(1/2)の計83.3%であった。薬剤耐性パターンは、盲腸便由来株(株数)のCJ(19)のうちA(2):ABPC/TC、D(3):NA/CPFX、E(2):TCの3種類、CC(30)のうちB(10)・F(8):TC/NA/CPFX、C(5)・D(2):ABPC/TC/NA/CPFXの2種類、また、鶏皮由来株(株数)のCJ(7)のうちA(1):ABPC/TC、E(1):TCの2種類、CC(3)のうちB・F(1):TC/NA/CPFX、D(1):ABPC/TC/NA/CPFXの2種類であり、全株上記4薬剤以外感受性であった。

4. 考察及びまとめ

県内のブロイラーにおけるカンピロバクターは、農場ごとに菌種の分布が異なり、CCの分離率が高いことが明らかとなった。また、盲腸便全体で約90%分離されたことから、保菌率が高く、内容物によると体の汚染に注意する必要がある。また、B・C・F農場の盲腸便と鶏皮で異なる菌種が分離されたことから、いずれかの処理工程における交差汚染の可能性が推測される。薬剤耐性パターンが、農場ごとに特徴的な傾向を示すことから、飲水・飼料添加する抗生剤や治療薬の違いによる影響が示唆された。また、CC株のキノロン系薬剤に対する耐性率が盲腸便由来83.3%、鶏皮由来100%と高い水準であった。今後、環境モニタリング調査や遺伝子解析等によって分離状況と食肉汚染の関連を明らかにし、あわせて薬剤耐性遺伝子の検出を行っていききたい。

演題番号：4

演題名：豚の腎臓にみられた結節性多発性動脈炎

発表者名：○小西樹新、高木祐司、富永正哉、具志堅萌子

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

結節性多発性動脈炎（以下 PN）は、結節性汎動脈炎あるいは結節性動脈周囲炎とも呼ばれる壊死性血管炎である。牛、馬、豚等多くの動物種に発生する。免疫複合体の沈着に伴う血管壁障害に起因して、心臓、腎臓、髄膜、腸間膜等の小中口径の筋型動脈に好発する。

今回、豚枝肉検査時に PN を疑う症例に遭遇し、病理組織学的検索を行ったので報告する。

2. 材料及び方法

症例は、豚、雑種、性別不明、7ヶ月齢で、令和3年7月に一般畜として搬入された。腎臓の病変部を定法に従い HE 染色、アザン染色、PTAH 染色及びエラスチカワンギーソン染色前田変法（以下 EVG 染色）を行った。

3. 結果

- (1) 肉眼所見：左右腎臓の表面に直径 10～20mm 大の乳白色斑状病変が多発していた。病変は隆起し、病変内に白色の微小結節を認めた。断面では皮質全層にわたって乳白色病変がみられ、皮質から腎盤にかけて直径 1～2mm 大の白色小結節を認めた。白色小結節は皮質では小葉間動脈、腎盤では弓状動脈及び葉間動脈であり、腎盤の各動脈は肥厚し水腫状を呈していた。
- (2) 組織所見：皮質に結節状の病変が多数存在し、尿細管間質に結合織の増生がみられた。小葉間動脈、弓状動脈及び葉間動脈において、内膜の肥厚や血管内腔の狭窄があり、動脈壁及び動脈周囲にリンパ球、好酸球、形質細胞等の浸潤を認めた。PTAH 染色で動脈中膜にフィブリン沈着、EVG 染色で内弾性板の断裂、消失が確認された。その他、糸球体の腫大及びフィブリン血栓が散見され、尿細管上皮細胞で硝子滴変性、尿細管腔内に蛋白円柱がみられた。

4. 考察及びまとめ

小葉間動脈、弓状動脈及び葉間動脈における内膜の肥厚、血管内腔の狭窄、リンパ球や形質細胞の浸潤、フィブリノイド変性、内弾性板の断裂や消失等の組織所見から本症例を PN と診断した。PN の病期は、変性期、急性炎症期、肉芽形成期、癒痕期に分類され、本症例は肉芽形成期から癒痕期に該当すると考える。

本症例は腎臓のみ廃棄したが、全国食肉衛生検査所協議会病理部会病理研修会の症例では、豚や牛で全部廃棄となったものがある。また、同研修会で PN と診断された症例では、豚で心臓、腎臓、腸間膜、脾臓に多く、牛で肝臓、腎臓、骨格筋、心臓、脾臓に多い傾向があったので、全身性の疾病を疑って好発部位を中心に他の臓器も確認する必要がある。

本症例は、と畜検査時において腎臓表面から判別することが困難であることから、今後、同様の症例に遭遇した場合は、腎臓の断面で、弓状動脈や葉間動脈等に病変がないか確認する必要があると考える。

演題番号：5

演題名：大規模食鳥処理場における外部検証の実施状況

発表者名：○仲村清崇、後藤剛、嘉数明日香

発表者所属：中央食肉衛生検査所

1. はじめに

平成30年6月の食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律の改正により、大規模食鳥処理場においては衛生管理計画及び手順書（以下「衛生管理計画等」）を作成し実践すること、又その実施状況について食鳥検査員の検査又は試験（以下「外部検証」）を受けることが規定され、令和3年6月から完全施行となった。当所においても、令和2年5月の国からの通知「と畜検査員及び食鳥検査員による外部検証の実施について」に基づき外部検証を実施している。今回、完全施行となった令和3年6月から令和5年12月までの実施状況について報告する。

2. 外部検証の実施内容

食鳥処理業者が作成した衛生管理計画等を確認した上で、現場での実施状況の確認（以下「現場検査」）を全開場日に、衛生管理の実施記録の確認（以下「記録検査」）を毎月1回実施した。

微生物試験として、衛生指標菌（一般生菌数及び腸内細菌科菌群数）の計数を毎月1回、カンピロバクター属菌の定性試験を3か月に1回実施した。各試験には1検体あたり胸皮25g（5羽×5g）、各月5検体を用いた。

現場検査、記録検査及び微生物試験の結果を、3か月に1度、食鳥処理業者との衛生合同会議の場を設けてフィードバックし衛生指導を行った。

3. 結果

現場検査では清掃方法、トイレ使用時の作業着等の着脱手順、従事者の手洗いのタイミングなどで衛生管理計画等の不遵守が時折認められた。

記録検査では不適切な記録方法、誤った記録用紙の使用、作業手順が記録様式に正しく反映されていない、記録が必要と認識されず記録が残っていないなどの不備が認められた。

一般生菌数及び腸内細菌科菌群数は、60検体（12か月分）毎の平均値が低減傾向にあった。カンピロバクター属菌は令和5年9月に2検体から検出された。

4. 考察とまとめ

現場検査及び記録検査の結果から、衛生管理計画等の周知不足、衛生に関する教育訓練不足、記録に対する理解不足などが伺えた。これらは食鳥処理業者が内部検証により改善を図るべき内容であり、今後も適切に内部検証が実施されるよう助言に努めたい。又、目視確認のみでは気づけず、従事者等への聞き取りで判明する衛生管理上の問題点などもあり、従事者等と日頃からコミュニケーションをとることが重要であることが認識できた。

微生物試験の結果から、カンピロバクター属菌が令和5年9月に検出されたものの、一般生菌数及び腸内細菌科菌群数は低減傾向にあり、と体の衛生的な取扱いが向上していることが伺え、衛生指導が適切に行えていると考えられた。

第4章 その他

1 と畜場及び食鳥処理場一覧(令和6年4月1日時点)

(1) と畜場

検 印 番 号	1		2	4
名 称	株式会社沖縄県食肉センター		名護市食肉センター	沖縄県畜産研究センター(簡易と畜場)
申 請 者	株式会社沖縄県食肉センター 代表取締役 外間 勉		名護市長	沖縄県知事
所 在 地	南城市大里字大城 1927		名護市世富慶 755	今帰仁村字諸志 2009-5
電 話 番 号	098-945-3029		0980-53-6801	0980-56-5142
F A X 番 号	098-945-3742		0980-53-7035	0980-56-4803
許 可 年 月 日	平成 47 年 2 月 8 日	平成 23 年 5 月 26 日	平成 13 年 12 月 28 日	昭和 58 年 12 月 1 日
許 可 番 号	沖縄県指令厚第 18 号	沖縄県指令環第 50 号	沖縄県指令福第 2624 号	沖縄県指令環第 887 号
処 理 獣 畜	牛、馬	豚、山羊、めん羊	牛、豚、山羊、めん羊	豚
1 日 の 処 理 能 力	大動物 30 頭	小動物 1,210 頭	大動物 3 頭 小動物 708 頭	小動物 10 頭
冷 蔵 庫 の 収 容 能 力	大動物 135 頭	小動物 1,220 頭	大動物 8 頭 小動物 1,200 頭	小動物 10 頭
使 用 水	ダム水、工業用水、上水道水		地下水、上水道水	上水道水
浄化槽の処理能力	活性汚泥法、1,600 トン/日		活性汚泥法 800 トン/日	液肥処理施設 640 トン/日

(2) 食鳥処理場

名 称	株式会社沖縄県鶏卵食鳥流通センター	名護市食鳥処理施設
申 請 者	株式会社沖縄県鶏卵食鳥流通センター 代表取締役社長 長山 敬	沖縄県食鳥処理協業組合 代表理事 具志堅 茂
所 在 地	うるま市川田 333	名護市屋部 1779
電 話 番 号	098-974-4877	0980-51-0620
F A X 番 号	098-974-4876	0980-51-0621
許 可 年 月 日	平成 4 年 3 月 30 日	令和元年 7 月 12 日
許 可 番 号	沖縄県指令環第 170 号	沖縄県指令保第 214 号
1 日 の 処 理 能 力	鶏 3,000 羽	鶏 24,000 羽

(3) 認定小規模食鳥処理場

	名称	所在地	許可年月日	許可番号	1日の処理能力
中央食肉衛生検査所管内	上原養鶏場	糸満市北波平 876	H5. 1. 25	沖縄県指令環第 8 号	鶏 100羽
	沖縄県立南部農林高等学校	豊見城市長堂 182	H17. 10. 19	沖縄県指令福第 2470 号	鶏 50羽
	沖縄県立中部農林高等学校	うるま市田場 1570	H24. 12. 19	沖縄県指令環第 4092 号	鶏 50羽
	中川牧場食鳥※2	読谷村渡具知 615-1	H16. 12. 10	沖縄県指令福第 2550 号	鶏・あひる 20羽
北部食肉衛生検査所管内	安室養鶏場ヤンバル農場	大宜味村白浜 442-522	H8. 12. 25	沖縄県指令環第 847 号	鶏 50羽
	瀬宮食鳥処理センター※1	名護市喜瀬 67-1	H9. 8. 12	沖縄県指令環第 670 号	鶏・あひる 300羽
	玉城食鳥販売	名護市仲尾次 1260	H23. 10. 13	沖縄県指令環第 270 号	鶏・あひる・七面鳥 100羽
	沖縄県立北部農林高等学校	名護市名護 4607-1	H27. 6. 17	沖縄県指令保第 493 号	鶏 100羽
	アガリエ ※2	名護市伊差川 340	H15. 10. 24	沖縄県指令福第 2523 号	鶏・あひる・七面鳥 10羽
	名嘉食品 ※2	伊是名村仲田 60	H16. 1. 15	沖縄県指令福第 65 号	あひる 3羽
	農業生産法人 (有)乙羽ファーム ※2	今帰仁村越地 284	H17. 7. 5	沖縄県指令福第 2034 号	鶏・あひる 150羽

※1 R5. 5～R6. 1 休止

※2 休止中

2 使用料、解体料及び手数料一覧

(1) と畜場の使用料及びとさつ解体料

(円)

	株式会社沖縄県食肉センター					
	と畜場使用料			とさつ解体料		
	R1. 10. 1～	R5. 2. 1～	R6. 2. 14～	R1. 10. 1～	R5. 2. 1～	R6. 2. 14～
牛	1,650	(同左)	(同左)	雌:2,200 雄:5,610	(同左)	(同左)
とく	1,100	(同左)	(同左)	1,650	(同左)	(同左)
馬	1,650	(同左)	(同左)	2,200	(同左)	(同左)
こま	1,100	(同左)	(同左)	1,650	(同左)	(同左)
豚	1,087	1,329	(同左)	748	926	(同左)
めん羊・山羊	1,257	(同左)	2,158	1,331	(同左)	5,380

(円)

	名護市食肉センター					
	と畜場使用料			とさつ解体料		
	R1. 10. 1～	R5. 2. 1～	R6. 2. 14～	R1. 10. 1～	R5. 2. 1～	R6. 2. 14～
牛	3,769	(同左)	(同左)	3,020	(同左)	(同左)
とく	1,853	(同左)	(同左)	1,494	(同左)	(同左)
馬						
こま						
豚	1,012	1,398	(同左)	810	844	(同左)
めん羊・山羊	796	(同左)	2,333	932	(同左)	4,345

(2) と畜関係手数料 (円)

一般と畜場設置許可申請手数料		22,000	
簡易と畜場設置許可申請手数料		10,000	
検査手数料	牛・馬	生後 12 月以上	600
		生後 1 月以上 12 月未満	300
		生後 1 月未満	250
	豚	300	
	めん羊・山羊	200	

(3) 食鳥関係手数料 (円)

食鳥処理事業許可申請手数料		19,000
食鳥処理場の構造又は設備変更許可申請手数料		10,000
確認規定認定申請手数料		5,500
確認規定変更認定申請手数料		2,300
検査手数料	平日	3
	休日及び時間外	4

(4) 検査手数料の推移 (円)

	牛・馬	とく・こま・豚	めん羊・山羊	食鳥
昭和 47 年 5 月～	250	120	30	
昭和 52 年 1 月～	400	200	100	
昭和 61 年 4 月～	600	300	200	
平成 4 年 4 月～	600	300	200	4
平成 10 年 4 月～	600	300	200	平日 3 休日及び時間外 4

3 沖縄県全体のと畜検査統計

(1) と畜場別のと畜検査頭数

	中央食肉衛生検査所管内	北部食肉衛生検査所管内		南部保健所管内	宮古保健所管内	八重山保健所管内		合計
	沖縄県食肉センター株式会社	名護市食肉センター	畜産研究センター 沖縄県	久米島と畜場	宮古食肉センター株式会社	八重山食肉センター株式会社	与那国町食肉処理場	
牛	2,125	44		9	264	1,859		4,301
とく	2							2
馬	10				2	7		19
豚	194,541	100,718		66	585	1,592		297,502
めん羊								
山羊	1,381	884		113	510	419		3,307

(2) と畜検査頭数の推移

	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5
計	317,848	318,439	322,613	336,711	344,765	326,848	320,582	320,296	320,077	305,131
牛	4,158	3,729	3,823	4,037	4,178	4,186	3,817	3,791	4,116	4,301
とく	1	7	5	6	1	2	4	6	2	2
馬	46	25	30	30	45	35	29	31	23	19
豚	311,230	312,396	316,639	330,207	337,760	319,335	313,832	313,343	311,989	297,502
めん羊	1	1		2		1		2		
山羊	2,412	2,281	2,116	2,429	2,781	3,289	2,900	3,123	3,947	3,307

(3) と畜検査頭数 及び 獣畜のとさつ禁止又は廃棄したもの の原因

	と畜検査頭数 (とさつ頭数)	処 分 内 容	処 分 実 頭 数	細菌病			ウイ ルス	原虫病		寄生虫病			その他の疾病							合 計		
				豚 丹 毒	サル モ ネ ラ 症	放 線 菌 病	豚 赤 痢	そ の 他	ト キ ソ プ ラ ズ マ 症	そ の 他	の う 虫 病	ジ ス ト マ 病	そ の 他	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍		炎症又は炎症産物 による汚染	変性又は萎縮
合 計	305,131 (305,108)	禁止	5	5																	5	
		全部 廃棄	236	10	30			40	1			61	47	3	3	5	11			2	23	236
		一部 廃棄	229,165			2			13	1	51	910				344	55	222,803	10,251	17,122	251,552	
牛	4,301 (4,298)	禁止	0																			
		全部 廃棄	26									2	2				2			1	19	26
		一部 廃棄	3,382			2					51	411				88	14	2,617	326	1,950	5,459	
と く	2 (2)	禁止																				
		全部 廃棄																				
		一部 廃棄																				
馬	19 (19)	禁止																				
		全部 廃棄																				
		一部 廃棄	13															12		3	15	
豚	297,502 (297,483)	禁止	5	5																	5	
		全部 廃棄	206	10	30			40	1			58	45	3	2	3	8			1	5	206
		一部 廃棄	223,855							1	21					228	40	218,863	9,892	14,369	243,414	
めん 羊	0 (0)	禁止																				
		全部 廃棄																				
		一部 廃棄																				
山 羊	3,307 (3,306)	禁止																				
		全部 廃棄	4									1			1	2						4
		一部 廃棄	1,915						13		478					28	1	1,311	33	800	2,664	

統計資料

(食肉衛生検査所創立50周年)

凡 例

1 統計資料には次の略字を用いた。

センター	: (株) 沖縄県食肉センター
畜試	: 畜産試験場 (現 畜産研究センター)
中部	: 中部食肉センター (株)
真玉橋	: (株) 真玉橋食肉センター
北部食肉センター	: (株) 沖縄県北部食肉センター
沖畜	: 沖縄畜産工業(株)
ミート	: (株) 那覇ミート
久米島	: 久米島食肉センター
南部	: (株) 沖縄県南部食肉センター
協同	: 沖縄県協同食肉(株)
名護分工場	: (株) 沖縄県食肉センター名護分工場
名護センター	: 名護市食肉センター
GP センター	: (株) 沖縄県鶏卵食鳥流通センター

1. と畜検査等 50 年間の推移 (統計)

(1) 50 年間のと畜検査頭数 ①

		計	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58
合計	牛	21,087	1,066	2,269	1,377	1,559	2,065	1,746	2,405	2,433	2,465	3,702
	とく	87	10	3	4		2		7	2	3	56
	馬	178	19	21	38	15	13	7	11	10	16	28
	豚	3,406,319	297,153	263,550	272,399	326,879	342,106	382,771	382,921	360,514	379,326	398,700
	山羊	4,577	610	564	865	577	279	287	314	201	413	467
セン ター	牛	14,853	467	1,287	567	740	1,235	1,206	1,898	2,054	2,076	3,323
	とく	14	10	1	2				1			
	馬	119	7	11	17	10	12	5	9	9	14	25
	豚	1,014,453	85,393	68,752	72,206	90,054	94,854	104,464	123,010	121,792	127,119	126,809
	山羊	405	55	23	18	34	30	25	33	49	68	70
畜試	豚											0
中 部	豚	624,175	49,055	43,003	43,894	57,011	61,739	71,200	70,729	66,238	77,001	84,305
	山羊	1,277	182	203	294	175	47	77	120	63	60	56
真 玉 橋	豚	501,932	40,322	39,868	44,900	49,586	44,610	48,192	60,242	58,672	56,545	58,995
	山羊	586	88	62	45	31	20	36	83	38	89	94
北 部 七	牛	915	60	101	70	82	133	77	88	59	91	154
	とく	19			1		2		5	1	3	7
	馬	38	5	9	15	4			1	1	2	1
	豚	386,804	40,783	35,280	35,962	40,570	41,012	44,026	39,134	35,648	36,357	38,032
	山羊	1,184	98	113	224	96	55	83	69	45	190	211
沖 畜	牛	5,308	539	881	740	737	697	463	417	315	296	223
	とく	54		2	1				1	1		49
	馬	20	7	1	6	1	1	2	1			1
	豚	455,817	32,057	31,842	31,516	37,632	46,410	59,181	57,250	47,568	51,741	60,620
	山羊	69	11	7	6	5	9	8	8	6	6	3
ミ ト	豚	240,058	19,742	18,997	18,739	20,133	20,435	25,284	29,200	29,302	29,196	29,030
	山羊	8	4				1					3
久 米 島	牛	11							2	5	2	2
	馬	1										1
	豚	15,855	1,005	1,837	1,780	2,138	2,231	1,862	1,432	1,294	1,367	909
	山羊	31		1								30
南 部	豚	167,225	28,796	23,971	23,402	29,755	30,815	28,562	1,924			
	山羊	1,017	172	155	278	236	117	58	1			

※昭和 55 年 4 月 (株) 沖縄県南部食肉センターが (株) 沖縄県食肉センターに統合。

※昭和 58 年 12 月 1 日 沖縄県畜産試験場 (現在の畜産研究センター) が簡易と畜場として認可。

(1) 50年間のと畜検査頭数 ②

		計	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5
合計	牛	47,040	4,495	4,977	5,573	4,224	3,970	3,149	3,179	3,036	5,273	9,164
	とく	285	151	40	16	2	4	7	9	29	19	8
	馬	397	37	51	99	18	18	14	6	16	32	106
	豚	4,730,670	423,872	461,060	477,267	481,226	481,911	487,631	486,175	485,167	468,881	477,480
	山羊	31,278	1,932	3,134	3,170	2,846	2,708	2,719	2,963	3,750	4,188	3,868
	めん羊	3							2		1	
センター	牛	42,746	4,002	4,516	5,234	3,950	3,685	2,880	2,805	2,582	4,768	8,324
	とく	110	23	14	2	2	2	7	8	28	17	7
	馬	355	32	48	90	16	16	13	6	15	30	89
	豚	2,046,494	124,679	199,708	216,764	220,302	216,565	208,814	207,666	213,833	216,200	221,963
	山羊	15,689	982	1,654	1,676	1,760	1,570	1,547	1,547	1,526	1,788	1,639
畜試	豚	147	10	35	9	9	9	35	16	24		
中部	豚	1,042,789	93,637	89,232	98,450	102,706	109,102	112,175	105,420	113,376	107,217	111,474
	山羊	8,188	489	824	766	548	550	429	585	1,313	1,442	1,242
	めん羊	1							1			
真玉橋	豚	773,369	66,757	73,003	79,160	82,465	83,870	85,185	87,549	76,752	72,108	66,520
	山羊	4,839	276	495	561	423	397	580	616	600	429	462
協同	牛	2,907	233	176	143	124	163	147	284	373	477	787
	とく	98	68	22	1		2		1	1	2	1
	馬	37	5	3	9	1	2	1		1		15
	豚	378,605	41,506	44,201	24,057	17,769	24,637	43,895	49,862	47,244	42,220	43,214
	山羊	2,233	166	153	152	103	185	146	203	291	398	436
	めん羊	2							1		1	
沖畜	牛	1,386	259	285	196	150	122	122	90	81	28	53
	とく	77	60	4	13							
	馬	5				1					2	2
	豚	457,349	67,066	53,181	58,827	57,975	47,728	37,527	35,662	33,938	31,136	34,309
	山羊	328	18	8	15	12	6	17	12	20	131	89
ミート	豚	30,799	29,099	1,700								
	山羊											
久米島	牛	1	1									
	馬											
	豚	1,118	1,118									
	山羊	1	1									

※昭和60年4月久米島食肉センターが那覇保健所（のちの中央保健所）管轄となった。

※昭和60年4月（株）那覇ミートが（株）沖縄県食肉センターに統合。

※昭和63年9月30日北部食肉センター（株）が廃業。沖縄協同食肉（株）として発足。

(1) 50年間のと畜検査頭数 ③

		計	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
合計	牛	42,075	6,037	4,787	4,219	4,459	4,968	5,089	4,610	3,475	1,857	2,574
	とく	15	3	2		1	2	3	0	2		2
	馬	1,708	148	199	196	193	179	163	145	181	121	183
	こま	2				1					1	
	豚	4,397,406	475,703	482,420	471,518	476,873	452,651	438,270	429,301	415,715	386,566	368,389
	山羊	24,897	3,384	2,651	2,910	2,841	2,716	3,037	3,167	2,258	1,124	809
	めん羊	12			1	10					1	
センター	牛	39,181	5,212	4,244	3,821	4,118	4,595	4,717	4,610	3,475	1,857	2,532
	とく	9	2	2		1				2		2
	馬	1,409	93	141	147	148	127	123	145	181	121	183
	こま	2				1					1	
	豚	2,514,738	219,815	225,281	233,630	241,813	239,031	233,290	248,346	299,198	290,974	283,360
	山羊	8,992	1,271	1,109	1,185	1,092	919	928	1,015	1,473		
	めん羊	1				1						
畜試	豚											
中部	豚	1,025,972	117,995	113,972	108,908	129,995	117,196	108,304	112,155	116,517	95,592	5,338
	山羊	9,235	1,039	733	949	854	1,084	1,236	1,342	785	1,124	89
	めん羊	11			1	9					1	
真玉橋	豚	460,322	63,654	70,132	67,047	72,820	71,782	73,213	41,674			
	山羊	3,422	537	488	524	691	487	445	250			
協同	牛	1,328	801	527								
	とく	1	1									
	馬	107	52	55								
	豚	85,421	41,447	43,974								
	山羊	755	440	315								
名護分工場	牛	1,475			389	341	373	372				
	とく	5					2	3				
	馬	184			47	45	52	40				
	豚	143,254			36,725	31,298	24,642	23,463	27,126			
	山羊	1,648			230	204	226	428	560			
名護センター	牛	42										42
	豚	79,691										79,691
	山羊	720										720
	めん羊											
沖畜	牛	49	24	16	9							
	馬	8	3	3	2							
	豚	88,008	32,792	29,061	25,208	947						
	山羊	125	97	6	22							

※平成7年9月29日沖縄県協同食肉(株)が廃業し、(株)沖縄県食肉センター名護分工場として発足。

※平成9年4月14日沖縄畜産工業(株)がと畜場を廃止し、中部食肉センター(株)に統合。

※平成13年2月27日(株)真玉橋食肉センターが廃業

※平成13年2月28日(株)沖縄県食肉センター名護分工場が廃止。

(1) 50年間のと畜検査頭数 ④

		計	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
合 計	牛	24,836	2,566	2,489	2,460	2,305	2,612	2,583	2,595	2,231	2,295	2,700
	とく	11	1		1		3	4	1			1
	馬	794	206	140	85	64	60	49	48	46	50	46
	豚	3,386,881	353,075	321,251	324,193	322,710	322,198	351,828	363,660	350,660	347,903	329,403
	山羊	8,670	761	783	662	627	726	677	713	836	1,369	1,516
	めん羊	8		3				3			2	
セ ン タ ー	牛	23,874	2,509	2,442	2,403	2,233	2,503	2,442	2,446	2,104	2,190	2,602
	とく	9	1		1		1	4	1			1
	馬	794	206	140	85	64	60	49	48	46	50	46
	豚	2,260,420	263,668	226,901	220,506	211,067	200,744	224,153	239,769	229,357	227,431	216,824
	山羊	1,672								184	696	792
名 護 セ ン タ ー	牛	962	57	47	57	72	109	141	149	127	105	98
	とく	2					2					
	豚	1,126,461	89,407	94,350	103,687	111,643	121,454	127,675	123,891	121,303	120,472	112,579
	山羊	6,998	761	783	662	627	726	677	713	652	673	724
	めん羊	8		3				3			2	
畜 試	豚											

※平成 15 年 4 月 1 日名護市食肉センターが操業開始。

※平成 15 年 4 月 30 日中部食肉センター（株）が廃止。

(1) 50年間のと畜検査頭数 ⑤

		計	H26	H27	H28	H29	H30	H31(R1)	R2	R3	R4	R5
合計	牛	20,989	2,324	1,936	1,958	2,103	2,184	2,210	2,004	2,009	2,092	2,169
	とく	11	1	2	1	1			2	1	1	2
	馬	221	34	20	25	21	21	23	22	26	19	10
	豚	3,141,536	308,057	309,684	314,243	328,008	335,674	317,399	312,016	311,154	310,042	295,259
	山羊	19,545	1,441	1,320	1,410	1,616	1,994	2,406	2,122	2,196	2,775	2,265
	めん羊	7	1	1		2		1		2		
センター	牛	20,530	2,248	1,888	1,921	2,059	2,138	2,153	1,967	1,979	2,052	2,125
	とく	10	1	2	1	1			1	1	1	2
	馬	221	34	20	25	21	21	23	22	26	19	10
	豚	2,032,774	205,277	196,287	198,710	207,281	216,990	205,798	201,782	203,901	202,207	194,541
	山羊	11,538	722	779	823	878	1,203	1,456	1,299	1,371	1,626	1,381
	めん羊	3	1			2						
名護センター	牛	459	76	48	37	44	46	57	37	30	40	44
	とく	1							1			
	豚	1,108,762	102,780	113,397	115,533	120,727	118,684	111,601	110,234	107,253	107,835	100,718
	山羊	7,246	719	541	587	738	791	950	823	82	1,149	884
	めん羊	3					1		2			
畜試	豚											

(2) 50年間のとさつ禁止頭数（豚）①

疾病別		豚 丹 毒	破 傷 風	そ の 他 細 菌 病	ト キ ソ プ ラ ズ マ 病	膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	尿 毒 症	中 毒 諸 症	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計											
S49	304											304
S50	801	169	1		472	20	2			1		136
S51	267	33			95	28		1				110
S52	256	42		11	54	12						137
S53	173	47		1	50	21	9	5				40
S54	69	31			5	4	2	1				26
S55	38	27			1	8						2
S56	11	1			1	1	1					7
S57	17	4			2	6	5					
S58	45	20			2	16	1					6
S59	49	12			2	20	1					14
S60	36	7			3	14	4		1			7
S61	67	3			4	23	9					28
S62	42	4				24	2					12
S63	105	18		1	4	30	4					48
H1	105	4			1	48	7					45
H2	92	1			1	50	6	1				33
H3	51	2				23	4					22
H4	87	5				29	3					50
H5	42	1				15	4					22
H6	36	2				15	1					18
H7	39	4				16						19
H8	31	3				12						16
H9	36	13				8	3					12
H10	54	13				20	3					18

(2) 50年間のとさつ禁止頭数(豚)②

疾病別		豚 丹 毒	破 傷 風	そ の 他 細 菌 病	ト キ ソ プ ラ ズ マ 病	膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	尿 毒 症	中 毒 諸 症	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計											
H11	34	15				10						9
H12	60	24				18	1				17	
H13	61	28				24	1					8
H14	49	24				21					4	
H15	24	15				5					4	
H16	46	39				1					6	
H17	17	11				2					4	
H18	15	10				1					4	
H19	17	13									4	
H20	18	13			1						4	
H21	30	25				1					4	
H22	15	11				1					3	
H23	15	11				3					1	
H24	20	16				3					1	
H25	7	7										
H26	13	9									4	
H27	25	24									1	
H28	11	6									5	
H29	33	27				1					5	
H30	26	23									3	
H31 (R1)	12	9				1					2	
R2	3	1				1					1	
R3	4	2									2	
R4	5	2									3	
R5	5	5										

(2) 50年間のとさつ禁止頭数（牛）

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	尿 毒 症	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計						
S49							
S50	3	1					2
S51							
S52	1						1
S53							
S54							
S55							
S56							
S57	2						2
S58							
S59							
S60	3						3
S61							
S62	1						1
S63							
H1	4		2				2
H2	5	1	1				3
H3	33	9					24
H4	5		1				4
H5	11						11
H6	19	1					18
H7	4						4
H8	6		1				5
H9	14		1				13
H10	16						16

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	尿 毒 症	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計						
H11	9						9
H12	5					3	2
H13	7	2					5
H14	3			1		2	
H15	3			1		1	1
H16	7			1	2	4	
H17	2			1		1	
H18	3				1	2	
H19	2					2	
H20							
H21	3			1		2	
H22	6			1	5		
H23	3			2	1		
H24	5			1	3		1
H25							
H26							
H27	2				1	1	
H28	2			2			
H29	2			2			
H30	2			1	1		
H31 (R1)							
R2	1				1		
R3							
R4	1			1			
R5							

(2) 50年間のとさつ禁止頭数（山羊・馬）
（山羊）

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	破 傷 風	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計						
S49							
S50							
S51							
S52							
S53							
S54							
S55							
S56							
S57							
S58							
S59							
S60	2				1		1
S61	1						1
S62							
S63							
H1							
H2	1						1
H3							
H4	1	1					
H5							
H6	1	1					
H7							
H8							
H9							
H10	1						1

※ その他：S61（結核病）

※ 馬については、平成16年度の黄疽1頭、平成28年度の黄疽1頭のみ。

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疽	熱 性 諸 症	そ の 他
年 度	計						
H11	1		1				
H12							
H13							
H14							
H15							
H16							
H17							
H18							
H19							
H20							
H21							
H22							
H23							
H24	1			1			
H25							
H26	1					1	
H27	1					1	
H28							
H29	3			1		2	
H30	1						
H31 (R1)							
R2	1					1	
R3							
R4							
R5							

(3) 50年間の全部廃棄頭数(豚)①

疾病別		豚 丹 毒	サル モ ネ ラ 症	ト キ ソ プ ラ ズ マ 症	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	変 性	白 血 病	細 菌 性 そ の 他	原 虫 そ の 他	炭 疽	そ の 他
年 度	計															
S49	819	44		745	10	4		4			1					11
S50	456	14		404	24	3		5			1					5
S51	258	17		210	23	2		5								1
S52	309	14		251	26	6		4		1	1					6
S53	355	20		298	18	4		9		1	2					3
S54	322	15		287	11	1	1	3		2						2
S55	378	10		319	26	6		14			3					
S56	349	18		240	40	22	1	10		1	1				1	15
S57	365	25	7	244	51	19		11		1		6				1
S58	325	46	5	195	43	12	3	10		2	2	5				2
S59	307	45	3	149	94	3	1	8			1	3				
S60	244	45	2	116	53	12		9		1	2	4				
S61	219	18	2	84	78	14		17		2	1	3				
S62	247	24	1	67	100	30	1	18		1	4	1				
S63	277	27		64	102	54		14	1	1	9	5				
H1	201	34		9	77	54		13		4	5			4		1
H2	197	15		12	67	53	1	13		1	2			31		2
H3	217	23		16	66	36	1	10		1	3			60		1
H4	198	39		3	52	41		17		1	4			37		4
H5	134	9		13	48	13	1	9		1	6	2		32		
H6	176	21		3	55	27	2	13		2	3	1		49		
H7	262	29		11	134	28	1	15		5	7	1		31		
H8	210	22		8	74	47	2	15	2	2	5	2		31		
H9	231	59		37	55	14		19	2	3	9			33		
H10	254	49		29	80	33	2	14		5	10	1		31		

(3) 50年間の全部廃棄頭数(豚)②

疾病別		豚 丹 毒	サル モ ネ ラ 症	ト キ ン プ ラ ズ マ 症	膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	変 性	白 血 病	細 菌 性 そ の 他	原 虫 そ の 他	炭 疽	そ の 他
年 度	計															
H11	394	100		38	123	65	1	10		4	26			27		
H12	287	129		27	54	37	2	4		4	7			23		
H13	256	73		87	40	22		5	1	3	8	2		15		
H14	224	69		39	45	33		9		3	9	2		15		
H15	342	56		33	37	154		9	1	5	13			34		
H16	608	86		58	24	226		4	1	3	5		178	23		
H17	244	63		17	24	85		2	1	4	4	1	37	6		
H18	397	59		46	29	230		3		4	6		14	6		
H19	293	99		50	20	73		4		2	12		27	6		
H20	431	88	163	78	27	41		3		3	13	1	2	12		
H21	434	172	85	82	33	25		1		12	6	1		17		
H22	323	48	106	88	15	17		3		26	4	3		11		2
H23	345	82	109	82	20	18			1	8	6	5		12		2
H24	390	97	155	73	9	37	1	1		5	6	1		5		
H25	311	75	133	40	5	40		2		6	1	4		5		
H26	312	72	142	50	6	20		3	1	7	3	2		6		
H27	346	76	93	95	7	59	1	2		2	4			7		
H28	251	25	72	48	2	84		1		4	5	3		7		
H29	402	192	52	57	8	71	1	6		5		3		7		
H30	334	169	55	15	20	66				6				3		
H31 (R1)	443	224	53	50	23	77	3	2		5		2		4		
R2	186	17	34	29	22	64	2	4		8	1		1	4		
R3	109	6	18	19	25	32		1		3		2	1	2		
R4	196	20	39	53	41	32		2	1	4		2		2		
R5	206	10	30	40	58	45	3	2	3	8	1	5		1		

(3) 50年間の全部廃棄頭数(牛)①

疾病別		膿	敗	尿	黄	水	腫	変	白	そ
年 度	計	毒	血	毒					血	の
		症	症	症	疸	腫	瘍	性	病	他
S49										
S50										
S51										
S52										
S53	3	1			2					
S54										
S55	1	1								
S56	5		2					1		2
S57	12	1	7		3	1				
S58	10	3	5				1			1
S59	2	1	1							
S60	2		1						1	
S61	20	8	6		3	2			1	
S62	29	6	12			2		8	1	
S63	37	7	17	1	1	9	1	1		
H1	25	8	6	1	1		1	8		
H2	29	5	15		4			3		2
H3	18	2	13			1		2		
H4	14	1	7					5		1
H5	8	4			1	1		2		
H6	9	2	4					2	1	
H7	13	3	5		1				4	
H8	11	2	7	1					1	
H9	10		4		1	1	1	3		
H10	9	3	2				1	2	1	

(3) 50年間の全部廃棄頭数(牛)②

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	尿 毒 症	黄 疸	水 腫	腫 瘍	変 性	白 血 病	ヨ ー ネ 病	そ の 他
年 度	計										
H11	7	1	3				1	2			
H12	15		9			2	1	3			
H13	10	4	2			1	1	2			
H14	9		2	1	1	2		1	2		
H15	6			2	1	1	1	1			
H16	8		3			1	1		3		
H17	13		1		1		4		7		
H18	10	1	4				4		1		
H19	9						3	2	4		
H20	12		2		2	1	5		2		
H21	21	1	4		1	1	12	1	1		
H22	15	1	5	1		1	7				
H23	7	2	2				3				
H24	13		3				1		9		
H25	12	1	4						7		
H26	12			1					11		
H27	16		2				1		13		
H28	13		3						10		
H29	15		3						12		
H30	10	1	1						8		
H31 (R1)	20	4	6						10		
R2	17		2						14	1	
R3	21	1	4			1			15		
R4	23	1	5			1	1		15		
R5	16	2	1				1	1	11		

(3) 50年間の全部廃棄頭数（山羊）

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	水 腫	変 性	腫 瘍
年 度	計						
S49							
S50							
S51							
S52							
S53							
S54							
S55							
S56							
S57							
S58							
S59	1	1					
S60							
S61							
S62							
S63							
H1	1					1	
H2	1		1				
H3	1	1					
H4	1	1					
H5	2	2					
H6	1	1					
H7	2	2					
H8							
H9	1	1					
H10	3		2			1	

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	黄 疸	水 腫	変 性	腫 瘍
年 度	計						
H11	3	1	1				1
H12	2	1			1		
H13	2		1			1	
H14	2		2				
H15							
H16							
H17	3	3					
H18	1	1					
H19							
H20							
H21							
H22	2				1	1	
H23							
H24	2	1	1				
H25	1					1	
H26	1			1			
H27							
H28	2	1			1		
H29	2	2					
H30	1		1				
H31 (R1)	3	1			1	1	
R2	1					1	
R3	3	1			1	1	
R4	6	4				2	
R5	3				2	1	

(3) 50年間の全部廃棄頭数（馬）

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	腫 瘍	変 性
年 度	計				
S49					
S50					
S51					
S52					
S53					
S54					
S55					
S56					
S57					
S58					
S59					
S60					
S61					
S62					
S63					
H1					
H2	1		1		
H3					
H4					
H5					
H6					
H7	1			1	
H8	1	1			
H9					
H10					

疾病別		膿 毒 症	敗 血 症	腫 瘍	変 性
年 度	計				
H11					
H12	1			1	
H13	1			1	
H14					
H15	2			2	
H16	3			3	
H17					
H18					
H19	1			1	
H20					
H21					
H22					
H23	1				1
H24					
H25					
H26					
H27					
H28					
H29					
H30					
H31 (R1)					
R2					
R3					
R4					
R5					

(4) 食鳥検査羽数(32年間)①

年度	計	沖縄食鶏加工(株)		中央食品加工(株)			(株)沖縄県鶏卵食鳥流通センター		沖縄畜産株式会社		
		ブロイラー	成鶏	ブロイラー	成鶏	あひる	成鶏	あひる	ブロイラー	成鶏	あひる
H4	4,384,395	1,758,886		1,401,617		2	347,277		876,613		
H5	4,119,050	1,839,063	3,804	1,407,504		33	36,508		832,138		
H6	3,905,108	1,722,184		1,290,746	11,072	106	/		881,000		
H7	4,009,352	1,735,786	7,509	1,338,767	4,678	1			889,970	32,624	17
H8	3,862,041	1,652,242	15,361	1,387,956					779,504	26,949	29
H9	3,578,229	1,976,909	17,070	1,493,283		5			90,962		
H10	3,851,740	2,044,214		1,469,376		70	338,080		/		
H11	3,890,848	2,102,981		1,368,124	5	30	419,708				
H12	3,870,168	2,051,335	17	1,369,651			449,165				
H13	3,708,680	1,862,496	7	1,352,760		13	493,404				
H14	3,627,100	1,763,637		1,391,927			471,536				
H15	3,480,837	1,677,356		1,283,933			519,548				
H16	3,501,926	1,730,234		1,282,843			488,849				
H17	3,606,431	1,758,121		1,343,995			504,315				
H18	3,638,641	1,791,472		1,357,262			489,907				
H19	3,727,409	1,793,540		1,469,904			463,965				
H20	3,838,860	1,878,739		1,517,670			442,433	18			
H21	3,667,242	1,835,016		1,367,371			464,850	5			
H22	3,648,463	1,788,971		1,332,732			526,760				
H23	3,700,779	1,822,916		1,373,965			503,898				
H24	3,622,571	1,788,576		1,243,912			590,083				

※平成6年～平成9年 (株)沖縄県鶏卵食鳥流通センターが処理羽数減少のため認定小規模食鳥処理場となる。

※平成9年5月：沖縄畜産(株)廃業。

(4) 食鳥検査羽数(32年間)②

年度	計	沖縄食鶏加工(株)		中央食品加工(株)			(株)沖縄県鶏卵 食鳥流通センター		名護市食鳥 処理施設
		ブロイラー	成鶏	ブロイラー	成鶏	あひる	成鶏	あひる	ブロイラー
H25	3,723,297	1,756,989		1,455,163			511,145		/
H26	3,972,147	1,766,510		1,680,800			524,837		
H27	4,041,661	1,682,104		1,834,816			524,741		
H28	3,959,111	1,619,022		1,804,989			535,100		
H29	3,986,262	1,623,382		1,874,569			488,311		
H30	4,130,794	1,715,409		1,845,457			569,928		
H31(R1)	4,126,445	572,840		548,559			519,453	2,485,593	
R2	4,141,068	/	/	/	/	/	526,877		3,614,191
R3	4,228,713						532,404		3,696,309
R4	4,286,107						510,267		3,775,840
R5	4,378,428						495,268		3,883,160

※令和元年7月：沖縄食鶏加工(株)と(有)中央食品加工が名護市食鳥処理施設を新築し、操業開始

※令和元年7月：(有)中央食品加工が食鳥処理場(名護市許田)を廃止

※令和元年8月：沖縄食鶏加工(株)が食鳥処理場(豊見城市長堂)を廃止

2. 調査研究(50年間)

年 度	学会・研修会名	発表演題名	発表者名
昭和 49 年	所内研修会 (1 回) 県監視員発表会 (7 回) 県獣医学会 (5 回)	と畜場における豚の脊椎膿瘍の調査結果について と畜検査時における廃棄について と畜場における豚肺虫の検索 家畜衛生試験場における研修について と畜場に搬入される豚, 牛, 山羊の HA 抗体調査 豚の TP 抗体調査と清浄化対策について と畜検査における生体検査について と畜場における豚の肺, 肺門リンパからの TP の検出 横浜食肉衛生検査所における研修報告 食肉の細菌汚染について と畜検査で見られた三病例について	比嘉 次郎 (北部支所) 屋比久 進 (北部支所) 花城 康永 安里 学 比嘉 次郎 (北部支所) 浦崎 民雄 名幸 方光 (北部支所) 天久 勇市 比嘉 次郎 (北部支所) 大城 章信 (北部支所) 森根 庸夫
昭和 50 年	所内研修会 (2 回) 県獣医学会 (6 回)	食肉の細菌汚染について 疾病の病変状について 健康豚の肝からのサルモネラ検出について 北部食肉センターにおける豚の疾病について と畜検査よりみた豚疾病の実態について 北部食肉センターに搬入される豚, 牛, 山羊の TP, HA 抗体調査成績 広島市と畜場における豚のトキソプラズマ抗体調査及びマイクロタイター法の実施について	屋比久 進 (北部支所) 大城 章信 (北部支所) 本田 善美 大城 章信 (北部支所) 仲田 安雄 比嘉 次郎 (北部支所) 本田 善美
昭和 51 年	所内研修会 (3 回) 監視員発表会 (8 回) 県獣医学会 (7 回) 獣医公衆衛生学会 (九州)	と畜場に於ける豚肺虫の検索 豚の炎症性疾患に関する調査 (第一報) 豚の炎症性疾患に関する調査 (第二報) 豚の胃潰瘍調査について 豚の膿瘍に関する調査 (第一報) 豚の膿瘍に関する調査 (第二報) 豚の心内膜血腫, 水疱の細菌検索について と殺豚の肝実質からのサルモネラ検出について 食肉検査よりみた豚疾病の実態について と畜場に於ける豚肺虫の検索 豚の胃潰瘍調査について 豚の炎症性疾患に関する調査 (第一報) 豚の膿瘍に関する調査 (第一報) 豚の心内膜水疱, 血腫の細菌検索について と殺豚の肝実質からのサルモネラ検出について と畜検査時に見られる豚の疾病 (6 例) の肉眼的病理組織学的所見 豚の膿瘍に関する調査 (第二報) と畜場における豚の検査成績とその主な疾病の動向について と殺豚の顎下リンパ節の結核様病変からの菌分離について 豚の炎症性疾患に関する調査 (第二報) 豚の胎児性腎腫について と殺豚の下顎リンパ節の結核様病変からの菌分離について (第一報)	花城 康永 城間 秀栄 城間 秀栄 小野寺 至 (北部支所) 金城 清二 金城 清二 大城 章信 (北部支所) 下川 信博 仲田 安雄 花城 康永 小野寺 至 (北部支所) 城間 秀栄 金城 清二 大城 章信 (北部支所) 下川 信博 比嘉 次郎 (北部支所) 金城 清二 仲田 安雄 本田 善美 城間 秀栄 比嘉 次郎 (北部支所) 本田 善美
昭和 52 年	所内研修会 (4 回) 県獣医学会 (8 回)	正常豚のピリルピン平均値 と殺豚の肝実質からの <i>Salmonella</i> 検出について 豚の膿瘍に関する調査 (その三) 山羊の T・P 症に関する研究 と畜検査時にみられる病変について 黒色腫について と畜検査時に発見した豚のリンパ肉腫について 豚の悪性黒色腫について 豚の膿瘍に関する調査 (その三) と殺豚の肝臓実質から, 分離同定した <i>Salmonella</i> について 沖縄県内 1 と畜場において山羊より分離したトキソプラズマについて	大城 文雄 本田 善美 当山 晴朗 天久 勇市 屋比久 進 (北部支所) 大城 章信 (北部支所) 比嘉 次郎 (北部支所) 大城 章信 (北部支所) 当山 晴朗 本田 善美 天久 勇市
昭和 53 年	所内研修会 (5 回) 県公衆衛生学会 (10 回)	と畜場でみられる牛の疾病について と畜の黄疸に関する調査 (第一報) と畜場でみられる豚の線維素性胸膜炎に関する調査 (第一報) 食肉中の抗菌性物質検査について トキソプラズマ, ビバリー株感染マウスの血清中抗体の経時的変化とシストの検出状況について 豚 Tp 症の病理組織所見 豚膿瘍由来グラム陰性桿菌および嫌気性菌の同定 PC, SM, CP, OTC, TR 等についての <i>S. lutea</i> , <i>B. subtilis</i> , <i>B. cereus</i> の抗菌スペクトル (enhifition. fattern yore) について ブタ由来について <i>Fersinia enterocolitica</i> 食肉中の抗菌性物質残留調査のための予備実験 (その 2)	屋比久 進 渡口 政司 安里 学 浦崎 民雄 上地 俊秀 安里 学 金城 清二 名幸 方光 (北部支所) 上地 俊秀 名幸 方光 (北部支所)

昭和53年	<p>県公衆衛生学会（10回）</p> <p>県獣医学会（9回）</p> <p>獣医公衆衛生学会（九州）</p>	<p><i>S. lutea</i>, <i>B. subtilis</i>, <i>B. cereus</i>を用いた抗生物質5種の阻止径パターンについて</p> <p><i>Yersinia enterocolitica</i>の調査（その一）</p> <p>豚トキソプラズマ症の病理組織所見</p> <p>と畜場における牛の疾病の実態について</p> <p>豚の線維索性胸膜肺炎, 心のうゆ着を主徴とする疾病の調査</p> <p>と畜の黄疸に関する調査（第一報）</p> <p>トキソプラズマ, ビバリー株感染マウスの血清中抗体の経時的変化とシストの検出状況について</p> <p>と畜の黄疸に関する調査（第1報）</p>	<p>名幸 方光（北部支所）</p> <p>上地 俊秀</p> <p>安里 学</p> <p>屋比久 進</p> <p>安里 学</p> <p>渡口 政司</p> <p>上地 俊秀</p> <p>渡口 政司</p>
昭和54年	<p>所内研修会（6回）</p> <p>その他</p> <p>県公衆衛生学会（11回）</p> <p>県獣医学会（10回）</p> <p>獣医公衆衛生学会（九州）</p>	<p>と畜の黄疸及び尿毒症に関する調査</p> <p><i>Yersinia enterocolitica</i>の調査</p> <p>と畜場における <i>Toxoplasma</i> 病に関する調査（その2）</p> <p>豚の糖尿病を疑う糸球体硬化症</p> <p>食肉検査について</p> <p>と畜の前眼房水中の尿素測定値について</p> <p>と畜場における人畜共通感染症の傾向について</p> <p>店舗マナイタからの <i>Yersinia enterocolitica</i> の分離成績</p> <p>豚膿瘍から分離したグラム陰性桿菌の生物学的性状について</p> <p>と畜における抗菌性物質の残留調査</p> <p>と畜場における <i>Toxoplasma</i> 病に関する調査（その二）</p> <p>豚の糖尿病を疑う糸球体硬化症</p> <p>と畜の黄疸および尿毒症に関する調査</p> <p><i>Yersinia enterocolitica</i> の調査</p> <p>と畜の黄疸に関する調査（第2報）</p> <p>と畜場における <i>Toxoplasma</i> 病に関する調査</p>	<p>島谷 融</p> <p>上地 俊秀</p> <p>渡口 政司</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>大城 孝喜</p> <p>島谷 融</p> <p>渡口 政司</p> <p>上地 俊秀</p> <p>渡口 佐知子</p> <p>浦崎 崎雄</p> <p>渡口 政司</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>島谷 融</p> <p>上地 俊秀</p> <p>島谷 融</p> <p>渡口 政司</p>
昭和55年	<p>所内研修会（7回）</p> <p>全食協病理部会（3回）</p> <p>県公衆衛生学会（12回）</p> <p>県監視員発表会（11回）</p> <p>県獣医学会（11回）</p> <p>獣医公衆衛生学会（九州）</p>	<p>と畜場における抗菌性物質の残留調査(その三)</p> <p>豚 <i>Hemophilus</i> 様肺炎より分離された <i>Hemophilus</i> について</p> <p>と殺豚の格付けと病変の関係について</p> <p>虫卵検査と疾病等についての一考察</p> <p>死虫免疫マウスの感染防御におよぼす Levamisole の効果</p> <p>豚の腫瘍</p> <p>と畜場で廃棄される豚の肺臓病変の病理組織学的所見</p> <p>と殺豚から分離した抗酸菌に関する研究（分離菌の生物学的並びに生化学的性状）</p> <p>トキソプラズマ死虫免疫マウスの感染防御におよぼすレバミゾールの免疫増強効果</p> <p>と殺豚肺病変からの <i>Hemophilus</i> 菌分離について</p> <p>と畜場における抗菌性物質の残留調査(その三)</p> <p>豚 <i>Hemophilus</i> 様肺炎より分離された <i>Hemophilus</i> について</p> <p>と殺豚の格付けと病変の関係について</p> <p>虫卵検査と疾病等についての一考察</p> <p>トキソプラズマ死虫免疫マウスの感染防御におよぼす Levamisole の効果</p> <p>と殺豚肺病変からの <i>Hemophilus</i> 菌分離について</p>	<p>野村 一則</p> <p>島谷 融</p> <p>渡口 政司</p> <p>野村 一則</p> <p>渡口 政司</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>比嘉 次郎</p> <p>本田 善美</p> <p>渡口 政司</p> <p>島谷 融</p> <p>野村 一則</p> <p>島谷 融</p> <p>渡口 政司</p> <p>野村 一則</p> <p>渡口 政司</p> <p>島谷 融</p>
昭和56年	<p>全食協病理部会（4回）</p> <p>全食協病理部会（5回）</p> <p>県公衆衛生学会（13回）</p> <p>県監視員発表会（12回）</p> <p>県獣医学会（12回）</p> <p>獣医公衆衛生学会（九州）</p>	<p>豚の腸</p> <p>豚の肝にみられた腫瘍</p> <p>豚の耳殻部の腫瘍</p> <p>抗酸菌の各種消毒剤に対する抵抗性について</p> <p>豚の肝実質からの <i>Salmonella</i> について</p> <p>食用に不適な豚の肺病変の病理組織学的所見について</p> <p>豚の悪性腫瘍</p> <p>豚の肝実質からの <i>Salmonella</i> について（第二報）</p> <p>と殺豚から分離した抗酸菌について（第二報）</p> <p>トキソプラズマ死虫免疫マウスの感染防御におよぼすレバミゾールの免疫増強効果(II)</p> <p>と殺豚から分離した抗酸菌について</p> <p>豚の悪性腫瘍</p>	<p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>野中 克治</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>本田 善美</p> <p>新里 武則</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>新里 武則</p> <p>本田 善美</p> <p>渡口 政司</p> <p>本田 善美</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p>
昭和57年	<p>所内研修会（8回）</p> <p>全食協病理部会（6回）</p>	<p>豚の白血病について</p> <p>牛の白血病抗体調査</p> <p>カンピロバクターについて</p> <p>と殺豚から分離した非定型マイコプラズマの各種消毒剤に対する感受性について</p> <p>と畜場でみられた豚の腸炎型炭疽について</p> <p>回腸の肥厚を特徴とする小腸炎について</p> <p>心臓病変の病理学的所見について</p> <p>血液塗抹標本作成に関する2, 3の条件の検討 1. 主として牛の白血球について</p> <p>豚の耳介部の変形（異常）</p> <p>牛の心内膜に発生した腫瘍</p>	<p>徳嶺 光男</p> <p>安斎 俊一</p> <p>新里 武則</p> <p>本田 善美</p> <p>渡口 政司</p> <p>島袋 泰俊（北部支所）</p> <p>長田 悦朗（北部支所）</p> <p>安里 佐知子</p> <p>比嘉 次郎</p> <p>長田 悦朗（北部支所）</p>

昭和 57 年	<p>全食協病理部会 (6 回)</p> <p>全食協病理部会 (7 回)</p> <p>県公衆衛生学会 (14 回)</p> <p>県監視員発表会 (13 回)</p> <p>県獣医学会 (13 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p>	<p>豚の回腸 2 例</p> <p>豚の肝臓にできた腫瘍</p> <p>豚の結腸及び盲腸</p> <p>ウシ白血病の公衆衛生的諸問題 ～ウシ白血病ウイルスのヒトへの感染の可能性について</p> <p>豚の回腸の肥厚を特徴とする小腸炎</p> <p>と殺豚から分離した <i>Campylobacter fetus</i> subsp. <i>jejuni</i> について</p> <p>と畜場でみられた豚の腸炎型炭疽について</p> <p>沖縄県における牛の白血病抗体調査</p> <p>と畜場でみられた豚の白血病一例について</p> <p>血清生化学的検査に関する基礎試験</p> <p>と畜場でみられた豚の腸炎型炭疽について</p> <p>豚の回腸の肥厚を特徴とする小腸炎</p> <p>沖縄本島内におけると殺豚および環境物質からの非定型マイクロバクテリアの分離状況</p> <p>と畜場でみられた豚の腸炎型炭疽について</p>	<p>島袋 泰俊 (北部支所)</p> <p>長田 悦朗 (北部支所)</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>安斉 俊一</p> <p>島袋 泰俊 (北部支所)</p> <p>新里 武則</p> <p>渡口 政司</p> <p>安斉 俊一</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>渡口 佐知子</p> <p>渡口 政司</p> <p>島袋 泰俊 (北部支所)</p> <p>本田 善美</p> <p>渡口 政司</p>
昭和 58 年	<p>所内研修会 (9 回)</p> <p>全食協病理部会 (8 回)</p> <p>県公衆衛生学会 (15 回)</p> <p>県監視員発表会 (14 回)</p> <p>県獣医学会 (14 回)</p>	<p>豚の腸炎型炭疽について</p> <p>一部廃棄の対象となる疾病の病理組織検査及び病名統一</p> <p>沖縄県におけるブタ白血病の発生状況</p> <p>豚と小型豚の調査について</p> <p>肉豚の雌雄別一部廃棄率と格付けについて</p> <p>枝肉中の抗菌性物質の残留調査について</p> <p><i>Salmonella typhi-suis</i> を原因菌とする豚のサルモネラ症について</p> <p>沖縄本島内におけると殺豚および環境物質からの非定型マイクロバクテリアの分離状況</p> <p>豚の腫瘍</p> <p>豚の腹腔内腫瘍</p> <p>豚の腎 (動脈の病変 2 例)</p> <p>沖縄県で発生した成牛型 (地方病型) ウシ白血病およびその安全性について</p> <p><i>Salmonella typhi-suis</i> を原因菌とする豚のサルモネラ症について</p> <p>沖縄本島内におけると殺豚および環境物質からの非定型マイクロバクテリアの分離状況</p> <p><i>Salmonella typhi-suis</i> を原因菌とする豚のサルモネラ症について</p> <p>沖縄県のと畜場におけるブタ白血病の発生状況について</p> <p>血清保存が乳用牛血清成分におよぼす影響について</p>	<p>大城 章信 (北部支所)</p> <p>長田 悦朗 (北部支所)</p> <p>安斉 俊一</p> <p>比嘉 健俊</p> <p>名幸 方光 (北部支所)</p> <p>城間 秀栄</p> <p>新里 武則</p> <p>本田 善美</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>長田 悦朗 (北部支所)</p> <p>島袋 泰俊 (北部支所)</p> <p>安斉 俊一</p> <p>新里 武則</p> <p>本田 善美</p> <p>新里 武則</p> <p>安斉 俊一</p> <p>安里 佐知子</p>
昭和 59 年	<p>所内研修会 (10 回)</p> <p>全食協病理部会 (11 回)</p> <p>県公衆衛生学会 (16 回)</p> <p>県監視員発表会 (15 回)</p> <p>県獣医学会 (15 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p>	<p>沖縄県のと畜場ではじめて見られた牛の白血病について</p> <p>北部支所における日常業務及び食肉の抗菌性物質の残留調査 (昭和 58 年度)</p> <p>と畜場で見られた牛の腺ガンについて</p> <p>ブタのサルモネラ症について</p> <p>ブタの悪性顆粒膜細胞腫について</p> <p>市販されている「抗酸菌鑑別セット」を用いての非定型抗酸菌の検査成績について</p> <p>牛の肝臓に形成された腫瘍</p> <p><i>Salmonella typhi-suis</i> の HeLa 細胞への侵入能について</p> <p>枝肉における抗菌性物質の残留調査について</p> <p>と畜場で見られた牛の小腸癌について</p> <p>沖縄県のと畜場でみられた成牛型 (地方病型) ウシ白血病について</p> <p>と畜場で見られた牛の小腸癌について</p>	<p>安斉 俊一</p> <p>喜久嶺 政男</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>新里 武則</p> <p>長田 悦朗</p> <p>本田 善美</p> <p>船木 明美</p> <p>安斉 俊一</p> <p>新里 武則</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>安斉 俊一</p> <p>徳嶺 光男</p>
昭和 60 年	<p>所内研修会 (11 回)</p> <p>全食協病理部会 (12 回)</p> <p>全食協病理部会 (13 回)</p> <p>県公衆衛生学会 (17 回)</p> <p>県監視員発表会 (16 回)</p> <p>県獣医学会 (16 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p>	<p><i>Yersinia enterocolitica</i> の調査 (その二)</p> <p>と畜場搬入ヤギから分離した非定型マイクロバクテリアについて</p> <p>牛の白血病 (胸腺型) について</p> <p>と殺時に見られた増殖性出血性腸炎について</p> <p>と畜場内従事者の衛生意識調査</p> <p>切迫緊急獣畜の対応 (その一事例) について</p> <p>牛の心臓</p> <p>豚の腎病変 3 例</p> <p>牛の胸部腫瘍</p> <p>豚の小腸</p> <p>沖縄県のと畜場で摘発された動物疾病とヒトへの影響について</p> <p><i>Salmonella typhi-suis</i> の病原性因子に関する研究</p> <p>犬下痢症ウイルスの分離</p> <p>牛の肝細胞癌について</p> <p>と畜場に搬入されたヤギから分離されたいわゆる非定型抗酸菌について</p> <p>牛の肝細胞癌について</p>	<p>新里 武則</p> <p>本田 善美</p> <p>棚原 憲美</p> <p>長田 悦朗</p> <p>大野 惇</p> <p>喜納 政則 (北部支所)</p> <p>長田 悦朗</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>棚原 憲美</p> <p>長田 悦朗</p> <p>安斉 俊一</p> <p>安斉 俊一</p> <p>安斉 俊一</p> <p>船木 明美</p> <p>本田 善美</p> <p>船木 明美</p>
昭和 61 年	<p>所内研修会 (12 回)</p>	<p>血液塗抹方法及び全血放置が血球形態に及ぼす影響について</p> <p>自動血球計算機による豚の血球算定条件の決定と計算盤法との比較</p> <p>豚の血液の白血球百分率比と細菌検査について</p> <p>疣状心内膜炎型豚丹毒について</p> <p>山羊のトキソプラズマ抗体調査</p> <p>黄疸生化学検査方法の検討</p> <p>牛の特発性うっ血型心筋症について</p>	<p>大浜 勝</p> <p>大野 惇</p> <p>島袋 泰俊 (北部支所)</p> <p>大城 猛 (北部支所)</p> <p>与那原 良克</p> <p>川崎 克</p> <p>沢岬 安晃</p>

昭和 61 年	所内研修会 (12 回) 全食協病理部会 (14 回) 全食協病理部会 (15 回) 県監視員発表会 (17 回) 県獣医学会 (17 回) 獣医公衆衛生学会 (九州)	豚の悪性黒色腫について 豚の骨髄性白血病 (緑色腫) について 豚の肝臓 と畜場搬入ヤギから分離された非定型マイコプラズマについて 豚の骨髄性白血病 (緑色腫) について 豚にみられた骨髄性白血病 (緑色腫) の 1 例	城間 秀栄 棚原 憲美 棚原 憲美 本田 善美 棚原 憲美 棚原 憲美
昭和 62 年	所内研修会 (13 回) 全食協病理部会 (16 回) 全食協病理部会 (17 回) 県公衆衛生学会 (19 回) 県獣医学会 (18 回) 日本臨床獣医学会 (九州)	尿毒症の検査法および正常値について 豚の血清乳酸脱水素酵素について 山羊の「疥癬」寄生における白血球比について 異常豚の残留抗菌性物質の調査について と畜場でみられた敗血症の 1 症例について 豚の肺膿瘍を中心とする膿瘍からの菌分離について 関節炎型豚丹毒の調査について 南部の 1 と畜場における細菌汚染の実態調査について 北部のと畜場における枝肉の細菌汚染調査について 豚にみられた精巢の多発性異所性発育 業務のための小さな工夫 山羊の肝臓 肝の腫瘍 スクリーニング法による山羊のトキソプラズマ抗体調査 豚の血球形態に及ぼす血液塗抹標本作成方法及び血液保存条件の影響について 自動血球計算機による血球算定条件の検討 豚の巨大肝脾症候群の 1 症例 豚の血球形態に及ぼす血液塗抹標本作成方法及び血液保存条件の影響について	川崎 克 大野 惇 新里武則(八重山保健所) 小杉 龍生 金城 清二 盛 直美 近藤 徹久 大浜 勝 大城 猛(北部支所) 中村 正治 城間 秀栄 棚原 憲美 中村 正治 安里 学 大浜 勝 大野 惇 島袋 泰俊(北部支所) 大浜 勝
昭和 63 年	所内研修会 (14 回) 全食協病理部会 (18 回) 県監視員発表会 (19 回) 県獣医学会 (19 回) 全食協病理部会 (20 回) 県監視員発表会 (20 回) 県獣医学会 (20 回)	豚の盲腸内容からの <i>Yersinia</i> の分離について 臓器症状から見た敗血症の可能性について (主として腹膜炎から) 豚の骨髄性白血病の 1 症例 外牛及び県内牛の内部寄生虫の感染状況について 外牛検査留意点と、疾病の傾向について 昭和 62 年度沖縄県食肉センターにおける病牛及び緊急牛の実態調査について 和牛の症状心内膜炎の 1 症例について 牛の肝臓にみられた腫瘍 (二例) 沖縄県の一と畜場における細菌汚染の実態調査について 過去 4 年間のと畜検査における豚の疾病の推移について 豚の肺膿瘍を中心とする膿瘍からの菌分離について 豚の肝臓の腫瘍 オーストラリアからの輸入牛にみられた単包虫症について オーストラリアからの輸入牛にみられた単包虫症について	新里 康彦 豊見城 功栄 島袋 泰俊(北部支所) 盛 直美 大浜 勝 嘉数 浩 大野 惇 外川 和彦 大浜 勝 本田 善美 盛 直美 嘉数 浩 中村 正治 嘉数 浩
平成元年	獣医公衆衛生学会 (九州)	オーストラリアからの輸入牛にみられた単包虫症について	嘉数 浩
平成 2 年	所内研修会 (15 回) 全食協病理部会 (22 回) 全食協病理部会 (23 回) 九食協研修会 (19 回) 県公衆衛生学会 (21 回) 県監視員発表会 (21 回) 県獣医学会 (21 回) 獣医公衆衛生学会 (九州)	毒麻疹型豚丹毒の調査 (中間報告) 獣畜におけるリステリア菌実態調査について 豚のレプトスピラ症について 病畜および保留畜における残留抗菌性物質の検査 豚赤痢における大腸炎と肝炎の相関関係等について M 食肉センターにおけるパソコンを利用した統計処理について PSE (ふけ肉) の調査について 豚の筋脂肪症 牛の白血病について 豚の肺の腫瘍 牛の肺と腹腔内腫瘍 牛の白血病について 豚の盲腸内容からの <i>Yersinia</i> の分離について 過去 5 年間の当検査所における豚の全身性疾患について 豚にみられた住肉胞子虫について 豚にみられた住肉胞子虫症状	中村 正治 小杉 龍生 富永 正哉 国吉 尚子 平川 宗隆 中島 秀人 新里 武則 小野寺 至 徳嶺 光男 富永 正哉 長田 悦朗 徳嶺 光男 本田 善美 大野 惇 田端 亜樹 田端 亜樹
平成 3 年	所内研修会 (16 回) 全食協病理部会 (24 回) 全食協病理部会 (25 回) 九食協研修会 (20 回) 県監視員発表会 (22 回)	病畜および保留畜の残留抗菌性物質について 一般搬入豚の残留抗菌性物質について いわゆる病畜牛 (診断書付き) における残留抗菌性物質について 病畜牛の現況と方向性について と畜場におけるリステリア菌属の汚染状況について 豚の <i>Sarcocystis</i> spp. (住肉胞子虫) の感染状況について <i>Sarcocystis</i> spp. (住肉胞子虫) によると思われる全身性筋炎について と畜検査に於いて遭遇するいわゆる肝炎について 線維増殖性肝 (FL) の病理組織所見について 豚赤痢における大腸と肝臓の病理組織学的検討 馬の肝臓 牛の肩部の腫瘍 山羊における住肉胞子虫の寄生状況について 食肉衛生検査所における残留抗菌性物質の検出状況について	大浜 尚子 近藤 徹久 平安 常寛 中島 秀人 小杉 龍生 大野 明美 大野 明美 富永 正哉 中村 正治 徳嶺 光男 富永 正哉 富永 正哉 田端 亜樹 大野 惇

平成3年	県獣医学会 (22回) 獣医公衆衛生学会 (九州)	豚の悪性黒色腫 豚の悪性黒色腫	富永 正哉 富永 正哉
平成4年	所内研修会 (17回) 全食協病理部会 (27回) 全食協微生物部会 (12回) 全食協理化学部会 (10回) 九食協研修会 (21回) 県公衆衛生学会 (24回) 県監視員発表会 (23回) 県獣医学会 (23回) 獣医公衆衛生学会 (九州) 獣医公衆衛生学会 (全国)	マレック病の病理組織学的所見 産卵鶏に見られた腹腔内腫瘍について 山羊の適正処理指導の実施状況について 山羊消化器寄生虫の虫卵検査 拭き取り検査による食鳥処理場の衛生状態について 残留抗菌性物質のモニタリング検査報告 異常豚(病畜)における残留抗菌性物質の検出状況について 病牛における残留抗菌性物質調査について 豚の肝臓 拭き取り検査による食鳥処理場の衛生状態について(特にカット室の衛生について) 畜水産食品中の残留抗菌性物質モニタリング調査 産卵鶏に見られた腹腔内腫瘍について 拭き取り検査による食鳥処理場の衛生状態について 食肉衛生検査所における残留抗菌性物質の調査について 食肉衛生検査所における残留抗菌性物質の調査について 豚住肉胞子虫の感染状況と形態学観察 県内と畜場カット室の衛生状況について 畜水産食品中の残留抗菌性物質モニタリング調査 豚住肉胞子虫の感染状況と形態学観察 豚住肉胞子虫の感染状況と形態学観察	小杉 龍生 (北部支所) 名嘉真 美奈子 島袋 端 (北部支所) 安里 学 新里 武則 大浜 尚子 大野 惇 城間 ひろみ 富永 正哉 新里 武則 城間 ひろみ 名嘉真 美奈子 新里 武則 大浜 尚子 大浜 尚子 大野 明美 中島 秀人 大野 惇 大野 明美 大野 明美
平成5年	所内研修会 (18回) 全食協病理部会 (28回) 全食協病理部会 (29回) 全食協微生物部会 (13回) 県監視員発表会 (24回) 県獣医学会 (24回) 獣医公衆衛生学会 (九州) 九食協研修会 (22回) 全国食肉衛生技術研修会	北部支所管内における山羊の密殺防止対策について 各と畜場で使用する抗菌性物質簡易検査用培地の簡素化について 薄層クロマトグラフィー・バイオオートグラフィーによるアンピシリンの同定について 食鳥処理場において廃棄される「削瘦および発育不良」鶏の疾病分類調査について 鶏の大腸菌症の病理組織学的検査について ブローラーにおける緑色を呈する肝臓の病理組織学的、理化学的検査 山羊膿毒症の一例 廃用豚(繁殖用雌豚)の腎臓病変について 産卵鶏に見られる腺癌について 認定小規模食鳥処理場の監視指導状況について 豚枝肉における汚染状況について(作業工程を追って) 食鳥処理場における衛生状態について と畜場に搬入された山羊のレプトスピラ抗体保有状況 肉眼所見により症状の程度別に分類した大腸菌症鶏の細菌検査について と畜場に搬入された牛の盲腸内容物からの病原性大腸菌の分離について(特に、0157を中心にして) 鶏の腺癌 豚の肝臓に見られた腫瘍 と畜場に搬入された山羊のレプトスピラ抗体保有状況について(予報) 某食鳥処理場の衛生について 食鳥検査で見られた疾病及び衛生検査について と畜場に搬入された牛の盲腸内容物からの病原性大腸菌の分離について(特に、0157を中心にして) 沖縄県における豚の住肉胞子虫の感染状況と形態(第2報) 豚横紋筋に認められた結節病変に関する調査 異常豚(病畜豚)における残留抗生物質の検出状況について 某食鳥処理場における衛生状態について(拭取り検査の結果から) 食鳥処理場において廃棄される「削瘦および発育不良」鶏の病類および菌検査 沖縄県における豚の住肉胞子虫の感染状況と形態(第2報) と畜場に搬入された牛の盲腸内容物からの病原性大腸菌の分離について(特に、0157を中心にして) と畜場に搬入された山羊のレプトスピラ抗体保有状況について 抗菌性物質簡易検査用培地の簡素化について と畜場に搬入された山羊のレプトスピラ抗体保有状況について	大浜 勝 (北部支所) 赤嶺 綾子 名嘉真 美奈子 稲嶺 修 (北部支所) 島袋 端 (北部支所) 小杉 龍生 (北部支所) 玉城 正幸 金城 清二 徳嶺 光男 新垣 政一 (北部支所) 平安 常寛 新垣 千賀子 与那原 良克 城間 秀栄 (北部支所) 本田 善美 徳嶺 光男 城間 ひろみ 与那原 良克 本田 善美 島袋 端 (北部支所) 本田 善美 大野 明美 大野 明美 嘉数 浩 平安 常寛 稲嶺 修 (北部支所) 大野 明美 本田 善美 与那原 良克 赤嶺 綾子 与那原 良克
平成6年	所内研修会 (19回) 全食協病理部会 (30回) 県獣医学会 (25回)	食鳥処理場における鶏肉の衛生状態について と畜場の豚枝肉及び食鳥処理場における細菌学的汚染状況について 非定型抗酸菌症の集団発生を呈した1牧場のオガクズからの菌分離について 牛枝肉のVero毒素産生性大腸菌の実態調査について 肝蛭寄生を伴う山羊の肝内胆管の過形成 豚の転移性骨肉腫について 繁殖豚の腹腔内腫瘍について 2年前に残留抗菌性物質が陽性とされたハチミツのその後 山羊の糞線虫について 炭疽の細菌学的検査について 炭疽発生時の行政対応について 日常業務でのコンピューター入力ミス事例について 鶏の皮膚と肝臓の腫瘍 各現場で使用する抗菌性物質簡易検査用培地の簡素化について 鶏の皮膚型マレック病について	稲嶺 修 (北部) 大城 哲也 本田 善美 玉城 正幸 大野 明美 城間 ひろみ 島袋 端 (北部) 嘉数 浩 名嘉真 美奈子 長田 悦朗 安富祖 豊廣 安里 学 島袋 端 (北部) 赤嶺 綾子 島袋 端 (北部)

平成 6 年	<p>県獣医学会 (25 回)</p> <p>県監視員発表会 (25 回)</p> <p>全食協病理部会 (31 回)</p> <p>九食協研修会 (23 回)</p>	<p>と畜場に搬入された山羊のレプトスピラ抗体保有状況</p> <p>豚枝肉における細菌汚染状況について (作業工程を追って)</p> <p>豚の肺臓・胸腔内に見られた腫瘍</p> <p>肝蛭寄生を伴う山羊の肝内胆管の過形成</p>	<p>与那原 良克</p> <p>玉城 正幸</p> <p>城間 ひろみ</p> <p>大野 明美</p>
平成 7 年	<p>所内研修会 (20 回)</p> <p>所内研修会 (20 回)</p> <p>九食協研修会 (24 回)</p> <p>全食協病理部会 (32 回)</p> <p>県獣医学会 (26 回)</p> <p>県監視員発表会 (26 回)</p>	<p>と畜場における枝肉の細菌汚染の実態調査について</p> <p>管内食鳥処理場における食鳥肉の衛生状況について</p> <p>牛の胆汁から分離されたカンピロバクターについて</p> <p>マクファーランド比濁計標準液を用いた菌液の調整</p> <p>と畜場に搬入された豚からの SDD の検出について(報告)</p> <p>C 食鳥処理場における死鳥 (プロイラー) の発生原因調査</p> <p>プロイラーにみられる腸管出血病変について</p> <p>ウマの悪性黒色腫</p> <p>豚の外部寄生虫について</p> <p>アフリカザンビアの視察報告</p> <p>豚の転移性骨肉腫について</p> <p>山羊の肝臓にみられた腫瘍</p> <p>豚の転移性骨肉腫について</p> <p>山羊の糞線虫について</p>	<p>森河 隆史</p> <p>稲嶺 修 (北部)</p> <p>大城 哲也</p> <p>平良 勝也</p> <p>赤嶺 綾子</p> <p>新里 康彦 (北部)</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>新垣 衡</p> <p>嘉数 浩</p> <p>平川 宗隆 (北部)</p> <p>玉城 正幸</p> <p>平良 勝也</p> <p>玉城 正幸</p> <p>名嘉真 美奈子</p>
平成 8 年	<p>所内研修会 (21 回)</p> <p>全食協病理部会 (35 回)</p> <p>県獣医学会 (27 回)</p> <p>九食協研修会 (25 回)</p> <p>県監視員発表会 (27 回)</p>	<p>豚の悪性腎芽腫</p> <p>鶏の浅胸筋に発生した腫瘍</p> <p>畜産食品中の残留抗菌物質モニタリング検査結果</p> <p>0-157 を中心としたと畜場の衛生管理</p> <p>イボ状心内膜炎の調査</p> <p>トリガラの細菌調査</p> <p>豚の肝臓の腫瘍</p> <p>豚肉中における SDD の残留事例</p> <p>馬の悪性黒色腫</p> <p>豚の悪性腎芽腫</p> <p>牛の胆汁から分離されたカンピロバクターについて</p>	<p>森河 隆史</p> <p>大野 明美 (北部)</p> <p>平良 勝也</p> <p>古堅 愛美</p> <p>長嶺 ゆり</p> <p>大浜 尚子 (北部)</p> <p>森河 隆史</p> <p>平良 勝也</p> <p>新垣 衡</p> <p>森河 隆史</p> <p>大城 哲也</p>
平成 9 年	<p>所内研修会 (22 回)</p> <p>県獣医学会 (28 回)</p> <p>県監視員発表会 (28 回)</p> <p>九食協研修会 (26 回)</p>	<p>豚赤痢における肝臓の病理学的検討</p> <p>と畜場におけるハエの細菌保有調査</p> <p>繁殖豚と肥育豚の疾病の比較</p> <p>豚赤痢における肝臓の廃棄状況</p> <p>畜産食品中の残留有害物質モニタリング検査結果</p> <p>業務管理基準 (GLP) の取り組み状況</p> <p>と畜検査の標準作業書モデル</p> <p>と畜場における牛枝肉の細菌学的汚染源調査</p> <p>と畜場における牛枝肉の腸管出血性大腸菌 0-157 の検査状況</p> <p>ヨーネ病 (牛) について (事例報告)</p> <p>豚の悪性腎芽腫</p> <p>畜産食品中の残留有害物質モニタリング検査結果</p> <p>HACCP システムによる牛のとさつ解体処理</p> <p>管内食肉処理施設における衛生状況</p> <p>HACCP システムによる牛のとさつ解体処理</p> <p>0 食肉センターにおける牛枝肉の拭き取り検査</p>	<p>嘉数 浩</p> <p>徳嶺 光男</p> <p>富永 正哉</p> <p>森河 隆史</p> <p>新垣 衡</p> <p>大浜 尚子 (北部)</p> <p>大野 明美 (北部)</p> <p>上原 美智代</p> <p>安座間 明日香</p> <p>小杉 龍生</p> <p>嘉数 浩</p> <p>新垣 衡</p> <p>新里 康彦 (北部)</p> <p>中込 健次 (北部)</p> <p>中込 健次 (北部)</p> <p>赤嶺 綾子</p>
平成 10 年	<p>所内研修会 (23 回)</p> <p>全食協病理部会 (38 回)</p> <p>県獣医学会 (29 回)</p> <p>県監視員発表会 (29 回)</p> <p>九食協研修会 (27 回)</p> <p>全食協病理部会 (39 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>採卵鶏の卵管膜靱帯にみられた平滑筋腫</p> <p>A 食鳥処理場における中抜解体ラインの微生物汚染調査</p> <p>関節炎型豚丹毒の PCR 法の実用について</p> <p>山羊、豚の抗酸菌症を疑う症例</p> <p>食肉衛生検査データ分析報告 (その 1) トキソプラズマ病</p> <p>豚赤痢様腸炎の農場別発生状況及びその現状と課題</p> <p>豚赤痢を疑う豚からの菌分離について</p> <p>豚赤痢を疑う豚の薬剤残留検査</p> <p>県内 A と畜場における牛枝肉の細菌汚染状況</p> <p>県内 A と畜場における微生物制御ー牛枝肉拭き取り調査ー</p> <p>豚のと殺・解体作業工程における拭き取り調査</p> <p>県内 A と畜場における微生物制御ー牛枝肉拭き取り調査ー</p> <p>と畜場及び食鳥処理場の衛生管理</p> <p>糖原変性を疑う豚の肝臓</p> <p>県内 A と畜場における微生物制御ー牛枝肉拭き取り調査ー</p> <p>「と畜場施行規則」一部改正に伴う HACCP システムの考え方に沿った文書の作成</p> <p>県内 A と畜場における微生物制御ー牛枝肉拭き取り調査ー</p> <p>と畜衛生業務連絡会議とその効果</p> <p>「と畜場施行規則」一部改正に伴う HACCP システムの考え方に沿った文書の作成</p> <p>卵管膜靱帯に認められた平滑筋腫</p> <p>米国の食肉衛生管理事情</p>	<p>安座間 明日香</p> <p>富平 誠人</p> <p>多田 雪宏</p> <p>向井 茂樹</p> <p>富永 正哉</p> <p>立沢 ちさ (北部)</p> <p>上原 美智代</p> <p>大浜 尚子</p> <p>小田 英治</p> <p>田端 亜樹</p> <p>長嶺 ゆり (北部)</p> <p>三輪 英一</p> <p>富永 正哉</p> <p>森河 隆史</p> <p>上原 美智代</p> <p>中込 健次 (北部)</p> <p>上原 美智代</p> <p>長嶺 ゆり (北部)</p> <p>中込 健次 (北部)</p> <p>安座間 明日香</p> <p>岸本 敦</p>

平成 11 年	<p>所内研修会 (24 回)</p> <p>全食協病理部会 (40 回)</p> <p>県獣医学会 (30 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p> <p>九食協研修会 (28 回)</p> <p>全食協病理部会 (41 回)</p>	<p>管内における豚丹毒の廃棄状況</p> <p>関節炎型豚丹毒の判定における PCR 法と培養法の比較</p> <p>豚赤痢様腸炎の細菌同定</p> <p>理化学室における GLP 実施状況</p> <p>と畜場における山羊枝肉の細菌汚染調査</p> <p>A 食鳥処理場における拭き取り検査結果に基づく衛生指導</p> <p>管内における豚肝臓廃棄の推移</p> <p>牛の肝臓にみられる病変</p> <p>山羊の肝臓の腫瘍</p> <p>関節炎型豚丹毒の判定における PCR 法の応用について</p> <p>豚赤痢様腸炎における肝臓-細菌学的検討-</p> <p>山羊のリンパ肉腫</p> <p>採卵鶏の卵管膜靱帯にみられた平滑筋腫</p> <p>豚のと殺・解体作業工程における拭き取り調査</p> <p>山羊のリンパ肉腫</p> <p>採卵鶏の卵管膜靱帯にみられた平滑筋腫</p> <p>関節炎型豚丹毒の判定における PCR 法の応用について</p> <p>豚赤痢様腸炎における肝臓-細菌学的検討-</p> <p>豚のと殺・解体作業工程における拭き取り調査</p> <p>豚赤痢様腸炎における肝臓-細菌学的検討-</p> <p>山羊の胸腔及び腹腔内の腫瘍</p>	<p>大場 三緒子</p> <p>渡邊 章子</p> <p>安里 優子</p> <p>上原 美智代</p> <p>坂田 尚美 (北部)</p> <p>森河 隆史</p> <p>三輪 英一</p> <p>小西 清美</p> <p>向井 茂樹</p> <p>多田 雪宏</p> <p>中込 秀子</p> <p>宮平 誠人</p> <p>安座間 明日香</p> <p>長嶺 ゆり (北部)</p> <p>宮平 誠人</p> <p>安座間 明日香</p> <p>多田 雪宏</p> <p>福原 優子</p> <p>長嶺 ゆり (北部)</p> <p>中込 秀子</p> <p>宮平 誠人</p>
平成 12 年	<p>所内研修会 (25 回)</p> <p>県獣医学会 (31 回)</p> <p>県監視員発表会 (31 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (全国)</p> <p>九食協研修会 (29 回)</p> <p>全食協病理部会 (43 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>A 認定小規模食鳥処理場における衛生状況について (第一報) ~拭き取り調査に基づく衛生指導~</p> <p>認定小規模食鳥処理場の衛生について</p> <p>S と畜場における牛枝肉汚染状況の推移</p> <p>S と畜場における養豚農家のフィードバックについて</p> <p>T と畜における衛生指導とその効果</p> <p>と畜場における山羊枝肉の細菌汚染調査</p> <p>中央食肉衛生検査所管内における豚丹毒の廃棄状況 (第二報)</p> <p>牛の品種別疾病発生状況について</p> <p>病畜の残留抗生物質検査状況について</p> <p>と畜場搬入獣畜におけるクリプトスポリジウム感染調査 (第一報)</p> <p>免疫染色の導入と免疫組織化学の病理診断への応用</p> <p>鶏 2 例にみられた奇形腫について</p> <p>A 食鳥処理場における拭き取り検査結果に基づく衛生指導</p> <p>と畜場における山羊枝肉の細菌汚染調査</p> <p>O 食鳥処理場における細菌汚染状況調査 (第一報)</p> <p>山羊のリンパ腫</p> <p>A 食鳥処理場における拭き取り検査結果に基づく衛生指導</p> <p>沖縄県 N と畜場における山羊枝肉の細菌汚染調査</p> <p>鶏の腹腔腫瘍</p> <p>A 食鳥処理場における拭き取り検査結果に基づく衛生指導</p>	<p>古堅 愛美</p> <p>長嶺 ゆり (北部)</p> <p>芳垣 純子</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>奥村 晴奈</p> <p>新垣 尚美 (北部)</p> <p>三輪 英一</p> <p>三木田 宗紀</p> <p>中込 秀子</p> <p>六川 潤美</p> <p>渡邊 章子</p> <p>藤井 葉子</p> <p>宮平 誠人</p> <p>新垣 尚美 (北部)</p> <p>三木田 宗紀</p> <p>宮平 誠人</p> <p>宮平 誠人</p> <p>新垣 尚美 (北部)</p> <p>渡邊 章子</p> <p>宮平 誠人</p>
平成 13 年	<p>所内研修会 (26 回)</p> <p>県獣医学会 (32 回)</p> <p>九食協研修会 (30 回)</p> <p>県監視員発表会 (32 回)</p>	<p>T と畜場における豚レバーの衛生状況</p> <p>T と畜場カット室における衛生指導とその効果 (第一報)</p> <p>食鳥の直腸スワブから分離したサルモネラの血清型および薬剤耐性</p> <p>山羊の肝・肺・腎にみられた腫瘍</p> <p>API (自動細菌同定装置) による敗血症の原因菌同定</p> <p>と畜場搬入獣畜および排水におけるクリプトスポリジウム汚染状況調査</p> <p>生菌発育凝集反応を用いた関節炎型豚丹毒検査法の検討</p> <p>管内のと畜場で分離された豚丹毒菌の薬剤感受性</p> <p>フルベンダゾール試験の回収率向上に関する一考察</p> <p>豚トキソプラズマ病の発生状況</p> <p>悪性リンパ腫の免疫組織学的検討</p> <p>鶏の奇形腫</p> <p>管内における豚丹毒の発生状況</p> <p>管内における豚丹毒の発生状況</p> <p>畜水産食品残留有害物質モニタリング検査結果</p>	<p>向井 茂樹</p> <p>奥村 晴奈</p> <p>須佐 たまき</p> <p>宇都宮 公子</p> <p>櫻井 秀樹</p> <p>六川 潤美</p> <p>小田 英治</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>渡邊 章子</p> <p>安里 優子</p> <p>安里 優子</p> <p>藤井 葉子</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>中込 秀子</p>
平成 14 年	<p>所内研修会 (27 回)</p> <p>県獣医学会 (33 回)</p>	<p>T と畜場における山羊の衛生指導について</p> <p>管内における牛の肝臓疾患の発生状況</p> <p>スピラマイシン検査法についての考察</p> <p>食鳥処理場における VRE 調査とその対策</p> <p>豚、山羊、採卵鶏、ブロイラーのサルモネラ保菌状況および薬剤耐性について</p> <p>と畜場に搬入された繁殖豚のレプトスピラ抗体保有状況</p> <p>抗酸菌症迅速診断システム導入の検討</p> <p>採卵鶏の腺癌について</p> <p>巣状壊死と点状出血の見られる豚の肝臓</p> <p>管内における豚トキソプラズマ病の発生状況</p> <p>特異な組織所見を示した山羊の肝細胞癌</p> <p>食鶏のサルモネラの保菌率および薬剤耐性</p> <p>管内のと畜場で分離された豚丹毒菌の薬剤耐性</p>	<p>小田 英治</p> <p>吉田 崇</p> <p>比嘉 美咲</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>岩井 愛子</p> <p>芳垣 純子</p> <p>日比谷 健司</p> <p>宇都宮 公子</p> <p>藤井 葉子</p> <p>安里 優子</p> <p>宇都宮 公子</p> <p>須佐 たまき</p> <p>宮城 国太郎</p>

平成 14 年	<p>県監視員発表会 (33 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p> <p>九食協研修会 (31 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>と畜場搬入獣畜および排水におけるクリプトスポリジウム汚染状況調査</p> <p>特異な組織所見を示した山羊の肝細胞癌</p> <p>食鶏のサルモネラ保菌率および薬剤耐性</p> <p>特異な組織所見を示した山羊の肝細胞癌</p> <p>管内における豚トキソプラズマ病の発生状況</p> <p>特異な組織所見を示した山羊の肝細胞癌</p>	<p>六川 潤美</p> <p>宇都宮 公子</p> <p>須佐 たまき</p> <p>宇都宮 公子</p> <p>安里 優子</p> <p>宇都宮 公子</p>
平成 15 年	<p>所内研修会 (28 回)</p> <p>県監視員発表会 (34 回)</p> <p>県獣医学会 (34 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (九州)</p> <p>九食協研修会 (32 回)</p> <p>全国食鳥肉衛生技術研修会</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>食鳥処理場の自主衛生管理チーム立ち上げへの関わり</p> <p>カンノンアヒルのサルモネラ及びカンピロバクター保菌調査</p> <p>管内 N 食肉センターにおける豚枝肉の衛生状況</p> <p>山羊枝肉の微生物制御を目的とした火炎処理工程の検討</p> <p>豚の腎臓における腫瘍</p> <p>豚の肝硬変</p> <p>N 食肉センターにおける豚のミルクスポット発生状況</p> <p>豚の抗酸菌症の発生状況及び病変の検討</p> <p>豚の抗酸菌症における検査方法の検討</p> <p>液体培地と PCR を併用した抗酸菌検査システムの確立</p> <p>非結核型抗酸菌症の研究-豚の感染源と感染経路-</p> <p>ジクラズリル及びびナイカルバジン試験法について</p> <p>牛における筋肉水腫の廃棄基準に関する基礎研究</p> <p>施設改善に伴う枝肉の微生物汚染状況の推移</p> <p>食肉衛生検査 30 年間のあゆみ</p> <p>食鳥処理場における VRE 調査とその対策</p> <p>食鳥処理場における VRE 調査とその対策</p> <p>豚、山羊、採卵鶏、ブロイラーのサルモネラ保菌状況および薬剤耐性</p> <p>食鳥処理場における VRE 調査とその対策</p> <p>豚、山羊、採卵鶏、ブロイラーのサルモネラ保菌状況および薬剤耐性</p> <p>抗酸菌症診断における迅速性と精度の検討</p> <p>採卵鶏、ブロイラーのサルモネラ保菌状況および薬剤耐性</p> <p>抗酸菌症診断における迅速性と精度の検討</p>	<p>安座間 明日香</p> <p>小原 海和 (北部)</p> <p>後藤 英子 (北部)</p> <p>仲間 基樹 (北部)</p> <p>吉田 崇</p> <p>加藤 峰史 (北部)</p> <p>安里 優子 (北部)</p> <p>仁平 稔</p> <p>佐藤 まどか</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>日比谷 健司</p> <p>喜屋武 向子</p> <p>後藤 剛</p> <p>平良 雅克</p> <p>嘉数 浩</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>岩井 愛子</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>岩井 愛子</p> <p>日比谷 健司</p> <p>岩井 愛子</p> <p>日比谷 健司</p>
平成 16 年	<p>所内研修会 (29 回)</p> <p>県獣医学会 (35 回)</p> <p>県監視員発表会 (35 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (全国)</p> <p>九州地区獣医学会 (53 回)</p> <p>九食協研修会 (33 回)</p> <p>全食協病理部会 (33 回)</p> <p>全食協微生物部会 (24 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p> <p>獣医学会年次大会</p>	<p>豚結腸スピロヘータ症の浸潤状況</p> <p>と畜場に搬入されたブタ・ヤギにおける HEV 保有調査</p> <p>トキソプラズマ検査法の検討</p> <p>豚の肝臓における腫瘍</p> <p>豚赤痢治療薬残留検査法の検討</p> <p>管内 N 食肉センターにおける豚枝肉の衛生状況 (第 2 報)</p> <p>と畜検査結果のフィードバックについての取り組み</p> <p>ブロイラーにみられた皮膚炎</p> <p>食鳥処理場のカット室における衛生状況について (第 1 報)</p> <p>認定小規模食鳥処理場の衛生指導</p> <p>食鳥検査結果集計システムの紹介</p> <p>管内 C 食肉センターでとちくされた山羊の調査</p> <p>液体培地と PCR を併用した抗酸菌検査システムの確立</p> <p>豚の抗酸菌症の発生状況及び病変の検討</p> <p>N 食肉センターにおける豚のミルクスポット発生状況</p> <p>施設改善に伴う枝肉の微生物汚染状況の推移</p> <p>山羊枝肉の微生物制御を目的とした火炎処理工程の検討について</p> <p>豚の抗酸菌症における検査方法の検討</p> <p>液体培地と PCR を併用した抗酸菌検査システムの確立</p> <p>液体培地と PCR を併用した抗酸菌検査システムの確立</p> <p>豚の抗酸菌症における病変の発生状況及び検査方法の検討</p> <p>豚の腎臓における腫瘍</p> <p>豚赤痢の迅速診断の検討</p> <p>豚赤痢の迅速診断の検討</p> <p>豚の抗酸菌症における病変の発生状況及び検査方法の検討</p> <p>液体培地と PCR を併用した抗酸菌検査システムの確立</p>	<p>宮本 雄二郎</p> <p>平良 雅克</p> <p>喜屋武 向子</p> <p>高木 祐司</p> <p>近藤 海和</p> <p>後藤 英子 (北部)</p> <p>長嶺 ゆり</p> <p>稲嶺 美奈子</p> <p>照屋 理香 (北部)</p> <p>小田 葉子 (北部)</p> <p>安里 優子 (北部)</p> <p>平川 宗隆</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>佐藤 まどか</p> <p>安里 優子 (北部)</p> <p>平良 雅克</p> <p>仲間 基樹 (北部)</p> <p>佐藤 まどか</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>仁平 稔</p> <p>吉田 崇</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>宮城 国太郎</p> <p>仁平 稔</p> <p>宮城 国太郎</p>
平成 17 年	<p>所内研修会 (30 回)</p> <p>県獣医学会 (36 回)</p>	<p>PCR によるトキソプラズマ検査法の検討</p> <p>と畜場搬入豚の口蓋扁桃における <i>Streptococcus suis</i> の保菌調査</p> <p>沖縄県のヤギ、イノシシ、マングースにおける E 型肝炎ウイルス抗体保有調査</p> <p>山羊の胆汁からの <i>Campylobacter</i> 属菌の検出</p> <p>豚の胆嚢内における <i>Campylobacter</i> 属菌を主とした微生物保菌調査</p> <p>和牛にみられた全身性脂肪組織炎</p> <p>豚における腎臓病変の検討</p> <p>管内 A 食鳥処理場における疾病発生状況</p> <p>食鳥検査でみられる疾病の推移</p> <p>N と畜場豚カット室における衛生状況</p> <p>はちみつ中ミロサマイシンの試験法の検討</p> <p>沖縄県におけるヤギのとちくと疾病</p> <p>沖縄県におけるブタ、マングース、イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況とその特徴</p>	<p>喜屋武 向子</p> <p>宮本 雄二郎</p> <p>平良 雅克</p> <p>大兼 英子 (北部)</p> <p>銘苅 愛美 (北部)</p> <p>宜保 公子</p> <p>仲間 基樹 (北部)</p> <p>照屋 理香 (北部)</p> <p>新垣 衡</p> <p>比嘉 美咲 (北部)</p> <p>加藤 峰史</p> <p>平川 宗隆</p> <p>平良 雅克</p>

平成 17 年	<p>県獣医学会 (36 回) 県監視員発表会 (36 回)</p> <p>九州地区獣医学会 (54 回) 九食協研修会 (34 回) 全食協病理部会 (52 回)</p>	<p>と畜検査結果のフィードバックについての取り組み 沖縄県におけるブタ、マンガース、イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況とその特徴 認定小規模食鳥処理場の衛生指導 管内 N 食肉センターにおける豚枝肉の衛生状況 沖縄県におけるブタ、マンガース、イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況とその特徴 沖縄県におけるブタ、マンガース、イノシシの E 型肝炎ウイルス保有状況とその特徴 和牛にみられた全身性脂肪組織炎</p>	<p>長嶺 ゆり 平良 雅克 小田 葉子 (北部) 大兼 英子 (北部) 平良 雅克 平良 雅克 宜保 公子</p>
平成 18 年	<p>所内研修会 (31 回)</p> <p>県獣医学会 (37 回)</p> <p>県監視員発表会 (37 回) 九州地区獣医学会 (55 回) 九食協研修会 (35 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>冷却水の温度と食鳥と体の洗浄・消毒効果に関する調査 採卵鶏にみられた鶏白血病を疑う肝臓病変について Multiplex PCR による <i>Toxoplasma gondii</i> と <i>Salmonella</i> spp. 検出法の検討 食鳥処理場及びと畜場に搬入された鶏及び牛のカンピロバクター保菌調査と PCR-RFLP 解析 山羊・豚の食中毒菌保菌調査 地方病型牛白血病を疑う症例について ヤギの舌扁桃 沖縄県の家畜・野生動物等におけるトキソプラズマ抗体保有調査 全身性出血を呈した豚の症例について 豚のドキシサイクリン (TC 系) 残留を疑った事例 と畜場搬入豚における <i>Streptococcus suis</i> の保菌状況と分離株の性状 N と畜場における豚・山羊の <i>Campylobacter</i> 属菌汚染調査 和牛にみられた全身性脂肪組織炎 N と畜場豚カット室における衛生状況 と畜場搬入豚における <i>Streptococcus suis</i> の保菌状況と分株の性状 PCR によるトキソプラズマ検査法の検討 はちみつ中ミロサマイシンの試験法の検討 PCR によるトキソプラズマ検査法の検討</p>	<p>平安 綾子 森 洋子 中村 正治 工藤 奈々 柳瀬 多嘉子 (北部) 高木 祐司 平良 雅克 (北部) 津田 彩子 下村 文二郎 (北部) 小田 葉子 宮本 雄二郎 稲嶺 美奈子 (北部) 高木 祐司 比嘉 美咲 (北部) 宮本 雄二郎 喜屋武 向子 加藤 峰史 喜屋武 向子</p>
平成 19 年	<p>所内研修会 (32 回)</p> <p>県獣医学会 (38 回) 県監視員発表会 (38 回)</p> <p>獣医公衆衛生学会 (全国) 九州地区獣医学会 (56 回) 九食協研修会 (36 回)</p>	<p><i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> による豚の敗血症 県内と畜場に搬入された牛における牛白血病ウイルス保有調査 山羊のトキソプラズマ抗体と飼育環境 管内と畜場における豚のサルモネラ保菌状況及び処理工程における重要管理点の設定の検討 グリア繊維性酸性タンパクを用いた脳脊髄組織による牛枝肉の汚染状況調査 伝達性海綿状脳症スクリーニング検査陽性時の施設等の消毒 ポジティブリスト制度施行後における病畜の扱いについて 新と畜検査システムによる生産者別情報還元 食鳥処理場に搬入されたブロイラーにおける鶏舎ごとのカンピロバクター保菌調査 食鳥処理場に併設するカット室における製品保管用容器の消毒方法の検討 食鳥処理場に搬入されたブロイラーの疾病状況 沖縄県の家畜・野生動物等におけるトキソプラズマ抗体保有調査 食鳥処理場及びと畜場に搬入された鶏及び牛のカンピロバクター保菌調査と PCR-RFLP 解析 沖縄県の家畜・野生動物等におけるトキソプラズマ抗体保有調査 Multiplex PCR による <i>Toxoplasma gondii</i> と <i>Salmonella</i> spp. 検出法の検討 山羊の舌扁桃 豚のドキシサイクリン (TC 系) 残留を疑った事例</p>	<p>大城 哲也 大場 三緒子 安座間 夏紀 (北部) 仲村 清崇 仁平 真由美 佐々木 哲 (北部) 照屋 理香 加藤 峰史 片岡 京子 下司 高弘 (北部) 中島 秀人 (北部) 津田 彩子 工藤 奈々 津田 彩子 喜屋武 向子 平良 雅克 (北部) 小田 葉子</p>
平成 20 年	<p>所内研修会 (33 回)</p> <p>県獣医学会 (39 回)</p> <p>県監視員発表会 (39 回) 全食協病理部会 (58 回) 九食協研修会 (37 回)</p>	<p>管内と畜場で多発した豚サルモネラ症 と畜場に搬入された豚のサルモネラ保菌状況および薬剤感受性 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Typhimurium の迅速判定法の検討 一斉試験法 I を用いた HPLC による殺菌剤試験法の検討 豚抗酸菌症の病変分布における病理学的考察 ヤギの筋肉からのトキソプラズマの分離 とさつ解体に使用されるナイフ等の温湯消毒効果の検証 採卵鶏の卵巣 (キンカン) の衛生管理 学校での食肉衛生講習会の試み 県内と畜場に搬入された牛における牛白血病ウイルス保有調査 <i>Streptococcus dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i> による豚の敗血症 と畜場における豚のサルモネラ保菌状況及び処理工程における重要管理点の設定の検討 牛の腎臓 新と畜検査システムによる生産者別情報還元 ポジティブリスト制度施行後における病畜の扱いについて</p>	<p>後藤 紀子 大兼 英子 北野 崇 仲村 清崇 津田 彩子 喜屋武 向子 (北部) 稲葉 千恵 (北部) 銘苅 愛美 下村 文二郎 (北部) 大場 三緒子 玉城 正幸 仲村 清崇 津田 彩子 津田 彩子 照屋 理香</p>
平成 21 年	<p>所内研修会 (34 回)</p>	<p>消化管内容物による豚枝肉汚染実態調査 管内における豚丹毒発生状況と分離菌の性状 関節炎型豚丹毒を疑った関節液からの細菌の検索と保留検査採材方法の検討 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Choleraesuis の迅速判定法の検討 和牛の下顎にみられた骨化性線維腫 ベンジルペニシリン試験法の検討 食肉安全安心講習会の開催と今後の検討 鶏の腫大した肝臓病変の検討</p>	<p>安座間 夏紀 (北部) 新垣 尚美 牛島 有紀 大橋 麻美 仲間 京子 仲村 清崇 熊谷 佳子 山元 朝香 (北部)</p>

平成 21 年	技術研修会 (34 回) 県獣医学会 (40 回) 県監視員発表会 (40 回) 九州地区獣医学会 (58 回) 九食協研修会 (38 回) 全食協病理部会 (60 回) 全国食肉衛生技術研修会 獣医学会年次大会	採卵鶏のマレック病とリンパ性白血病の病理学的検討 カンピロバクター食中毒リスク低減のための「食鳥の区分処理」に向けた基礎調査 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Typhimurium の迅速判定法の検討 県内と畜ヤギ肉からの <i>Toxoplasma gondii</i> 分離成績とその遺伝子性状 と畜場に搬入された豚のサルモネラ保菌状況及び薬剤耐性 学校での食肉衛生講習会の試み 沖縄県でと畜されたヤギ肉からの <i>Toxoplasma gondii</i> 分離成績とその遺伝子性状 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Typhimurium の迅速判定法の検討 豚抗酸菌症の病変分布における病理学的考察 牛の下顎部腫瘍 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Typhimurium の迅速判定法の検討 豚抗酸菌症の病変分布における病理学的考察 沖縄県でと畜されたヤギ肉からの <i>Toxoplasma gondii</i> 分離成績とその遺伝子性状	仁平 真由美 稲葉 千恵 (北部) 北野 崇 喜屋武 向子 (北部) 大兼 英子 安座間 夏紀 (北部) 喜屋武 向子 北野 崇 津田 彩子 仲間 京子 北野 崇 津田 彩子 喜屋武 向子 (北部)
平成 22 年	技術研修会 (35 回) 県監視員発表会 (41 回) 県獣医学会 (41 回) 九州地区獣医学会 (59 回) 九食協研修会 (39 回) 全食協病理部会 (62 回) 全国食肉衛生技術研修会	鶏肉中の <i>Campylobacter</i> 及び <i>Salmonella</i> 属菌の管理ガイドライン策定のための基礎調査 カンピロバクター食中毒リスク低減のための「食鳥の区分処理」に向けた基礎調査 (第 2 報) と畜場に病畜として搬入された獣畜の過去 4 年間の残留抗生物質検査状況 豚サルモネラ症のと畜検査データ解析 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella</i> Choleraesuis, Typhimurium, Dublin, 及び Enteritidis の迅速判定法の検討 牛内臓肉における腸管出血性大腸菌汚染調査 鶏の腸管の腫瘍 山羊の毛包虫症 豚の食肉処理施設における高度衛生管理について 食肉安全安心講習会の開催と今後の検討 カンピロバクター食中毒リスク低減のための「食鳥の区分処理」に向けた基礎調査 管内における豚丹毒発生状況と分離菌の性状 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella enterica</i> serovar Choleraesuis の迅速同定法の検討 管内における豚丹毒発生状況と分離菌の性状 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella enterica</i> serovar Choleraesuis の迅速同定法の検討 管内における豚丹毒発生状況と分離菌の性状 鶏の腸管の腫瘍 Multiplex PCR を用いた <i>Salmonella enterica</i> serovar Choleraesuis の迅速同定法の検討 採卵鶏におけるリンパ性腫瘍病変の病理学的検討	新垣 尚美 稲葉 千恵 (北部) 熊谷 佳子 北野 崇 佐々木 哲 向井 晴奈 仁平 真由美 山元 朝香 (北部) 稲嶺 美奈子 熊谷 佳子 稲葉 千恵 (北部) 新垣 尚美 佐々木 哲 新垣 尚美 佐々木 哲 新垣 尚美 仁平 真由美 佐々木 哲 仁平 真由美
平成 23 年	技術研修会 (36 回) 県監視員発表会 (42 回) 県獣医学会 (42 回) 全国山羊サミット (13 回) 九食協研修会 (40 回) 九州地区獣医学会 (60 回) 全国食鳥衛生技術研修会	鶏肉中の <i>Campylobacter</i> 及び <i>Salmonella</i> 属菌の管理ガイドライン策定のための基礎調査 (第 2 報) 新豚処理施設における豚拭き取り調査 牛及び山羊の腸管出血性大腸菌保菌調査 豚口蓋扁桃からの <i>Erysipelothrix</i> 属菌および <i>Salmonella</i> 属菌の菌検索 関節炎型豚丹毒保菌豚の関節液からの細菌検索 PMA-PCR を用いた <i>Toxoplasma gondii</i> の生死判別法の検討 牛の腎臓頭側にみられた腫瘍 山羊毛包虫症の発生状況と分子疫学 迅速スクリーニング検査キットを用いた残留抗菌性物質検査の検討 牛内臓肉における腸管出血性大腸菌汚染調査 過去 4 年間に実施した病畜の残留抗生物質検査状況及び生産者調査結果 鶏肉中の <i>Campylobacter</i> 及び <i>Salmonella</i> 属菌の管理ガイドライン策定の基礎調査 と畜検査データと農家データの比較分析 県内と畜場で初めて確認された山羊毛包虫症とその発生状況 県内と畜場で初めて確認された山羊毛包虫症とその発生状況 鶏肉中の <i>Campylobacter</i> 及び <i>Salmonella</i> 属菌の管理ガイドライン策定の基礎調査 県内と畜場で初めて確認された山羊毛包虫症とその発生状況 鶏肉中の <i>Campylobacter</i> 及び <i>Salmonella</i> 属菌の管理ガイドライン策定の基礎調査	新垣 尚美 比嘉 幸 新垣 貴野 浅岡 佑太 (北部) 中田 有紀 (北部) 佐々木 哲 香澤 史絵 高木 祐司 (北部) 安座間 夏紀 向井 晴奈 安座間 夏紀 新垣 尚美 北野 崇 高木 祐司 (北部) 高木 祐司 (北部) 新垣 尚美 高木 祐司 (北部) 新垣 尚美
平成 24 年	所内研修会 (37 回) 県監視員発表会 (43 回) 県獣医学会 (44 回)	<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> による多発性肝炎の病理学的検索 牛の脾臓の腫瘍 山羊肝臓病変の病理学的考察 食鳥処理におけると畜体の汚染実態調査と改善策の検討 ゼロトレランスを目指した牛枝肉汚染実態調査 豚全部廃棄データを活用した生産者へのフィードバックの試み Multiplex PCR による増菌培養液からの <i>Salmonella</i> Choleraesuis 検出法の検討 LAMP 法を用いた豚丹毒菌および <i>Streptococcus suis</i> の検出法の検討 食品中に残留する動物用医薬品に関する試験法の妥当性評価に向けた取り組み 迅速スクリーニング検査キットを用いた残留抗菌性物質検査の検討 牛及び山羊の腸管出血性大腸菌保菌調査 Multiplex PCR による増菌培養液からの <i>Salmonella</i> Choleraesuis 検出法の検討 ヤギニキバダニのミトコンドリア Co I 遺伝子解析	阿左美 有右 香澤 史絵 浅岡 佑太 (北部) 銘苅 朋子 玉代勢 旦子 宮良 当一郎 新垣 貴野 宮本 雄二郎 (北部) 稲葉 千恵 安座間 夏紀 新垣 貴野 新垣 貴野 高木 祐司 (北部)

平成 24 年	九州地区獣医学会 (61 回) 全食協病理部会 (66 回) 全国食肉衛生技術研修会 獣医学会年次大会	Multiplex PCR による増菌培養液からの <i>Salmonella</i> Choleraesuis 検出法の検討 ヤギニキビダニのミトコンドリア Co I 遺伝子解析 牛の脾臓の腫瘍 山羊毛包虫症の発生状況および分子疫学的調査 沖縄県内と畜場で初めて確認された山羊毛包虫症の発生状況および分子疫学的調査	新垣 貴野 高木 祐司 (北部) 香澤 史絵 高木 祐司 (北部) 高木 祐司 (北部)
平成 25 年	所内研修会 (38 回) 県監視員発表会 (44 回) 県獣医学会 (44 回) 九食協研修会 (45 回) 全食協病理部会 (67 回) 全国食肉衛生技術研修会	残留抗生物質検査に用いる感受性測定用ブイオンの代替培地の検討 <i>Salmonella</i> Choleraesuis PCR 検査法の改良について 県内と畜場で分離された豚由来 <i>Salmonella</i> Choleraesuis の発生状況および薬剤感受性 微生物汚染の低減を目指した牛内臓肉の処理方法の検討 山羊の食中毒起因菌保菌調査における TA10 ブロスの有用性の検討 大規模食鳥処理場における高病原性鳥インフルエンザ発生時の対策について A プロイラー食鳥処理場における伝染性ファブリキウス嚢病 管内食鳥処理場で認められた鶏の骨髄性白血病 プロイラーにみられた真菌による多発性肉芽腫性炎 豚腎臓にみられた結節性汎動脈炎 牛枝肉に付着する汚染物低減に向けた取り組み 食品中に残留する動物用医薬品に関する試験法の妥当性評価に向けた取り組み 豚全廃棄データを活用した生産者へのフィードバックの試み LAMP 法を用いた豚丹毒菌および <i>Streptococcus suis</i> の検出法の検討 <i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> による肝炎の病理組織学的検索及び肉眼病変の回顧的観察 LAMP 法を用いた豚丹毒菌および <i>Streptococcus suis</i> の検出法の検討 鶏の肝臓と脾臓 豚の腎臓 <i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i> による肝炎の病理組織学的検索及び肉眼病変の回顧的観察	玉代勢 且子 安富祖 理香 大山 み乃り (北部) 具志堅 萌子 仲本 佑子 松川 国洋 (北部) 仁平 美咲 阿左美 有右 長嶺 ゆり 浅岡 佑太 (北部) 玉代勢 且子 稲葉 千恵 宮本 雄二郎 (北部) 阿左美 有右 大山 み乃り (北部) 阿左美 有右 浅岡 佑太 (北部) 阿左美 有右
平成 26 年	所内研修会 (39 回) 全食協病理部会 (68 回) 県監視員発表会 (45 回) 県獣医学会 (45 回) 獣医学術九州地区学会 全食協病理部会 (69 回) 九食協大会 (43 回) 全国食肉衛生技術研修会	沖縄本島内と畜場で分離された豚由来 <i>Salmonella</i> Choleraesuis の疫学的特徴 <i>Salmonella</i> Choleraesuis の迅速判定法の検討 (第 2 報) 丸焼き用豚における残留抗生物質実態調査 体表に黒色病変が認められなかった豚の悪性黒色腫 過去 4 年間に県内で分離された豚丹毒菌の血清型分布及び SpaA 遺伝子解析 当所管内で発生したマレック病の病理学的診断及び分子疫学的解析 管内認定小規模食鳥処理場の衛生状況実態調査について 採卵鶏で確認された急性細網細胞腫 (細網内皮症) 管内食鳥処理場で認められた鶏の骨髄性白血病 (第 2 報) 食鳥検査 22 年間のあゆみ 山羊の頭蓋の腫瘍 山羊の食中毒起因菌保菌調査における TA10 ブロスの有用性の検討 食肉の糞便汚染に係る調査事例 沖縄県内での流行が示唆された鶏の骨髄性白血病 2011 年に沖縄県の急性出血性結膜炎患者から分離されたコクサッキーウイルス A24 変異型の VP3、VP1、3Cpro、3Dpol 領域の遺伝子学的解析 沖縄県内での流行が示唆された鶏の骨髄性白血病 山羊の頭部 (再提出) <i>Salmonella</i> Choleraesuis PCR 検査法の改良について <i>Salmonella</i> Choleraesuis PCR 検査法の改良について	大山 み乃り (北部) 工藤 奈々 柿田 徹也 新垣 貴野 (北部) 西田 直哉 松川 国洋 (北部) 小原 海和 小田 英治 阿左美 有右 宜保 公子 阿左美 有右 仲本 佑子 望月 弥生 (北部) 阿左美 有右 仁平 稔 (北部) 阿左美 有右 阿左美 有右 工藤 奈々 工藤 奈々
平成 27 年	所内研修会 (40 回) 県監視員発表会 (46 回) 県獣医学会 (46 回) 九州獣医師大会 (64 回) 九食協大会 (44 回) 全食協病理部会 (71 回) 全国食肉衛生技術研修 全国食鳥肉衛生技術研修会	リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法 沖縄本島豚由来 <i>Salmonella</i> Choleraesuis のフルオロキノロン耐性 県内と畜場由来豚丹毒菌の血清型分布及び SpaA 遺伝子解析 (第 2 報) HPLC による血液を用いた殺鼠剤中毒試験法の検討 と畜場内カット室における監視指導の結果について 肉用鶏におけるカンピロバクターの保菌調査 食鳥処理場におけるカンピロバクター及びサルモネラ属菌の汚染実態調査 採卵鶏とプロイラーでみられる T 細胞性腫瘍の診断について 管内と畜場におけるブタのノロウイルスおよびサボウイルス感染状況調査 腫瘍形成のみられた非定型牛白血病と県内牛の BLV 遺伝子保有状況 管内認定小規模食鳥処理場の衛生状況実態調査について 丸焼き用豚における残留抗生物質実態調査 県内と畜場由来豚丹毒菌の血清型分布および SpaA 遺伝子解析 2014 年に沖縄県で発生した鶏マレック病から検出されたマレック病ウイルスの分子疫学的解析 2014 年に沖縄県で発生した鶏マレック病から検出されたマレック病ウイルスの分子疫学的解析 <i>Salmonella</i> Choleraesuis PCR 検査法の改良 (第 2 報) 採卵鶏の肝臓 高齢和牛の骨髄とリンパ節 腫瘍形成のみられた非定型牛白血病 <i>Salmonella</i> Choleraesuis PCR 検査法の改良 (第 2 報) 採卵鶏にみられた急性細網細胞腫 (細網内皮症)	仲本 佑子 大山 み乃り 西田 直哉 柿田 徹也 渡嘉敷 弥生 (北部) 杉山 英視 (北部) 佐々木 哲 服部 千夏 棚原 晶子 (北部) 川田 敬子 小原 海和 柿田 徹也 西田 直哉 仁平 稔 (北部) 仁平 稔 (北部) 仲本 佑子 服部 千夏 川田 敬子 川田 敬子 仲本 佑子 服部 千夏
平成 28 年	所内研修会 (41 回)	フルオロキノロン耐性 <i>Salmonella</i> Choleraesuis における耐性化の解析 リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法 (第 2 報)	大山 み乃り 仲本 佑子

平成 28 年	<p>所内研修会 (41 回)</p> <p>全食協病理部会 (72 回)</p> <p>県獣医学会 (47 回)</p> <p>県監視員発表会 (47 回)</p> <p>九食協大会 (45 回)</p> <p>全食協病理部会 (73 回)</p> <p>全国食肉衛生技術研修会</p>	<p>豚の疣贅性心内膜炎由来 <i>Streptococcus suis</i> の性状解析</p> <p>管内と畜場に搬入されたイノブタにおける E 型肝炎ウイルスの保有状況調査</p> <p>管内と畜場におけるブタのノロウイルスおよびサボウイルス感染状況調査 (第 2 報)</p> <p>と畜検査における牛白血病の発生状況について</p> <p>平滑筋肉腫との鑑別に苦慮した牛の筋線維芽細胞肉腫</p> <p>食鳥処理場における死鳥数増加に伴う対応事例について</p> <p>肉用鶏におけるカンピロバクターの保菌調査 (第 2 報)</p> <p>牛の大腿部および肝臓の腫瘍</p> <p>沖縄本島豚由来 <i>Salmonella Choleraesuis</i> のフルオロキノロン耐性</p> <p>食鳥処理場におけるカンピロバクター及びサルモネラ属菌の汚染実態調査</p> <p>HPLC による血液を用いた抗血液凝固系殺鼠剤中毒検査法の検討</p> <p>リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法</p> <p>牛の大腿部および肝臓の腫瘍</p> <p>リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法</p>	<p>西野 珠美</p> <p>今井 隆之 (北部)</p> <p>玉代勢 且子 (北部)</p> <p>宜保 公子</p> <p>川田 敬子</p> <p>宮平 誠人</p> <p>松岡 弘毅 (北部)</p> <p>川田 敬子</p> <p>大山 み乃り</p> <p>佐々木 哲</p> <p>上原 美智代</p> <p>仲本 佑子</p> <p>川田 敬子</p> <p>仲本 佑子</p>
平成 29 年	<p>所内研修会 (42 回)</p> <p>県監視員発表会 (48 回)</p> <p>九州獣医師大会 (66 回)</p> <p>九食協大会 (46 回)</p>	<p>豚疣贅性心内膜炎を伴う敗血症の発生状況調査</p> <p>家畜における <i>Escherichia albertii</i> 保菌状況調査と分離株の解析</p> <p>ブロイラーにおける基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (ESBL) 産生菌の保有状況</p> <p>管内と畜場に搬入されたイノブタにおける E 型肝炎ウイルスの保有状況調査 (第 2 報)</p> <p>リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法 (第 3 報)</p> <p>一斉試験法 I 及び QuEChERS 法を応用した殺鼠剤検査法の検討</p> <p>豚の食用血液採取工程における HACCP による衛生管理の導入支援</p> <p>食鳥処理場における肝臓廃棄削減への取り組み</p> <p>肉用鶏におけるカンピロバクターの保菌調査</p> <p>沖縄県内のと畜場に搬入された豚由来 <i>Salmonella Choleraesuis</i> のフルオロキノロン耐性</p> <p>リアルタイム PCR による関節炎型豚丹毒の迅速診断法 (第 2 報)</p>	<p>宮嶋 海</p> <p>比嘉 万理子</p> <p>大山 み乃り</p> <p>高橋 まりこ (北部)</p> <p>宮本 雄二郎</p> <p>上原 美智代</p> <p>小原 海和 (北部)</p> <p>松岡 弘毅 (北部)</p> <p>松岡 弘毅 (北部)</p> <p>大山 み乃り</p> <p>宮本 雄二郎</p>
平成 30 年	<p>所内研修会 (43 回)</p> <p>県監視員発表会 (49 回)</p> <p>県獣医学会 (48 回)</p> <p>獣医九州地区学会 (67 回)</p> <p>九食協大会 (47 回)</p> <p>全国食肉衛生研究発表会</p> <p>県獣医学会 (48 回)</p> <p>全食協病理部会 (75 回)</p>	<p>中央食肉衛生検査所のホームページを活用した情報発信</p> <p>県内で初めて HACCP に基づく衛生管理を導入したと畜場への対応</p> <p>食鳥処理工程の衛生管理の評価における腸球菌の有用性の検討</p> <p>肉用鶏における <i>Escherichia albertii</i> 保菌状況調査と分離株の解析</p> <p>と畜場搬入豚から分離した豚丹毒菌の性状解析</p> <p>牛の敗血症の 2 症例から分離された <i>Helicobacter ovis</i></p> <p>と畜場搬入豚におけるサルモネラ 4:i:-分離状況と変異型別</p> <p>免疫組織化学染色を用いたサルモネラ属菌検出の検討</p> <p>牛白血病迅速診断法の検討</p> <p>牛の顆粒膜細胞腫</p> <p>残留抗生物質検査に用いる <i>Bacillus cereus</i> 平板の試験菌混合用培地の検討</p> <p>家畜における <i>Escherichia albertii</i> 保菌状況調査と分離株の解析</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>豚の <i>Streptococcus suis</i> 敗血症の発生状況と菌株の性状解析</p> <p>牛の卵巣腫瘍</p>	<p>加藤 峰史</p> <p>浅岡 佑太</p> <p>向井 晴奈 (北部)</p> <p>岡野 祥</p> <p>西野 珠美</p> <p>尾内 桃子</p> <p>我喜屋 利紀</p> <p>園村 虎太</p> <p>比嘉 万理子</p> <p>具志堅 萌子 (北部)</p> <p>香澤 史絵</p> <p>比嘉 万理子</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>〃</p> <p>岡野 祥</p> <p>具志堅 萌子 (北部)</p>
令和元年	<p>県監視員発表会 (50 回)</p> <p>県獣医学会 (第 49 回)</p> <p>九食協大会 (48 回)</p>	<p>肉用鶏における <i>Escherichia albertii</i> 保菌状況調査と分離株の解析</p> <p>地方病性牛白血病迅速診断法の検討</p> <p>〃</p>	<p>加藤 峰史</p> <p>小田 英治</p> <p>〃</p>
令和 2 年	<p>所内研修会 (44 回)</p> <p>九食協大会 (49 回:書面)</p> <p>全食協病理部会 (75 回:書面)</p>	<p>豚の筋肉を用いた殺鼠剤検査法の検討</p> <p>管内大規模食鳥処理施設の肉用鶏で多数摘発したマレック病の疫学的解析</p> <p>敗血症の豚から検出された豚サーコウイルス 2 型</p> <p>豚の疣贅性心内膜炎の 2 症例から分離された <i>Clostridium</i> 属菌</p> <p>高度の黄疸とリンパ腫の併発を疑った豚の一症例</p> <p>豚の皮膚病変アトラス作成の試み</p> <p>豚熱対応マニュアル作成への取り組み</p> <p>豚処理施設における外部検証について (第 1 報)</p> <p>牛及び山羊痒疹症の発生状況</p> <p>山羊の脂肪組織</p>	<p>園村 虎太</p> <p>西田 直哉 (北部)</p> <p>加藤 峰史</p> <p>尾内 桃子</p> <p>下地 康大 (北部)</p> <p>岡峰 友恵</p> <p>照屋 理沙</p> <p>向井 晴奈</p> <p>加藤 峰史</p> <p>服部 千夏</p>
令和 3 年	<p>所内研修会 (45 回)</p> <p>九食協大会 (50 回:書面)</p> <p>全食協理化学部会 (書面)</p> <p>全食協病理部会 (書面)</p>	<p>管内と畜場の豚丹毒発生状況における収束要因の検討</p> <p>豚および成鶏における <i>Brachyspira pilosicoli</i> の保菌調査</p> <p>食鳥処理場における耐熱性ウェルシュ菌の保有状況調査</p> <p>管内大規模食鳥処理施設で多数摘発したマレック病の疫学的解析 (第 2 報)</p> <p>豚サーコウイルス 2 型の関与を疑う 1 症例</p> <p>豚トキソプラズマ症の肺を中心とした病変検索</p> <p>豚の悪性黒色腫の病理学的検討</p> <p>山羊の肝門リンパ節近位にみられた腫瘍</p> <p>と畜場附属食肉処理業施設における食品衛生監視指導の取組み</p> <p>豚の皮膚病変カラーアトラス作成の試み</p> <p>豚の筋肉を用いた殺鼠剤検査法の検討</p> <p>山羊の肝臓の腫瘍</p>	<p>加藤 峰史</p> <p>照屋 理沙</p> <p>尾内 桃子</p> <p>西田 直哉 (北部)</p> <p>岡峰 友恵</p> <p>宇野 耶衣</p> <p>下地 康大 (北部)</p> <p>具志堅 萌子</p> <p>太田 佑子</p> <p>岡峰 友恵</p> <p>園村 虎太</p> <p>具志堅 萌子</p>

令和4年	食肉食鳥肉衛生研究発表会 獣医学術九州地区学会	豚トキソプラズマ症の肺を中心とした病変検索 豚および鶏における <i>Brachyspira pilosicoli</i> 保菌調査	宇野 耶衣 照屋 理沙
令和5年	所内研修会 (47回)	豚トキソプラズマ症検査における肺の実用化に向けた検討 ブロイラーにおけるサルモネラ属菌の分離状況と薬剤耐性 ブロイラーにおけるカンピロバクター属菌の分離状況と薬剤耐性 豚の腎臓にみられた結節性多発性動脈炎 大規模食鳥処理場における外部検証の実施状況	田口 史門 羽賀 沢子 (北部) 仲松 耕平 (北部) 小西 樹新 仲村 清崇

3. 歴代所長

沖縄県中央食肉衛生検査所

	氏名	任期
初代 所長	饒平名 知市	昭和49年04月～昭和52年03月
2代 //	金城 永三	昭和52年04月～昭和55年03月
3代 //	山城 英文	昭和55年04月～昭和62年03月
4代 //	仲田 安雄	昭和62年04月～昭和63年08月
5代 //	大城 孝喜	昭和63年08月～平成08年03月
6代 //	大城 信雄	平成08年04月～平成10年03月
7代 //	大城 章信	平成10年04月～平成12年03月
8代 //	比嘉 次郎	平成12年04月～平成16年03月
9代 //	平川 宗隆	平成16年04月～平成18年03月
10代 //	長田 悦朗	平成18年04月～平成19年03月
11代 //	渡口 政司	平成19年04月～平成23年03月
12代 //	與那原 良克	平成23年04月～平成26年03月
13代 //	大野 明美	平成26年04月～平成29年03月
14代 //	與那原 良克	平成29年04月～平成31年03月
15代 //	富永 正哉	平成31年04月～令和04年03月
16代 //	大城 哲也	令和04年04月～

沖縄県北部食肉衛生検査所

	氏名	任期
初代 支所長	大城 章信	昭和49年04月～昭和53年03月
2代 //	花城 康永	昭和53年04月～昭和58年03月
3代 //	宮城 康夫	昭和58年04月～昭和60年03月
4代 //	新城 幸英	昭和60年04月～昭和62年03月
5代 //	大城 孝喜	昭和62年04月～昭和63年08月
6代 //	屋比久 進	昭和63年04月～平成05年03月
7代 //	幸喜 吉信	平成05年04月～平成06年03月
初代 所長	幸喜 吉信	平成06年04月～平成10年03月
2代 //	大城 章信	平成10年04月～平成10年07月
3代 //	城間 秀栄	平成10年07月～平成13年03月
4代 //	喜久嶺 政男	平成13年04月～平成15年03月
5代 //	比嘉 健俊	平成15年04月～平成17年03月
6代 //	中島 秀人	平成17年04月～平成20年03月
7代 //	長田 悦朗	平成20年04月～平成22年03月
8代 //	新里 武則	平成22年04月～平成25年03月
9代 //	平安 常寛	平成25年04月～平成29年03月
10代 //	大野 惇	平成29年04月～平成30年03月
11代 //	田端 亜樹	平成30年04月～令和03年03月
12代 //	大瀨 尚子	令和03年04月～令和05年03月
13代 //	新垣 衡	令和05年04月～

令和5年度 事業概要

発行日：令和6年11月

発行者：沖縄県中央食肉衛生検査所

〒901-1202 南城市大里字大里 2015

TEL 098-945-3000 / FAX 098-946-2690

xx024110@pref.okinawa.lg.jp

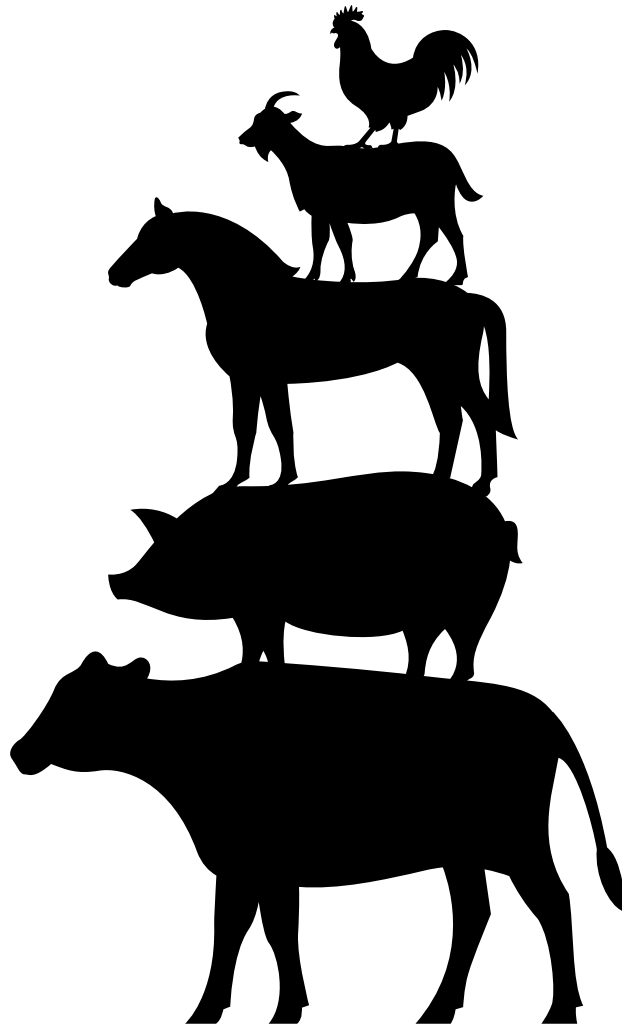
沖縄県北部食肉衛生検査所

〒905-0015 名護市大南 1-13-11

TEL 0980-52-1165 / FAX 0980-52-3791

xx024120@pref.okinawa.lg.jp

印刷所：印刷センターテル



ANNIVERSARY 50TH